禪林叢書

108
26

禪第

道元禪師和歌集　全壹卷

法燈國師法語　全壹卷

居士分燈録　全貳卷

108
26

東京圖書館
門 類 一〇八 函 架 二六 號 冊

例言

この編には、居士分燈錄二卷、法燈國師法語一卷および傘松道詠一卷を收む。分燈錄は、明の崇禎五年、雲間の朱時恩の著はしたる所にして、西土の維摩詰に本まり、明の宋學士に末ふ、總べて七十有二人の師承機緣を記して太た詳なれば、禪門の學者には大に益あるべし。されど周濂溪、朱晦庵、眞西山などをもて分燈の人となしたるはいかにや。佛在庵義諦も之を論して、恩が迂濶は遙に會稽泰公の金湯篇に韓昌黎、程明道、程伊川等を載せ加へたるよりも甚しといひぬ。法燈法語は、すなはち由良の開山法燈國師が其の參徒に與へられたる幻藥なり。正保二年九月開雕の書に依りて校しき。傘松道詠は、永平寺の開山道元和尚の歌を集めたるものなり。この書は、延享三年、若州小濱永福庵の面山老人が校定しけるものなれど、いまだ玉石混淆の譏をまぬられず。敎外別傳、

應無所住而生其心、無常なとの歌數首をのぞくの外は、おほむねみないたく見れとりて、道元和尚の咏みしものとハうけかひうたし。おもふに後人の贋作ならむ。洞上の具眼者ハ、或ハ余のこの言を點頭するならむか。

丁酉の六月二十五日。

森　大狂志るす

由良開山法燈國師法語

森　大狂校

夫以みれは、一生は是夢の如く、萬事ハ皆幻に似たり、厭ふへき者ハ生死の苦、悲むへき者は自心の迷なり。身に生死あれとも、生死の根を知らず、心に妄念おこれとも妄念の源を辨へず、無明長夜の闇にハ智惠の光を以て燈とす、生死煩惱の病には、正法の藥を以て是を療す。永く六道の苦をはなるゝことを得んと思ハゝ、必らず信心堅固の力を勵ますへし。自心の迷を免れんと思ハゝ、自心偏へに悟るへし。自心を知るが故に法界を得べし、自心を知るを智者とし、佛と名くるなり。如來の教法も、直に自心を知らしめんとなり。然るに學道の人自心の佛を知らずして、外に向て法を求むること、火を以て火を求め、水を以て水を尋ぬるが如し。葉を

摘み枝を尋ねて、久しく苦を受ることなかれ。直に自心の源を見るべし、即ちこれ佛なり。今諸の愚痴の人を敎化せんがために、經論の要文を扣て此の如く書きあらはす所なり。是を信じ是を行ずれは、悟りを得ること、掌を指るが如し。夫佛の敎文弘しと云へども、自心悟を得るに過るはなし。萬行の本なるが故に、諸行の中に坐禪の行最も勝れたりとす。大安樂の行なるが故に、上根上智によらず、下根下智を棄てず、只深く信ずる人を貴しとす。仍て十一件の事を書き連ねて、先つ無常をすゝめて菩提心を發さしめ、坐禪の行ををしへて、自已の心を悟らしめんとす。願くへ諸人、心を靜めて切に見窮むべし。若し能く信する者ハ、一句一文皆出離の要道なり。信ぜざればゞ、其のかひなし。眞實に信ずれば、諸の功德を增長し、諸の善根を長養するなり。

一 無常之事　二 衆生顛倒之事
三 身始終之事　四 衆生父母兄弟之事
五 齋戒功德之事　六 雖受人身難逢佛敎事
七 自他心同事　八 一切衆生佛性之事
九 諸敎中宗門勝事　十 公案之事
十一 坐禪之事

第一 無常之事

忉利天上の億千歲のたのしみ、大梵天王の四禪定のたのしみも、猶三途の苦をまぬかれず、釋迦如來三十二相の尊形も、終にハ沙羅双樹の烟と隱れたまふ、四生の群類さらに無常をまぬかれず、誰人かのがれんや。位たかけれども、無常を知て生死を厭ふ。いへんや貧賤孤獨の身、何事に耽てか菩提を求めざる。夫有爲のたのしみはありなきも、法界にあまねからず、愚なるうな、夢の中のたのしみを得んがために、山に入り海を渡て身を碎けども、後生の

ためには、暫時の隙も費さず、終に定る習なれば、死して獨り去るとき後悔すとも何の益かあらん。藏したくはへ收めおくこと、心に未だたらず、冥々として獨り行くとき、誰かこの罪を救へん、儲くる所の財物、いたづらに他人の物となりて、一つも身に隨はず。故に經に云はく、妻子珍寶及王位、臨命終時無隨者、唯戒及施不放逸。今世後世爲伴侶。夫世間の無常を思へは、生ずる者は必ず滅し、會者は定めて離る、始あれは終りあり、昨は富て而も貴く、今日は貧しくして且つ賤し。朝に生れて暮に死す、流るゝ水少時も住まらず、熾なる火も終にはきゆることあり。日朝に出て夕に入る、月上て又沒す。物として常住なるものなし。命は死のために生る、然るに山にのぼり海に入り岩窟にかくれ、無常の上使をまぬかれんとせし仙人神通ありと云へども、猶無常の便を隔ることなし。故に無常の殺鬼は、貴賤高下をえらばず、悲いかな、今野原に送らるゝこと、今日にやあらん、明日にやあらんと疑はる。されは止觀に云はく、出息は入息を待たず、入息は出息を待たずと云々。身のあだなることを思へは、朽ちたる家の如し、命の柱自らたほれんとす。無常の風一度あふがんに、如何保つことを得んや。故に佛の言はく、風前の燈の如く、風前の芭蕉の如く、夢の如く幻の如く、泡の如く影の如く、露の如く電の如しと。然れは三十四十の陰、知らざるに早くすぎ、五十六十の壽、覺えざるに速に來る。又病の床にふすときは、妻子眷屬圍遶して看病すると云へども、病にかはつて助くる者なし。すでに死せんとするとき、只我が便りなきことをのみ悲み、或はゆづりものを得んかために近つく者もあり、或はゆづりものゝ多少を論ずる者もあり、或はゆづりものゝ少きことを恨むるものもあり。こゝを以て是を思ふに、人の親疎は財の有無による、貧賤孤獨の者を誰人か親まんや。誠に妻子眷屬一

切の財寶は後世のあだなり。故に財寶は甘き毒、貯ゆる者は、正路に迷て身を損す、妻子は和かなる鈎鎖、志はられて悪道におちて苦を受く、徒らに妻子を養はんがために、其罪を造る。故に遂に地獄におつと云へり。妻子は生處をしらず見ざるがゆゑに、助くることなし、山野の禽獸ゑたしきてとを知らず。故に契るべきは、大悲菩薩の聖者、憑むべきは、一生坐禪の行力なり。凡夫の友は、只一期の程、後生の盟にあらず。榮へ樂むときは、疎人も親しくなり、衰へ貧きときは、親しき人も疎くなる。何に況や死して悪趣に赴くとき、誰人か親み扶けん。前後に音信るものは、獄卒の悪き聲、左右に目に見るものは、地獄の猛火なり。此において、天に仰き地に伏して叫び喚へども、扶くる者なし。此時獄卒、罪人に向て云はく、我汝に罪をあたふることなし、又他人、汝に罪を加ることなし、只己か罪自ら己をせむるなり、悪心是第一の寃敵なり。此間尤も悪とす、我を恨むることなかれと云へり。鐵の觜ある鳥來て、罪人の目をぬきくらふ、そのとき罪人、鳥に向て云はく、汝娑婆に在りし時、常に見なれしものなるが、何ぞ我を扶けざると云ふ。鳥云はく、我娑婆にありし時、是をすゝめざるや、後世の報を知らず、只徒らに睡眠す、眠の源を知りわきまへず、苦を以て樂とし、樂を以て苦とす、凡そ世間の凡夫は、婬酒を以て樂とす。咄哉、食酒肉犯女人是第一樂とす。經に云はく、女人は地獄の使なり、世間の人を縛め地獄に落すと云へり。女人住する處には、地獄ありと云へり。又云はく、三悪道も女人を源とすと云へり。又云はく、女人は、是一切悪道の源なりと云へり。又云はく、諸苦所因貪慾爲本と云へり。眞に是樂にあらず、却て苦の因なり。只偏に心まどへるによつてなり。恐るべし／＼、又酒は迷亂起罪の本なりと云へり。諸過を犯す源、戒を破る根本也。五逆十悪を造ること、只酒狂に依てなり。故に佛殊に

制し玉へり。

第二　衆生顚倒之事

衆生顚倒して已に迷ふ、故に婬酒を以て樂とす。凡夫の樂む所ハみな顚倒なり。願くハ諸人有爲轉變の苦相を棄て、無爲安樂の佛道をねがふべし。良藥は口に苦しと云へども、病根平愈し、毒藥ハ口に甘しと云へども身命を損害す。故に知ぬ世間の五欲ハ樂しと云へども、地ごくに墮て出期なし。佛道修行は苦に似たれども、極樂に生して自在を得。故に雪山童子は、半偈を聞かんがために身を投げ、常啼菩薩は、般若を求めて肝を割く。藥王菩薩ハ臂を截て諸佛に供養す。聖者すら伺らくの如し、況や凡夫の身においてをや。心あらん人ハ、官位を退き、妻子をそて、財寶を抛て佛道をねがふべし。然れは諸の雜言戲笑を除て、偏に念佛名號を唱ふべし。

問。妻子眷屬屋宅財寶捨てがたき者如何。答。一生ハ夢の如しと云

へども、愛欲猶深し、早く無常を知て、世をいとふ心ありて、佛道に入るべしと云ふ心あれば、在家と云へども出家なり、愚なる心に引れて、夢幻虛假の世を實とすることとなられ。眠に席を安くせざれ、食に味を好むことなかれ、急々に佛道を修行すること、頭の火を掃ふが如くすべし。いたづらに光陰を送ることなかれ。一息たえて後悔するとも、何の益かあらん。金剛經云はく、如來滅後、後五百歲。有持戒修福者。於此章句。能生信心。以此爲實。當知。是人不於一佛二佛三四五佛而種善根。已於無量千萬佛所。種諸善根。聞是章句。乃至一念生淨信者と云々。我等唯偏へに懈怠の心にひかれて勤め修せざる故に、今まで凡夫の身となれり。此に知ぬ、今生も佛法に會ふと云へども懈怠の心を以て、徒らに三有に輪廻し三界を出てず、生死海裡に浮沈し、六道に沈淪し、三途八難の惡趣に墮落せんこと、偏へに悲きがな。只ねがはくは、諸人懈怠の心なく、急に

佛道を勤修すへし。懈怠の心と云ふハ、朝は夕を待ち、今日ハ明日に讓り、今年は明年にゆづる是也。かくの如く思ふは、みな魔縁の障碍なり恐るへし〳〵。況や命ハ定なし、今日にや死せん、明日にや死せん、朝の露、夕を待たず、何ぞ夕を待ち明日に讓らしや。急々に善心を修し、漸々に惡心を止むへし。精を入れて佛道を行じ、力を出して惡業を除け、惡念起れは地獄におち、善心生すれは淨土に生る。智者ハ今生の樂をいとふて後生の大苦を免る、愚者ハ今生の樂をねがふて、後生の大苦を受く、うれふべし悲しむべし。問。婬酒をたゝず世樂を好む者是多し、此等は惡趣におちて佛縁を失ふべきや。答。婬酒をたつてこは、學人の根器によるべし。故に強ちに婬酒をたつて佛果に到るにもあらず、たゝずして地獄におつべきにもあらず、愚人は婬酒をこのみ、世樂に耽着して、現在の世法を破り、未來の業果をおそれず。然れは現在には諸人辱しめ

られ、未來には獄卒にせめらる、世法をやぶらず佛法を修行せば、たとひ婬酒をたゝずこ云へども、却つて菩提の資粮なるべし。世情に違ひ佛意に背かは、たとひ婬酒をたつとも、輪廻の業因なるべし。若し人あつて根器養生、修行力量のために酒を飲み、或は濟度方便、慈悲利益あらハ、婬を行ずべし。古人云はく、無智にして智者を學ぶべからず、初心にして、功者を振まふべからず。是すなはち地獄門をいづる要道なり。

第三　身始終之事

我身の始を思へは、白骨は父の婬、赤肉は母の婬、母の精氣をくらひ、四大和合して人の姿となり、十月をへてむまれ出て、やうやく人となつて、飢れは飯をくらひ、寒けれハ衣をかさぬ、一生只かくのごとし。諸人何事をかなさん、一期なすところハ、皆衆苦の業因なり、生老病死の四苦を免れず、四大分散して各本に皈る、自他こも

は免るべきにあらず、悲むべし〳〵。

第四　一切衆生父母兄弟之事

一切衆生父母兄弟と云ふは、砂を田にうゑて、稲を得んとおもふが如し。曾て生ずべからず。父母は陰陽の二なり、男女を云はず、陰魂陽魄と云ふ。神人、人の肉身に在るなり。前生の佛縁の浅深によつて、男女のへだてあるなり。佛縁の深きは男と生れ、佛縁の浅きは女と生る。これを以て、過去未來の果報をしるべし。千世、縁あつて夫妻となり、五百世、縁あつて兄弟となる。三世の機縁ふかくして君臣師弟となる。君臣師弟の縁は、親子兄弟夫妻よりもふかき縁なり。現在に親切の心あるは、前生の夫妻親子兄弟なり。諸縁の中に師弟の縁殊にふかきことは、文字をならひ智惠あるによつてなり。文字は諸佛の名、智惠は諸佛の母なり。是によつて、師弟の縁殊にふかきなり。何に況や佛法を學ぶる師弟なるをや。志ある

人は、よく〳〵心得べきなり。

第五　齋戒功徳之事

人として戒を授からざる者は、みな第六天の魔王の眷屬なるべし。經に云はく、衆生佛戒を得は、位諸佛に同じ、眞の佛子なり。又云はく、若し齋戒をたもつ人あらば、帝釋諸の眷屬と共に娑婆世界に來て、持齋の人を守護したまふ。殊に六齋日をかたく持つべし。其ゆゑに帝釋諸天等、夜叉神を具して、閻浮提に下て我等をまもりたまふ。若し人持戒持齋の者あれば、帝釋よろこびたまひて、此人をよくまもりたまふ。災難をのぞき、福徳をあたへたまふ。若し復た齋日に戒をも持たず、齋をも持たず、諸惡をなす人をば、帝釋にくみたまひて、災難をなす。最も愼むべし。六齋功徳精進經に云はく、若し人卯時持齋すれば、八萬劫の糧を得、辰の時持齋すれば、六萬劫のかてを得、午の時持齋をれば、六十萬歳のかてを得、乃至

功德無量なり。梵網經そのほか諸部の毘尼藏に詳なり。受戒持戒ハ、人の根器に應ずべし。或ハ一戒二戒、或ハ五戒十戒、乃至具足戒も機根に依てうくべし。或ハ一日二日五日十日、或ハ一月二月一年二年、乃至盡形壽、盡未來際、機に應じてたもつべし。身命さだめなし、急々に受持すべし。

第六　雖受人身難逢佛敎事

舍利弗、佛に白してまをさく、群生の中、人界にむまるゝこと幾ばくかある。佛爪の上に土をついて言はく、人界に生るゝことは、爪の上の土のごとし。三途におつる者ハ、十方世界の土のごとし。たとへバ梵天より糸を下して、大海の底にあらん針のあなに貫くよりも難し。又大海に盲龜あり、海上の浮木、風に隨て東西するに、浮木の穴にたづねあたるよりも難し。たま〳〵人身を受ると云へども、佛敎にあふことハ猶かたきなり。受けがたきハ人身、あひがたきハ如來の敎法なり。經に云はく、人身を受くと云へども、男子に生るゝこと難し。善根多しと云へども、佛敎にあふことかたし。佛法修行すれども、佛法を悟ることかたし。今已に幸に受けがたき人身をうけ、逢ひがたき佛敎にあふことを得たり。今生につとめはげまずんば、未來永劫、何の時か佛果を得ん、空しく三途の舊里に皈ること、譬は寶の山にのぼつて、空しく皈るがごとし。然るに諸佛菩薩三十二相を現し、或ハ和光同塵し、或ハ親となり子となり、影の形に隨ふが如く、我等をすゝめたまへども、見たてまつらず、譬は生れながらの盲目の子の、親の像を見ざるが如し。かなしいかな。我等佛の廣大慈悲の恩德をしらず、金言實語にそむくこと、恥づべし〳〵。

第七　自他心平等之事

一切衆生大小異と云へども、其心全く差別なし。問。人の心千差萬

別なり。況や一切衆生何ぞ同じからんや。答。器を取て水を盛るに、方圓大小長短の器に隨ひ、衆色に順するなり。或ハ月の光、壁のひまより照す光ハ小なり、隙の大小に隨て光も大小あり、水上に浮べる月、水の大小に隨つて影差別あり。自他心平等なること、是を以てしるべし。

第八　一切衆生有佛性事

經に云はく、一佛及衆生。是三無差別。問。何ぞ等しきや。答て云はく、佛心は明なる鏡の如し。衆生心ハ曇れる鏡の如し。鏡の像は一つなりと云へども妄想の塵に覆はるる故に衆生と名く、妄塵なきを佛と名く、若し人心佛衆生一つなることを知て、一念飜せバ、則ち是佛なり。故に人我心をさゝらずして、外に向て佛を求めば、火を以て火を求め、牛にのつて牛を尋るが如し。身をはなれて佛を求ることとなあれ。譬ハ王の子、惡き乳母にすかし出されて、賤き民

に交つて、久しくいなかに住するに、若し知人あつて云ハく、汝ハ王子なり、賤き民に交ていなかにゐることなかれと云ハんに、王の子にはかに驚て、いやしき民の振舞をせず、即ち上洛して内裏に坐するが如し。釋迦如來、我らか迷ふことを知りたまひて、衆生即ち佛なりとねんごろに說きたまふに、何ぞ驚かざらん。

第九　諸行中宗門勝事

八萬四千の法門廣しと云へども、皆是佛の實語なり。八萬の細行、一切の戒律、皆是佛の威儀なり。今此禪門は、佛心宗是なり、最上乘の法也。我等衆生に生死の一大事を知らしめんがために、釋尊世に出でたまふ。經に云ハく、唯以二一大事因緣一故出二現於世一と。釋尊一期の間、衆生即ち佛と說きたまへり。或は苦ととき樂とときき、或は有とときき無ととき、或は常住ととき無常とときたまふ。然れども、凡夫ハ終に悟らす、入涅槃の時、一枝の花を拈して大衆に示した

まふ、唯迦葉尊者のみ佛心を會得して破顏微笑す。迦葉尊者妙心を得てより、次第に以心傳心、的々相承、血脉不斷、第二十八世達磨大師、天竺より唐土に渡りたまひて、此宗を弘傳したまふ。惠能大師に至るまで三十三祖なり。爾來、日本國に此宗弘まり、盛に是を行じて悟を得る人、そのかずをしらず。然れば是萬法の根本なり、一切の法門是より出てたる故に、若し人此心を明むれば萬法明なり。此心に迷ふ者を衆生と名け、此心を悟る者を佛と名く。古人云はく、心即是佛、佛即是心、心佛如々にして、古に亘り今に亘ると。實に知ぬ、是心是佛なることを。此心遠きにあらず、他人の力をからず、自ら知るべし、佛果に至らんと思へど、能くこれを見へし。

第十[illegible]　公案之事

公案と云ふは、父母未生前本來の面目、無の字、又面々回光返照、是の如くの公案多しと云へども、只同意なるべし。全く替るべからず。坐禪の時、父母未生前本來の我面目と云ふ公案を見るべし。父母未生前の面目は、さて如何樣なる者ぞと、深く尋ねみるべし。若し人此公案を深く信ずれば、必ず悟を得べし。問、父母未生前の本來の面目をしらず、如何樣ならんと疑ふを公案と云ふか。答。一あれば二あり、二あれば三あり、是何事ぞと、心を靜めて心の中に見るべし。是を公案と云ふ。譬ば國王の宣旨を机の上に置て國政を行ふに、若し國中に明めがたき事あれば、彼の公案のある所に付てうたかひを明むるなり。彼の公案の名を取て、此父母未生以前本來の面目、無の字なんどの名に付けたり。我心いふやうなる者とも知れざる疑を、公案によせて明め見るなり。坐禪に公案を拈提せざれば、盲目の杖を失ふて、一歩もゆくことを得ざるが如し。又云はく、人坐禪公案工夫をなす事、晝三度、夜三度勤むべし。譬ば畝の家に入て起臥をするが如くにすべし、心を許すことなかれ、

第十一　坐禪之事

坐禪には、先づあつく坐物をしき、ゆるく坐し、身を端しくして坐し、背をすぐに竪て、右の足を左の股の上に安き、左の足を右の股の上に安くべし。是を結跏趺坐と云ふ。又半跏と云ふは、右の足はかりを左の股の上におくなり。左の掌を右の掌の上に安き、大指をさし合すべし。是を法界定印と云ふ。前に傾かず、後に傾かず、左右に靠りかゝらず、目を半分開て前三尺を見、鼻の頭を守るべし。鼻と臍と對し、耳と肩と對して坐定すべし。心の用樣は、父母未生以前の面目は如何やうなる物ぞ、又我身の終ての後は如何樣なるぞとよく／＼是をたづね見るべし。かくの如く念ずるを、公案とも、工夫とも云ふなり。心昏くしづむことなかれ、又散しみだすてとなかれ。是を昏沈散亂の二病と云ふなり。又茫然としてうつうとなることなかれ。是を無記心と云ふなり。只偏に父母未生以前の面目は、さていかんとふかくうたがふべし。若し分別の心を以て、是は面目、是は面目にあらずと思量するものは、みな邪解なり。眞の面目にあらず、譬は夢の中に是非を辨ふるが如し、ゆめなるか故に、是も非も實なし。只十二時中深くうたがふべし。問ふて云はく、本來の面目を計校思量して、道理を辨別すれは、情識の分別ときらふなり。若し此心をはなれて用心すれは、此面目のうたがひ胸にふさがり、心のやるかたなく、胸燒くが如くにして、身あたゝうになる、是如何。答。善うなや、汝左樣によく行せは、必ず明むることを得べし。いるかせにすることなかれ。此において力を着けば、必ず生死の海を超え、輪廻の道斷え、長夜の闇破れ、六慾の風治まり、煩惱の眠驚き、妄想の夢覺め、無明の雲晴れ、眞如の月明なるべし。若し心を以て計校して悟らんと思ふ者は、皆地獄の業因なり。若し自ら生死を明め得たらは、彌々急に行すべし、清淨の處に

住し、閑靜の處に居し、深山空谷に住すべし。古人の云はく、法を得ることハ易く、法を守ること難しと。得悟の後廿年卅年、深き山に入て得たる所の法を長養すべし。譬ば鳥の卵をうみて、漸く温めて育ひたてゝ後に、空をかけるが如し。何ぞ今の人、纔かに心得ることあれバ、法を知りたると思ふや。聖賢の人あつて問ふ時は、心を以て是をはかつて、他人のそしりを免れ得んとす、是大邪見の人なり。只螢火を指して日月となすが如し。地ごくに入ること矢の如し。三世の諸佛も救ひ難きものなり。たとひ法を說くことありとも、自他の非をしらずんば、眞にこれ佛法を破滅すべき人なり。おそるべし〱。只自身の過をあらたむべし。他人の非を見るべからず。生死事大、無常迅速、急々に修行すべし。頭の火を拂ふが如くにすべし。徒らに光陰を送ることなかれ。問。我等凡夫、坐禪かなひがたし、只心のうたがひはかりに指向て、佛の名をとなへ、經陀羅尼を誦して日夜を送らんや。答。寶を求めんがために、山をこえ海をわたる人も、誰か是寶を得るや、只一つの利を得んがために、百千の煩を顧みず。何に况や此行ハ、一念の中に無量の罪を滅するごき、自性のもたしきことを知るなり。一念なりとも此法を信ずれば、佛にしたしき者なり。いかに况や能く信じ能く行ずる者をや。信力よわく行力よわき者ハ、何なる善根なりともかなひがたし。然れば、諸法の中に禪門最も勝れたり。佛心宗なるがゆゑに、諸行の中に坐禪最も勝れたり、大安樂の行なるがゆゑに。顯密の二教は、教內の法。禪門の一宗は、教外の宗なり。今已に此法に遇ふこと、幸の中の幸、悅の中の懌なり。誰人か信ぜざらんや。

法燈國師坐禪儀

先づ初心の人ハ、念起坐禪と云ふことを心得べし。其初をよく〱見るに、晴れたる天に始めて雲の起るが如し。總て其由來なし、只

晴れたる虚空の如し。譬は眞心は虚空の清淨なるが如し、妄念は萬像の顯るゝが如し、念は即ち体なり、大樹の根本の如し、念は即ち用なり、枝葉花菓色香に似たり、是心すべて色形なし。然れバ華嚴經に清淨法界心と說きたまふ。又三界唯一心。心外無別法と說きたまふ。又心は巧なる畫師のいろ〳〵の彩色を作すが如しと說きたまへり。一切は一心より生す、生滅の始終なし。故に有と說き無ごとく、虚空の如くなる心中より善惡の法おこるなり。十界に六凡四聖の相わかれたり、六凡とは、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人天也。四聖とハ、聲聞、緣覺、菩薩、佛也。諸法ひろしと云へども、是を過きす。皆衆生の心中よりあらはれ出るなり。心は色も形もなけれども、その念のおこるに隨つて、地獄天堂の相、菩薩佛のへだてあり。たとへは嫉妬の心ふかき女の執心がねたむ所の家へ行き蛇とあらはるゝが如し。萬念が、萬づの形を造り出して、種々の苦をうくるなり。是を以て知るべし、一切は唯心の造り出すことを。然れども念を以て生ずる法なれバ、終には滅するなり。故に云ふ、諸法は夢の如く幻に似たりと。夢幻には眞なければ、始なく終なし。外緣の境界に向て、善惡の法れこれども、起る源をたつぬれは、其實は始もなく終もなし。念の起るに隨て、十界の相あれども、滅して後ハ、夢覺て何もなきが如し。夢の事、實なけれども、天道をゆめみては悅ひたのしみ、地獄をゆめみては苦みたえかたし。念のおこるは、夢を見始るが如し。故に佛も生死ハ夢の如しと宣べたまへり。衆生ハ常に惡夢のみ見て、三途八難の苦をうくるなり。諸佛は念の起る源を知りたまひて、惡夢を見玉はず、是を無念無心と云ふ。念なけれバ生死なし、心なければ種々の法れこるとなし。此心の源をしるを、見解とも悟道とも、生死を出離するとも、解脫とも、世尊とも如來とも、成佛とも云ふなり。夢のさめさるほどハ、有

心有念と思へども、さめて見たれば、皆虚なり。佛とおもひ衆生とおもひ、悟とおもひ迷とおもひ、有とおもひ無とおもふ、其源をさとり得れば、又無念無心と云ふべきものもなし。其時始て知る虚空の如く清浄なることを。虚空は、始もなく終もなく、又中間もなし、無の中にハ清浄もなく、垢穢もなし、法として取定むべきものなし、只虚空の中に日月のあらはれたるが如し。萬物は眞の法にはあらず、本來歴然として有なり、是を古人如何か是佛法と問へは、庭前の栢樹子と答へ、又柳は緑花は紅とも答へたり。左有れバとて、是こそ佛法よととりさだむべき法なし。然れば古人把定せんとすれば、雲谷口に横はり、放行せんとすれば、月寒潭に落つと云へり。かくの如き事を我とうたがひなきやうに見明めんと思ひ、志深き人を、道心者とも佛法者とも、禪門とも入道とも坐禪者とも云ふなり。是の如く志深き人は、萬人が中に一人も少なるべし。此うたがひ破れざる人を、凡夫とも愚者とも、生死に流轉すとも云へり。かなしきかな、明日を知らぬ身ををしみて、永く生死の闇に迷ひ、いつを限りと云ふ事もなく、六趣の夢をのみ見居たること誠に愚なるかな。然れば、釋尊は位をすてゝ此法をさとりたまふ、達磨は寳珠を捧て此法を明め、惠可は雪にたち臂をきつて、此理を得たり。志ふかければ、刹那にあきらむる事なり。生々世々、寳を惜みて、今まで生死の闇はれず、此たび佛法にあひ知識に逢ふとき、身命財をすてず、世上の營のみ作さば、永劫多生、又此の如くならん、愼むべし。坐禪のおもむき、大方これに過ぐべからず、只生死の疑をひらかんこと道心のあるとなきとのかへりなり、男女によらず、貴賤をえらばず、只身をすてゝ此大事を勤むべき志だにあらば、悟を得ることは、掌を返すが如くなるべし。悟りがたきことを歎くべからず。曠劫多生の間、志あさく道心おこらさる

こゝを歎くべし。我心ながら、拙きかな口惜きかな、如何せん、誰をうらみん。願くハ世路をすて道心をおこすべし。此を思へ〱

由良開山法燈國師法語終

傘松道詠序

傘松曩祖之道詠也門下着席抄錄行卷者不少而三豕頗多余久痛之從事於考讎而文字幾乎全矣古言咏唾落九天隨風生珠玉憶曩祖之片言隻字亦如髻珠領寶而不易獲於今之世也是故壽梓布之同志若有人纔咀詠一首以諳道味則八萬法藏之起盡亦豈外于此哉嗚呼人也鮮矣延享三年八月角宿日遠孫若之

吉祥林永福禪庵沙門面山瑞方拜題

傘松祖師自賛

覿面出身瞎驢頂顊横行天下
兮作馬牛霹靂大虚兮超人境
雖喚備作村僧眞箇帝郷正命

傘松道詠

森　大狂　校

寛元三年九月二十五日初雪の一尺はかり降りける時

長月の紅葉のうへに雪ふりぬ
　見る人誰かてこの葉のなき

寶治元年相州鎌倉に在しして最明寺道崇禪門の請によりて題詠十首

教外別傳

あら磯の波もえよせぬ高岩に
　かきもつくへきのりならはこそ

不立文字

いひ捨しその言の葉の外なれは
　筆にも跡をとゝめざりけり

正法眼藏

波も引風もつなかぬ捨小舟
月こそ夜半のさかりなりけれ

涅槃妙心

いつもたゝ我ふる里の花なれは
色もかはらす過し春かな

本來面目

春は花夏ほとゝきす秋は月
冬雪さえて冷しかりけり

即心即佛

おし鳥やかもめともまた見えわかぬ
立る波間にうき沈むかな

應無所住而生其心

水鳥のゆくもかへるも跡たえて
されとも道はわすれざりけり

父母所生身即證大覺位

尋ね入る深山の奥のさとそもと
我住馴し都なりける

盡十方界眞實人體

世の中にまことの人やなかるらん
かぎりも見えぬ大空の色

靈雲見桃花

春風にほころびにけり桃の花
枝葉にのこるうたがひもなし

鏡清雨滴聲

聞くまゝにまた心なき身にしあらば

おのれなりけり軒の玉水

聲つから耳にきこゆる時しれは
我友ならんあたらひそなき

牛過窓櫺

世の中は窓より出る牛の尾の
引ぬにとまる心はかりそ

夢中說夢

本末もみな僞のつくも髮
おもひ乱るゝ夢を祉とけ

十二時中不空過

過來つる四十あまりは大空の
うさぎからすの道にぞありける

誰とても日影の駒は嫌はぬを

法の道うる人ぞすくなき

人しれすめてし心は世の中の
たゝ山賤のあきのゆふくれ

坐禪

守るとも思はすなから小山田の
いたつらならぬ僧都なりけり

頂に鵲の巣やつくるらん
眉にあこゝれるさゝうにの糸

濁りなき心の水にすむ月は
波もくだけて光こそなる

此心天つ空にも花そなふ
三世の佛に奉らはや

禮拜

冬草も見えぬ雪野のしらさきハ
おのが姿に身をかくしけり

佛教

あらたふと七の佛の古言を
學ぶに六の道を越けり

嬉しくも釋迦の御法にあふひ草
かけても外の道をふまめや

詠法華經

夜もすがら終日になす法の道
みな此經の聲とこころと

溪の響嶺に鳴く猿たえ／＼に
たゝ此經をとくと社きけ

此經の心を得れば世の中の
うりかふ聲も法をとくかハ

峰の色溪の響もみなゝなら
我釋迦牟尼の聲と姿と

四の馬三つの車にのらぬ人
實の道をいかてしらまし

草庵雜詠

とゝまらぬ日影の駒の行すゑに
のりの道うる人そすくなき

さなへとる夏のはしめの祈にハ
廣瀨龍田の祭をそする

草の庵に立ても居ても祈ること
我より先に人をわたさむ

おろかなる心ひとつの行すゑを

六の道さや人のふむらん

草の庵にねてもさめてもまをすこと
南無釋迦牟尼佛あはれひ玉へ

山深み峯にも尾にもこえたてゝ
けふもくれぬこ日ぐらしぞなく

我庵は越のしらやま冬こもり
凍も雪も雲かゝりけり

都には紅葉しぬらんおく山は
夕へも今朝もあられ降りけり

夏冬のさかひもわかぬ越のやま
降るしら雪もなる雷も

梓弓春の嵐に咲きぬらむ
峰にも尾にも花匂ひけり

あし引の山鳥の尾の長きよの
やみちへたてゝくらしけるかな

頼みこし昔あるしやゆふたすき
あはれをうけよ麻の袖にも

梓弓はるくれはつるけふの日を
引とゞめつゝをしみもやらむ

徒に過す月日はおほけれさ
道をもとむる時ぞすくなき

草の庵夏のはじめのころもかへ
すゞきすたれのかゝるはかりそ

心とて人に見すへき色ろなき
たゞ露霜のむすぶのみして

いかなるか佛といひて人とはゞ

かひやかもとれつゝくいれけり

心なき草木も秋は凋むなり
目に見たる人愁ひさらめや

をやみなく雪はふりけり谷の戸に
春來にけりと鶯そなく

六の道遠近まよふともからは
我父そかし我母そかし

賤の男の垣ねに春の立しより
古野に生る若菜をそつむ

大空に心の月をなかむるも
やみにまよひて色そめてけり

春風に我ことの葉のちりけるを
花の歌とや人の見るらん

愚なる我は佛にならすとも
衆生を渡す僧の身ならん

山のはのほのめくよひの月影に
光もうすくとふほたるかな

花紅葉冬の白雪見しことも
おもへは悔し色にめてけり

越前路より都におもむきし時木部山といふ處にて

草の葉に首途せる身の木の目山
雲に路ある心地こそすれ

無常

朝日待草葉の露のほとなきに
いそきな立そ野邊の秋風

世の中は何にたとへん水鳥の

はしふる露にやどる月影

建長五年中秋

また見んとおもひし時の秋たにも
今宵の月そねられやはする

向有好事者新出濟洞道歌一冊中載道元和尚伊呂波歌者並贋詠也後人不辨更加蛇足匪但輕弄古德且欺瞞後生爲系孫者可不辨而止哉是故附語告人具眼須必點頭焉

傘松道詠 終

居士分燈錄叙

原夫祖々遞傳灯々相續覺照均融乎惠炬靈光徧曠於昏衢故古德高縋向上參求者息無明之業影亦有夙根利器精心學佛者出生死之火輪其派本師承重來應化往々妙臻聖解默契禪宗凡七十二人歷幾千百載誰爲拈取蒐核詮評惟我友朱我沾氏學兼華梵情泯智凡心爲般若之燈足厠雲棲之席繙研釋典弘願度人謂居士身與佛原非差別見如來性逢緣不礙無生如丁繁樂宦求道張揮捨俗爲僧十地相期於馮亮三空見許於智林賦白牛於蒲菴論黄熊於子約居家學道屢見高賢倘能頓破塵樊力除見網圄圄物捨得十分方無滲漏解脫場展開一步便是菩提要使智刃飛芒心珠迸現分輝洞燭熄燼重燃斯足啓來嗣之傳薪揚祖風之衰燄矣我沾手錄繁賛名曰分燈意在斯乎意在斯乎余受而讎校披對欣然殆與往所著了義蓮宗並作迷津之寶筏頃復編佛祖綱目更溯法海之淵源從三十餘年來

飽餐道味。果爲開覺功臣。繼七十二人後。直下承當。再續分燈居士。

廣岫居士王元瑞題

居士分燈錄叙

眞如常寂而亦常照。般若無分而無不分。當其分。有合之躰。萬灯原聚一燈。當其合。有分之用。一燈條散萬燈。固非形相所可拘。亦豈識情之能測。我友心空。從性躰中。樹光明幢於正法中。燃無盡燈。慨久遠之無徵。謂傳述之可信。四十一卷。縷折條分。旣綱羅於綱目。七十二人激揚大事。且輝映於分燈。不二門開金粟佛。西江吸盡老龐翁。一雙無事手。不曾祗揖等閑。滿院木樨香。無端穿却鼻孔。溺器五更踢翻。撥出古人末後句。頂門一聲霹靂。喚起從前自家底。蛙鳴月下。驀然撞破乾坤。盤湧日昇。只討工夫婚嫁。空裏八角磨盤。藏身北斗。心頭著手便判鐵漢參禪。蜣蜋糞彈。不換萬兩黄金。山色溪聲。渾是一場春夢。有師承無師承。王老師兒孫猶在。是仙種非仙種。守屍鬼悔錯用心。不疑天下老和尚舌頭。勘破一千七百則公案。當明中有暗。當暗中有明。眞如徧界不曾藏。般若圓通而無礙。忽若龍潭吹滅紙燈。雲蓋不把火照。且道。是燈

不是燈。分即是。不分便是。噴心空一片婆心。只向這裏出氣。

如是居士張翼軫題

夾註輔教編序

宋濂

天生東魯西竺二聖人。化導烝民。雖設教不同。其使人趨於善道則一而已。爲東魯之學者則曰。我存心養性也。爲西竺之學者則曰。我明心見性也。究其實。雖若稍殊。世間之理。其有出一心之外者哉。傳有之。東海有聖人出焉。其心同其理同也。西海有聖人出焉。其心同其理同也。南海北海有聖人出焉。其心同其理同也。是則心者萬理之原。大無不包。小無不攝。能克之則爲賢知。反之則愚不肖矣。覺之則爲四聖。反之則六凡矣。世之人但見修明禮樂刑政。爲制治之具。持定戒定慧。爲入道之要。一處世間。一出世間。有若冰炭晝夜之相反。殊不知。春夏之伸。而萬彙爲之欣榮。秋冬之屈。而庶物爲之藏息。皆出乎一元之氣運行。氣之外初不見有他物也。達人大觀。洞然八荒。無藩籬之限。無戶國之封。故其吐言持論。不事形迹。而一趨於大同。小夫淺知。肝膽自相胡越者。惡足以與於此哉。宋有大士。曰鐔津嵩禪師。實洞山聰公之法嗣。以

二氏末流之弊。或不相能也。取諸書會而同之。曰原教。曰廣原教。曰勸書。曰孝論。而檀經贊附焉。復恐人不悉其意。自註釋之。名之爲輔教編。若禪師者。可謂攝萬理於一心者矣。予本章逢之流。四庫書頗嘗習讀。逮至壯齡。又極潛心於內典。往々見其說廣博殊勝。方信柳宗元所謂與易論語合者爲不妄。故多著見於文辭間。不知我者。或戟手來詆訾。予噤不答。但一笑而已。今因虛白果公重刻是編。其有功學者甚大。故執筆言之。嗚呼孰能爲我招禪師於常寂光中。相與論儒釋之一貫也哉。獨視霄漢。悠然遐思者久之。

重刻護法論題辭

宋　濂

護法論者。宋大學士張天覺之所撰也。端文禪師重刻諸梓。請濂爲序之。其首簡序曰。嗚呼。妙明眞性。有若太空。不拘方所。初無形段。沖澹而靜。寥漠而清。出焉而不知其所終。入焉而不知其所窮。與物無際。圓妙而通。當是時。無生佛之名。無自他之相。種々含攝。種々無礙。尙何一法之

可言哉。奈何太樸既散。誕勝眞漓。營々逐物。惟塵緣業識之趣。正如迷人身陷大澤。烟霧晦冥。蛇虎縱橫。競來追人欲加毒害。披髮狂奔。不辨四維。西方大聖人以慈憫故。三乘十二分敎不得不說。此法之所繇建立也。衆生聞此法者。遵而行之。又如得見日光。逢善勝友。爲驅諸惡。引登康衢。即離怖畏而就安穩。其願幸孰加焉。不深德之。反從而詆之斥之。猶是挾利劍以自傷。初何損於大法歟。嗚呼三皇治天下也。善用時。五帝則易以仁信。三王又更以智勇。蓋風氣隨世而遷。故爲治者。亦因時而馭變焉。成周以降。昏嚚邪僻。翕然竝作。縲紲不足以爲囚。斧鑕不足以爲威。西方聖人歷陳因果輪回之說。使暴强聞之。赤頸汗背。逡巡畏縮。雖螻蟻不敢踐履。豈不有補治化之不足。柳宗元所謂陰翊王度者是已。此猶言其粗也。其上焉者。烱然內觀。匪即匪離。可以脫卑濁而極高明。超三界而躋妙覺。誠不可誣也。奈何詆之。奈何斥之。世之人觀此論者。可以悚然而思。惕然而省矣。雖然。予有一說。幷爲釋氏之徒告

焉。棟宇堅者。風雨不能漂搖。榮衛充者。疾病不能侵凌。緇衣之士。盍亦自反其本乎。予竊怪。夫誦佛陀言。行外道行者。是自壞法也。毘尼不守。軌範是棄者。是自壞法也。增長無明。嗔恚不息者。是自壞法也。傳曰。家必自毀。而後人毀之。尚誰尤哉。今因禪師之請。乃懇切爲緇素通言之。知我罪我。予皆不能辭矣。

宋景濂護法錄。堪續傳燈。玆於簡首畧載二篇。以便觀覽。其護敎編後記一篇。具載綱目卷首。

大慧禪師示眞如道人書。

火宅塵勞。何時是了。安樂得。一日便是千萬日樣子也。於一日中。心不馳求。不妄想。不緣諸境。便與三世諸佛諸大菩薩相契。不着和會。自然成一片矣。世尊說火宅喩。正爲此也。經曰。是舍惟有一門。而復狹小。諸子幼稚。未有所識。戀着戲處。或當墮落。爲火所燒。我當爲說怖畏之事。具在經中。是舍惟有一門。而復狹小。謂信根狹劣。在火宅中。無智惠而戀着塵勞之事。爲樂。不信有出火宅。露地而坐。淸淨妙樂故也。若在其中。信得及。識得破。不戀着幼稚戲處。心不馳求。不妄想。不緣諸境。卽是火宅塵勞。便是解脫出三界之處。何以故。佛不云乎。於一切境。無依無住。無有分別。明見法界廣大安立。了諸世間及一切法平等無二。故遠行地菩薩。以自所行智惠力故。出過一切二乘之上。雖得佛境界藏而示住魔境界。雖超魔道。而現行魔法。雖示同外道行。而不捨佛法。雖示隨順一切世間。而常行一切出世間法。此乃火宅塵勞中眞方便也。學

般若人。捨此方便。而隨順塵勞。定爲魔所攝持。又於隨順境中。強說道理。謂煩惱卽菩提。無明卽大智。步々行。有口々談空。自不責業力所牽。更敎人撥無因果。便言。飲酒食肉不礙菩提。行盜行婬無妨般若。如此之流。邪魔惡毒入其心腑。都不覺知。欲出塵勞。如潑油救火。可不悲哉。塵勞之儔。爲如來種。敎有明文。譬如高原陸地不生蓮花。卑濕淤泥乃生此花。在火宅塵勞中。頭出頭沒。受無量苦。忽於苦中。而生厭離。始發無上菩提之心。塵勞之儔爲如來種。正謂此也。俗人學道與出家兒。逈然不同。出家兒自小遠離塵勞。父母不供甘旨。六親固以棄離。身居清淨伽藍。目覩紺容聖相。念々在道。心々無間。所觀底皆無非佛書。所行底事。無非佛事。不見可欲。受佛禁戒。佛所讃者。方敢依而行之。佛所訶者。不敢違犯。有明眼宗師。可以尋訪。有良朋善友。可以咨決。縱有習漏未除者。暫時破佛律儀。已爲衆所擯斥。以俗人較之。萬不及一。俗人在火宅中。四威儀內。與貪欲嗔恚痴爲伴侶。所作所爲。所聞所見。無非惡

業。然若能於此中打得徹。其力却勝我出家兒百千萬億倍。打得徹了。方可說煩惱卽菩提。無明卽大智。本來廣大寂滅妙心中。清淨圓明蕩然。無一物可作障礙。如太虛空。一般。佛之一字亦是外物。況更有塵勞煩惱恩愛作對待耶。在火宅中打得徹了。不須求出家。造妖揑怪。毀形壞服。滅天性。絕祭祀。作名敎中罪人。佛不敎人如此。只說應以佛身得度者。卽現佛身而爲說法。應以宰官身得度者。卽現宰官身而爲說法。乃至應以比丘比丘尼。優婆塞優婆夷身得度者。卽皆現之而爲說法。又云。治世產業。皆順正理與實相不相違背。但只依本分。隨其所證。化其同類。同入此門。便是報佛報恩也。但念々不要間斷。莫管得不得便是夙與般若無緣。今生未打得徹。臨命終時。亦不被惡業所牽。於日用二六時中。亦不被塵勞所困。後世出頭來。亦得現成受用。學道無他術。以悟爲則。今生若不悟。儘捱到盡未來際。常存此心。今生雖未悟亦種得般若種子。在性地上。世々不落惡趣。生々不失人身。不生邪見家。不

入魔軍類。況忽然心花發明耶。當此之時。三世諸佛證明有分。諸大祖師無處安着。非是强爲法如是故。眞如道人欲學此道。但只依此做工夫。久々自然撞着矣。如上所說。乃一期應病與藥耳。若作實法會。又却不是也。古人云。見月休觀指。歸家莫問程。寫至此。興雖未已。而紙已盡。且截斷葛藤。

心空曰。大慧此書。分明是一卷維摩經。在家居士若不依此修行。管取臘月三十日手忙脚亂。

蓮池大師法語

華嚴不如艮卦

宋儒有言。讀一部華嚴經。不如看一艮卦。此說。高明者自知其謬。庸劣者。遂信不疑。開邪見門。塞圓乘路。言不可不愼也。假令說讀一部易經。不如看一艮卦。然且不可。況佛法耶。況佛法之華嚴耶。華嚴具無量門。諸大乘經。猶是華嚴無量門之中一門耳。華嚴天王也。諸大乘經侯封也。諸小乘經侯封之附庸也。餘可知矣。

儒佛配合

儒佛二敎聖人。其設化各有所主。固不必岐而二之。亦不必强而合之。何也。儒主治世。佛主出世。治世則自應如大學格致誠正修齊治平足矣。而過於高深。則綱常倫理。不成安立。出世則自應窮高極深。方成解脫。而於家國天下。不無稍踈。蓋理勢自然無足怪者。若定謂儒卽是佛。則六經論孟諸典燦然備具。何俟釋迦降誕。達磨西來。定謂佛卽是儒。

則何不以楞嚴法華理天下。而必假羲農堯舜創制於其上。孔孟諸賢明道於其下。故二之合之。其病均也。雖然。圓機之士。二之亦得。合之亦得。兩無病焉。又不可不知也。

佛性

經云。蠢動含靈。皆有佛性。孟子之闢告子也。曰。然則犬之性猶牛之性。牛之性猶人之性歟。有執經言。而非孟子。予以爲不然。皆有佛性者。出世盡理之言。人畜不同者。世間見在之論。兩不相碍。是故極本窮源。則螻蟻蠛蠓。直下與三世諸佛平等不二。據今見在。則人通萬變。畜惟一知。何容並視。豈惟人與畜殊。犬以司夜。有警則吠。若夫牛卽發扃鑽穴。踰墻斬關。且安然如不聞見矣。犬牛之性果不齊也。而況於人乎。萬材同一木也。而梧檟枳棘自殊。百川同一水也。而江湖溝渠各別。此同而未嘗不異。々而未嘗不同者也。如執而不通。則世尊成正覺時。普見一切衆生成正覺。今日何以尙有衆生。

王介甫

介甫擬寒山詩有云。我曾爲牛馬。見草豈歡喜。又曾爲女人。歡喜見男子。我若眞是我。秖合常如此。區々轉易間。莫認物爲己。介甫此言。信是有見。然胡不云。我曾聞諛言。入耳則歡喜。又曾聞讒言。喜滅而嗔起。我若眞是我。秖合常如此。區々轉易間。莫認物爲已。而乃悅諛惡讒。依然認物爲已耶。故知大聰明人說禪非難。而得禪難也。

解禪偈

溫公作解禪偈。眞學佛不明理者之龜鑑也。但其以言行可法。爲不壞身。仁義不虧爲光明藏。特一時救病語。非不易之論。夫謹言行。修仁義。在世間誠可貴重。然豈便是金剛不壞之身。神通大光明藏。何言之易也。又以君子坦蕩々爲天堂。小人長戚々爲地獄。理則良然。而亦有執理失事之病。豈得謂愚痴卽牛羊。凶暴卽虎豹。此外更無眞實披毛帶角之牛羊。利牙鋸爪之虎豹乎。吾恐世人見溫公辭致警妙。必大悅而

深信。其流之弊。撥無因果。乃至世者自足。不復知有向上事。則此偈本以覺人。反以誤人。不可不聞。

范景仁

景仁自謂。吾二十年曾不起一思慮。景仁之爲賢者信矣。然二十年之久。不生一念。或未易及。此顏子尚僅三月不違。則三月外容有念生。趙州尚假四十年。方成一片。則未成一片時。容有念生。如景仁者。得無麤念雖無。微細思慮。潛滋暗發而不自覺歟。吾非輕視景仁。蓋恐得少爲足。而預以自警也。

衣帛食肉

晦菴先生闢佛。空谷力爲辨駁矣。雖然。晦菴亦有助佛揚化處。不可不知也。其解孟子曰。五十非帛不煖。未五十者不得衣也。七十非肉不飽。未七十者不得食也。夫獸毛蠶口。害物傷慈。佛制也。必五十乃衣帛。則衣帛者鮮矣。食肉者斷大慈悲種子。佛制也。必七十乃食肉。則食肉者

鮮矣。今孩提之童。固已重裘純纊。衛其形。烹肥割鮮。飫其口。曾不待壯。而況老乎。使晦菴之說行。寧不爲佛法少助。咎晦菴者不之察。吾故爲闡之。

護法

人知佛法外護付與王臣。而未知僧之當其護者。不可以不慎也。護法有三。一曰。興崇梵刹。二曰。流通大教。三曰。獎掖緇流。曷言乎慎也。護法者。梵刹果爾。屬寺產豪强占焉。奪而復之理也。有知考諸圖籍則疑似不明。傳之久遠。則張王互易。以勢取之可乎。喜捨名爲吉祥地。力不歆而與者。謂之寃業藪。若僧惟勸化有力大人。以恢復舊刹爲大功德主。而不思佛固等視衆生。如羅睺羅殃民建刹。卽廣踰千頃。高凌九霄。旃檀爲材。珠玉爲飾。佛所悲憐而不喜者也。有過無功。不可不慎一也。護敎者。其所著述果爾。遠合佛心。近得經旨。贊嘆而傳揚之理也。有如外道迂談。胸臆偏見。過爲稱譽可乎。若僧惟乞諸名公。作序作跋。而不思

疑。悞後學。有過無功。不可不慎二也。護僧者。其僧果爾。眞參眞悟具大智見者。尊而禮之。實心實行。操持敦確者。信而近之。理也。有如盧頭禪客。下劣庸流。亦尊之信之可乎。若僧惟親附貴門。冀其覆庇。而綿繢錦繡以裹癰疽。祇益其毒。有過無功。不可不慎三也。是則王臣護法。而僧壞法也。悲夫。

答孫無高居士廣抑

來問。近日持戒頗嚴。雖小德未盡瑩。而大德已無犯。此外更有一二語可爲終身之銘者乎。昔子貢問一言終身。夫子以恕答之。今日戒之一言。銘以終身。罄無不盡。所以者何。良以攝心卽是戒。故若向心地法門中會得。便一切具足。尙何論戒之持與不持。如其不然。須一々依敎奉行。經曰。攝心爲戒。因戒生定。因定發惠。定惠者。佛之全果也。卽定而惠。則寂而常照。卽惠而定。則照而常寂。常寂常照。名常寂光。而實始於戒。戒之時大矣哉。戒有多種。優婆塞五戒。沙彌十戒。比丘二百五十戒。菩

薩十重四十八輕戒。乃至三千威儀。八萬細行。而約其大綱。則五戒爲根本。儒亦時言戒。々雖未備。而默與佛制合。子曰。君子有三戒。戒色則婬戒所攝。戒鬪則殺戒所攝。戒得則盜戒所攝。婬殺盜三者。爲戒中之至要。故擧要以槩其餘。而言。忠信不及亂。以攝酒妄。亦所以預養此戒。而弗使之縱也。但儒之戒疎。佛之戒密。佛制殺戒。微及蜎蠕。而儒止曰無故殺牛羊犬豕等。不曰不殺。止曰釣不網弋不宿。不曰不釣不弋。又極之。則纔有忿嫉。卽殺戒不淨。眼取色耳取聲。卽盜戒不淨。隔壁聞釵釧聲。卽婬戒不淨。至是則身心俱斷。事理雙盡矣。今日處家閫中。業公車行。將有社稷民人之寄。其持戒豈能一々與剃髮染衣者例論。則微細條章。不能全持。未爲破戒。惟貴於心學。大頭腦處着力。一旦脫然悟去。則咳唾掉臂。無不是淸淨毗尼矣。但不可未得謂得而發狂解。便道飲酒食肉不礙菩提。行盜行婬無妨般若。而墮落魔羅境界耳。果能時時返照。刻々提撕。向本參念佛話頭上做工夫。則不惟日後有發明在。

即今目前。便自得力。日用中有主宰。不隨物轉。縱居聲色名利之場。妻子眷屬日夕相接不妨。與世推移。混俗和光。自然出淤泥而不染。是謂塵中大解脫門也。以此自利。以此利他。何往不善哉。

自叙分燈錄緣起

如來正法眼藏。首傳大迦葉。乃至二十八傳。菩提達磨遙觀震旦有大乘根器。遂泛海而來。磨傳惠可。可傳僧粲。々傳道信。々傳弘忍。々傳惠能。々傳懷讓行思。兩派兒孫。五燈輝映。若臨濟。若雲門。若潙仰。若曹洞。若法眼。或孤峯頂上盤結草菴。或十字街頭解開布袋。明鏡當臺。胡漢自現。寶劍在手。殺活臨時。青州衫。乾屎橛。疑議便乖。擊石火閃電光。轉盼即失。至矣盡矣。無得而上焉。然考當時法道盛行。有主化者。必有分化者。主化者。如上所述。具載傳燈。分化者。則有如維摩詰龐道玄張無盡宋景濂輩。秘大現小。帶水拖泥。不壞假名。而談實相。斯亦悲願弘廣。混俗利生之遐範已。余故略採內典。既成佛祖綱目四十一卷。復輯居士中師承有據。及應化再來者七十二人。爲分燈錄二卷。分燈者。乃余結集時。夢見舍利弗尊者之所標也。儻謂是書非無盡燈。亦非非無盡燈。而欲揭之以光照來茲乎。雪竇有云。三十三人入虎穴。予亦云七十

二人出龍窟。即今書在這裡。還識龍麼。透網金鱗休云滯水。無處有月波澄。有處無風浪起。參。

崇禎辛未陽生日。雲間朱時恩謹序

居士分燈錄目錄

上卷

維摩詰　傅大士　楊衒之　向居士
李通玄　龐道玄附韓愈　崔群　甘贄
陸亘　白居易　裴休　李翱
于頔　王敬初　陳操　陸希聲
張拙　王延彬　王隨　楊億
曾會　李遵勗　許式　夏竦
范仲淹附尹洙。朱炎。晁迥。李沆。杜衍。張方平。　楊傑　劉經臣
孫比部附楊畋。王安石。

下卷

李端愿　趙抃　富弼附文彥博。歐陽修。范鎮。司馬光。邵雍。呂公著。
潘興嗣　張商英　蘇軾　黃庭堅附韓宗古。彭器資。王

正言。朱世英。王衡州
吳恂　王韶　郭祥正
周敦頤 附程顥。程頤。游酢。謝良佐。楊時　戴道純　高世則
陳瓘 附劉安世　胡安國　范沖　吳居厚
彭汝霖　盧航　都貺　徐俯
趙令衿　李彌遜　張浚　馮楫 附王敏仲
張九成　李邴　吳偉明 附吳潛。呂正己。呂本中。陸游。尤袤。葉適。陳貴謙。
劉彥修　黃彥節　錢端禮　錢象祖
潘良貴　曾開　葛郯　莫將
王簫　張栻　李浩　吳十三
朱熹 附陸九淵。眞德秀。　余居士 附王日休　宋景濂
遺補
呂巖眞人 附張伯陽

居士分燈錄目錄終

居士分燈錄卷上

雲間心空朱時恩輯
同郡心岫王元瑞閱
日本森大狂校

維摩詰 釋迦會下法王子

中天竺毘耶離城有長者。名維摩詰。已曾供養無量諸佛。深植善本。得無生忍。辨才無礙。遊戲神通。欲度人故。以善方便居毘耶離。其以方便現身有疾。廣爲說法。佛告文殊師利。汝行詣維摩詰問病。於是文殊師利與諸菩薩大弟子衆入毘耶離。維摩詰以神力空其室內。除去所有及諸侍者。惟置一床。以疾而臥。文殊師利既入其舍。維摩詰言。善來文殊師利。不來相而來。不見相而見。文殊師利言。如是居士。若來已更不來。若去已更不去。所以者何。來者無所從來。去者無所從去。所可見者。更不可見。維摩詰謂衆菩薩言。諸仁者云何菩薩入不二法門。三十二

菩薩各々說已。文殊師利問維摩詰。仁者當說何等是菩薩入不二法門。維摩詰默然無言。文殊師利嘆曰。善哉善哉。乃至無有文字語言。是眞不二法門。說法已竟。維摩詰語文殊師利。可共見佛。即以神力持諸大衆並師子座置於右掌。往詣佛所。到已着地。稽首佛足。右遶七匝。一心合掌在一面立。舍利弗問。汝於何沒而來生此。維摩詰言。汝所得法有沒生乎。舍利弗言。無沒生也。若諸法無沒生相。云何問言汝於何沒。而來生此。舍利弗。沒者爲虛誑法敗壞之相。生者爲虛誑法相續之相。菩薩雖沒不盡善本。雖生不長諸惡。時佛告舍利弗。有國名妙喜。佛號無動。是維摩詰於彼國沒而來生此。舍利弗言。未曾有也。世尊是人乃能捨清淨土。而來樂此多怒害處。維摩詰語舍利弗。於意云何。日光出時與冥合乎。答曰。不也。日光出時則無衆冥。維摩詰言。夫日何故行閻浮提。答曰。欲以明照爲之除冥。維摩詰言。菩薩如是。雖生不淨佛土。爲化衆生。不與愚暗而共合也。但滅衆生煩惱暗耳。時大衆渴仰欲見妙喜世界無動如來及其聲聞之衆。佛告維摩詰。善男子爲此衆會現妙喜國無動如來及諸菩薩聲聞之衆。衆々皆欲見。於是維摩詰入於三昧。現神通力。以其右手斷取妙喜世界置於此處。時妙喜世界於此國所應饒益。其事訖已。還復本處。

賛曰。余觀維摩詰。蓋毘耶一老居士也。然釋迦會中如文殊師利舍利弗等猶且曰。我不堪任詣彼問疾。曰。彼上人者。難爲酬對。抑何門庭高峻至此極乎。黃檗曰。維摩者淨名也。淨者性也。名者相也。性相不異。故號淨名。諸大菩薩所表者。人皆有之。不離一念。悟之則是似。又不勞彈指。直下便是維摩矣。乃傳燈所載達磨兒孫滿天下。其自居士眞參實悟者。數十人外無聞焉。此又何以說歟。白雲端云。一箇兩箇百千萬。屈指尋文數不辨。暫時留在暗窓前。明日爲君重計算。咄。維摩來也。

傅大士 彌勒化身

傅大士諱翕。義烏人。丁丑五月八日。示生於雙林鄉傅宣慈家。年十六

娶劉氏女名妙光。生二子。普建。普成。會有天竺僧嵩頭陀曰。我與汝。毘婆尸佛所發誓。今兜率宮衣鉢現在。何日當還。因命臨水觀影。見圓光寶蓋。大士笑謂之曰。爐鞴之所多鈍鐵。良醫之門足病人。度生爲急。何思彼樂乎。嵩指松山頂曰。此可棲矣。大士躬耕而居之。嘗見釋迦金粟定光三如來放光襲其體。大士乃曰。我得首楞嚴定。遂捨田宅因雙檮樹而創寺。名曰雙林。日常營作。夜則行道。復感七佛相隨釋迦引前維摩接後。惟釋尊數顧共語爲我補處也。其山頂黃雲盤旋若蓋。因號黃雲山。梁武帝大通六年正月。大士遣弟子傅暀致書武帝。太樂令何昌以聞。武帝遽遣詔迎既至。大士星冠儒履披法服以見。帝問。佛耶。大士默指冠。問。道耶。又默指履。又問。儒耶。又默指袈裟。問。從來師事何人。曰。從無所從。來無所來。師事亦爾。一日。武帝於壽光殿講金剛經。聖師曰。大士能耳。帝即請大士。大士纔陞座吹尺揮案一下便下座。帝愕然。聖師曰。陛下還會麽。帝曰。不會。聖師曰。大士講經竟。陳大建元年己丑有

惠和法師不疾而終。嵩頭陀亦於柯山靈巖寺入滅。大士懸知曰。嵩公兜率待我。決不可久留也。時四側花木方當秀實。欻然枯瘁。四月二十四日示衆曰。此身甚可厭惡。衆苦所集。須愼三業精勤六度。若墮地獄卒難得脫。常須懺悔。又曰。吾去已不得移寢床。七日當有法猛上人持來像及鐘鎭於此。弟子問。滅後形體若爲。曰。山頂焚之。又問。不遂何如。曰。愼勿棺歛。但壘甓作壇。移尸於上。屏風周繞。絳紗覆之。上建浮圖以彌勒像鎭之。又問。諸佛滅度皆說功德。師之發跡可得聞乎。曰。我從第四天來。爲度汝等。次補釋迦。及傅普敏文殊。慧集觀音。何昌阿難。同來贊助。故大品經云。有菩薩從兜率天來。諸根猛利疾與般若相應。吾身是也。言訖趺坐而終。世壽七十二。後七日。果有法猛上人持織成彌勒像及九乳鐘來。留鎭龕所須臾不見。』大士心王銘曰。觀心王空玄妙難測。無形無相。有大神力。能滅千災。成就萬德。躰性雖空能施法則。觀之無形。呼之有聲。爲大法將。心戒傳經。水中鹽味。色裏膠青。決定是有。

不見其形。心王亦爾。身內居停。面門出入。應物隨情。自在無礙。所作皆成。了本識心。識心見佛。是佛是心。是心是佛。念々佛心。佛心念佛。欲得蚤成。戒心自律。淨律淨心。心卽是佛。除是心王。更無別佛。欲求成佛。莫染一物。心性雖空。貪嗔躰實。入此法門。端坐成佛。到彼岸已。得波羅蜜。慕道眞士。自觀自心。知佛在內。不向外尋。卽心卽佛。卽佛卽心。々明識佛。曉了識心。離心非佛。離佛非心。非佛莫測。無所堪任。執空滯寂。於此漂沈。諸佛菩薩。非此安心。明心大士。悟此玄旨。身心性妙。用無更改。是故智者。放心自在。莫言心王。空無性躰。能使色身。作邪作正。非有非無。隱顯不定。心性離空。能凡能聖。是故相勸。好自防愼。剎那造作。還復漂沈。清淨心智。如世黃金。般若法藏。竝在身心。無爲法寶。非淺非深。諸佛菩薩。了此本心。有緣遇者。非去來今。「偈。有物先天地。無形本寂寥。能爲萬象主。不逐四時凋。」 夜夜抱佛眠。朝朝還共起。起坐鎭相隨。語默同居止。纖毫不相離。如身影相似。欲識佛去處。秖這語聲是。」 空手把鋤頭。步行騎水牛。人從橋上過。橋流水不流。

賛曰。華嚴會上。樓閣門開。兜率宮中。衣鉢現在。或携布袋。鬧市裏等箇人。或竇絣籬。街坊頭隨緣去。是事且置。秖如染王殿上講經。與龍華三會所說之法。是同是別。急着眼看。莫待彌勒佛下生。

楊衒之 初祖達磨法嗣

期城太守楊衒之。蚤慕佛乘。問初祖達磨曰。西天五印師承爲祖。其道如何。祖曰。明佛心宗。行解相應。名之曰祖。又問。此外如何。祖曰。須明他心。知其今古。不厭有無。於法無取。不賢不愚。無迷無悟。若能是解。故稱爲祖。又曰。弟子歸心三寶。亦有年矣。而智惠昏蒙。尙迷眞理。適聽師言。罔知攸措。願師慈悲。開示宗旨。祖知其懇到。自說偈曰。亦不覩惡而不。嫌。亦不觀善而勤措。亦不捨智而近愚。亦不拋迷而就悟。達大道兮過量。通佛心兮出度。不與凡聖同躔。超然名之曰祖。衒之聞偈。悲喜交幷。曰。願師久住世間。化導群有。祖曰。吾卽逝矣。不可久留。根性萬差。多逢

患難。術之曰。未審何人。弟子為師除得。祖曰。吾以傳佛秘密。利益迷途。害彼自安。必無此理。術之曰。師若不言。何表通變觀照之力。祖不獲已。乃為讖曰。江槎分玉浪。管炬開金鎖。五口相共行。九十無彼我。術之聞語。莫究其端。默記於懷。禮辭而去。

贊曰。達磨承記西來意。其別有秘旨。乃考當世提綱。第曰。直指人心見性成佛而已。夫克復一貫清淨無為。不無直指。而九年面壁。獨稱單傳。毋乃自立門戶歟。噫是不然。如來滅後。法弱魔強。若非親提正印遠稟遺囑。縱闕里儒童。苦縣迦葉。尚不能以菩薩應身。令末法信受。況其下焉者耶。余觀楊術之。不過一俗漢。而纔參達磨。便爾悲喜交併。何見性成佛如斯之易也。今雖去聖時遙。而本源自性天真佛。人々咸具。獨術之也歟哉。

向居士 二祖惠可法嗣

向居士幽棲林野。木食澗飲。北齊天保初。聞二祖惠可盛化。乃致書通

好曰。影繇形起。響逐聲來。弄影勞形。不識形為影本。揚聲止響。不知聲是響根。除煩惱而趣涅槃。喻去形而覓影。離衆生而求佛果。喻默聲而尋響。故知迷悟一途。愚智非別。無名作名。因其名則是非生矣。無理作理。因其理則爭論起矣。幻化非真。誰是誰非。虛妄無實。何空何有。將知得無所得。失無所失。未及造謁。聊申此意。伏望答之。二祖命筆迴示曰。備觀來意。皆如實。真幽之理竟不殊。本迷摩尼謂瓦礫。豁然自覺是真珠。無明智慧等無異。當知萬法即皆如。愍此二見之徒輩。申辭措筆作斯書。觀身與佛不差別。何須更覓彼無餘。居士捧披祖偈。乃伸禮觀。密承印記。

贊曰。向居士直捷見諦。暗合孫吳。然非二祖印證。不免天然外道。

李通玄長者 華嚴大士

長者李通玄。唐宗室子。美髭髯。朗眉目。丹唇紫肥。冠樺皮。衣麻衣。長裙博袖。散腰徒跣而行。每日服棗十顆柏葉餅如匕大者一枚。開元七年。

太原高仙奴館之齋中。終日濡筆臨紙。未嘗接人事。逾三年。遷馬氏古佛堂側。閱十年。忽負經書而去。行三十里。偶一虎當途馴伏。玄撫之曰。吾將著論釋華嚴經。汝能為擇棲止處否。即以經囊負其背。隨至神福山原下土龕前蹲駐。玄取囊置龕。虎搖尾而去。龕廣六七肘。玄著論。每夕口出白光代燭。有二女子。布衣白巾。汲水炷香。食時具膳。齋畢撤去。如是五載。著論已。遂滅跡不見。開元庚辰三月間。一日出山。遇里人高會。玄就語曰。汝等好住。吾將歸矣。衆驚異。有送入山者。至龕而謝遣之。是夕烟雲凝布。巖谷震蕩。有二白鶴翔空哀唳。其餘飛走悲鳴滿山。翌日里人往候。則已端坐示寂矣。壽九十五。著華嚴等論行於世。

贊曰。普菴禪師嘗誦華嚴論。至達本情亡。知心躰合。豁然大悟。即說偈曰。捏不成團撥不開。何須南岳又天台。六根門首無人用。惹得胡僧特地來。心空讀此偈。不覺失笑。笑箇什麼。南嶽天台。

龐居士 馬祖道一法嗣

龐居士。諱蘊字道玄。襄陽人。父任衡陽太守。士建菴修行於宅西數年。全家得道。後捨菴下舊宅為寺。唐貞元間。用船載家財數萬。縻於洞庭湘右。罄溺中流。自是生涯惟一葉。士有妻及一男一女。女名靈照。常鬻竹器以供朝夕。偈曰。有男不婚。有女不嫁。大家團欒頭。共說無生話。時江西有馬祖。南岳有石頭。士初謁石頭。問不與萬法為侶者。是甚麼人。頭以手掩其口。豁然有省。一日問曰。子見老僧以來。日用事作麼生。士曰。若問某甲日用事。直下無開口處。頭曰。知子恁麼。方始問子。士遂呈偈曰。日用事無別。惟吾自偶諧。頭々非取捨。處々沒張乖。朱紫誰為號。丘山絕點埃。神通並妙用。運水及搬柴。頭然之。曰。子以緇耶。素耶。士曰。願從所慕。遂不剃染。後參馬祖。問不與萬法為侶者。是甚麼人。祖曰。待汝一口吸盡西江水。即向汝道。士於言下頓領玄旨。呈偈曰。十方同聚會。箇々學無為。此是選佛塲。心空及第歸。自是機鋒電掣。諸方無禦。一日問祖曰。如水無筋骨。能勝萬斛舟。此理如何。祖曰。我這裏無水亦無

舟。說什麼筋骨。又一日問祖曰。不取本來人。請師高着眼。祖直下覷。士曰。一種沒絃琴。惟師彈得妙。祖直上覷。士作禮。祖歸方丈。士隨後入曰。弄巧成拙。後至藥山。々問。一乘法中還着得這箇事麼。士曰。只了日求升合。不知還着得這箇事麼。山曰。居士還見石頭得麼。士曰。拈一放一。不是好手。山曰。老僧住持事多。士便珍重。山曰。拈一放一是老僧。士曰。好箇一乘問宗。今日失却去也。山曰。是是。士盤桓既久。遂辭藥山。々命十禪客相送。時值雪下。士指雪曰。好雪片々不落別處。有全禪客曰。落在甚處。士遂與一掌。全曰。也不得艸々。士曰。恁麼稱禪客。閻羅老子未放汝在。全曰。居士作麼生。士又打一掌。曰。眼見如盲。口說如啞。丹霞天然禪師來訪。見靈照洗菜次。霞曰。居士在否。照放下菜藍。叉手而立。又問。居士在否。照提籃便行。霞遂回。須臾士歸。照擧前話。士曰。丹霞在否。照曰。去也。士曰。赤土塗牛嬭。霞復來。士見霞不起亦不言。霞竪起拂子。士竪起槌子。霞曰。只恁麼更別有。士曰。這回見師不似於前。霞曰。不妨減人聲價。士曰。比來折儞一下。霞曰。恁麼則啞却天然口也。士曰。儞啞繇本分。累我亦啞。霞擲下拂子而去。士召曰。然闍梨。然闍梨。霞不顧。士曰。不惟患啞。兼更患聾。又一日。霞訪士。至門相見。霞問。居士在否。曰。飢不擇食。霞曰。龐老在否。曰。蒼天々々。便入宅去。霞曰。蒼天々々。便回。又霞問。昨日相見。何似今日。士曰。如法擧昨日事來。作箇宗眼。霞曰。秖如宗眼。還着得龐公麼。曰。我在儞眼裡。霞曰。某甲眼窄。何處安身。曰。是眼何窄。是身何安。霞不顧。士曰。更道一轉。便得此話圓。霞亦不顧。士曰。就中這一句無人道得。一日士訪霞。向霞前叉手立少時便出去。霞不顧。士却來坐。霞却向士前叉手立少時。便入方丈。士曰。汝入我出。未有事在。霞曰。這老翁出出入入。有甚了期。曰。畧無些子慈悲。霞曰。引得箇漢到這田地。曰。把什麼引。霞拈起士幞頭。曰。恰似箇老師僧。士拈幞頭安霞頭上。曰。恰似箇少年俗人。霞應諾三聲。士曰。猶有昔時氣息在。霞拋下幞頭。曰。大似一箇烏紗巾。士亦應諾三聲。霞曰。昔時氣息爭忘得。士

彈指三下曰。動天動地。又一日。士與霞行次。見一泓水指曰。得恁麼也還辨不出。霞曰。的箇辨不出。士以手戽水潑霞三徧。霞曰。莫恁麼。莫恁麼。士曰。須恁麼。須恁麼。霞亦戽水潑。士曰。正恁麼時堪作箇甚麼。士曰。無物外。霞曰。得便宜者少。士曰。誰是落便宜者。一日霞見士來便作走勢。士曰。猶是抛身勢。怎生是嚬呻勢。霞便坐。士以拄杖畫地作七字。霞於下面劃箇一字。士曰。因七見一。見一忘七。霞便起去。士曰。更坐少時。尚有第二句在。霞曰。向這裡著語得麼。士遂哭出去。一日到仰山。問。久響仰山。到來爲甚却覆。山竪起拂子。士曰。恰是。山曰。是仰是覆。士打露柱曰。雖然無人也。要露柱證明。山擲拂子曰。若到諸方。一任擧似。一日。賣笊籬。下橋喫撲。照見亦去身邊臥。士曰。儞作甚麼。照曰。見爹倒地。特來扶起。士曰。賴是無人見。士坐次。問照曰。古人道。明々百草頭。明々祖師意。作麼生。照曰。老々大々作箇語話。士曰。儞作麼生。照曰。明々百草頭。明々祖師意。士乃笑。一日菴中獨坐。驀地曰。難難難。十石油麻樹上

攤。龐婆接聲曰。易易易。如下眠床脚踏地。照曰。也不難。也不易。百草頭上祖師意。士於元和初。方寓襄陽。棲止巖竇。時州牧于頔得居士篇。深加慕異。乃伺便就謁。如宿善友。往來無間。士將入滅。謂照曰。幻化無實。隨汝所縁。可出視日蚤晚。及午以報。照出戸遽報曰。日已出矣。而有蝕焉。可試暫觀。士曰。有之乎。曰。有之。士避席臨窓。照即登父座。合掌坐亡。士囘見笑曰。我女鋒捷矣。乃拾薪營後事。于是更延七日。頔往問安。士以手藉頔之膝。流盼良久曰。但願空諸所有。愼勿實諸所無。好住世間。皆如影響。又說偈曰。空華落影。陽燄翻波。言訖。異香滿室。端躬如思。頔亟追呼。已長往矣。頔乃如法荼毘。旋遣使人報諸妻子。龐婆曰。這愚痴女與無智老漢。不報而去。是可忍也。因往告子。見劚畬曰。龐公與靈照去也。子釋鋤應曰。嗄。良久亦立而亡。母曰。愚子痴一何甚也。亦以焚化。衆皆奇之。未幾。龐婆徧詣鄉閭。告別歸隱。自後沈跡杳然。莫有知其所歸者。

贊曰。馬駒四脚蹈殺天下。老龐一口吸盡西江。這兩箇老漢把佛祖以來相傳家活。蕩費無遺。令後代兒孫一貧如洗。又豈止棄家珍沈湘漢而已哉。

又贊曰。洞山价曰。貪嗔痴太無知。果賴今朝捉得伊。行即打。坐即槌。分付心王仔細推。無量刧來不解脫。問汝三人知不知。咄。洞山漏逗不少。神鼎諲云。貪嗔痴實無知。十二時中任從伊。行即往。坐即隨。分付心王無可爲。無量刧來元解脫。何須更問知不知。咄。神鼎亦漏逗不少。老龐云。莫求佛兮莫求人。但自心裏莫貪嗔。貪嗔痴病前頓盡。便是如來的親。咄。龐公漏逗不少。心空云。人即佛兮佛即人。本來何處是貪瞋。威獰獅子頻哮吼。那管如來親不親。咄。心空亦漏逗不少。

三世諸佛出世。歷代祖師傳心。無非爲此一大事因緣。大事未明。乃至頭出頭沒。輪廻塵刧無有了期者。良繇毒氣深入命根不斷耳。龐老子乃釋迦佛補處應身。而一部語錄惟惓々勸人拔除三毒。如云。貪嗔不肯捨。徒勞讀釋經。又云。貪瞋痴病盡。便是世尊兒。又云。捻取三毒箭。拗折一時空。如是叮嚀不一而足。所以者何。三毒盡時。命根便斷。命根若斷。便與三世諸佛歷代祖師同遊寂滅性海。圓悟勤公三毒總頌云。妄想渾繇三箇漢。牽拖六道四生中。倏然調伏無功用。端與毘盧性海通。

居士又曰。世間最上事。惟有修道強。若悟無生理。三界自消亡。纔空妙德現。無念是清涼。此即彌陀土。何處覓西方。　惡心滿三界。口即念彌陀。心口相違背。群賊轉々多。一塵起萬境。倏忽遍娑婆。色聲求佛道。結果盡成魔。　識是不受塵。心亦不顚狂。妙智作心師。名爲破有王。須臾證六度。動用五種香。此即眞極樂。亦是眞西方。釋迦無量壽。同居此道場。　慚愧好意根。無自亦無他。無自身無垢。無他塵不加。常居清淨地。知有不能過。舊時惡知識。總見阿彌陀。　十方同一等。此是眞如寺。裏有無量壽。本來無名字。凡夫不入理。心緣世上事。

乞錢買瓦木。蓋他處空地。却被六賊驅。背却眞如智。終日受艱辛。妄想圖名利。如此學道人。累劫終不至。」四性同一舍。三身同一室。一切惡知識。總見彌陀佛。」說事滿天下。入理實無多。常被有爲縛。何日見彌陀。」一念心淸淨。處々蓮花開。一花一淨土。一土一如來。」

心空曰。士大夫高明特達者。或喜談禪而薄淨土。殊不知禪者淨土之禪。淨土者禪之淨土也。龐公掣電之機。諸方畏憚。而吐爲詩句。則自性彌陀之旨。又諄々開示。噫可以思也。」韓愈字退之。官刑部侍郎。唐憲宗遣使迎佛骨入禁中。王公士庶奔走膜拜。騰蹈係路。愈上表極諫。帝大怒。將抵之死。裴度崔群請少寬假。乃貶潮州刺史。到潮之初。以表勸帝東封泰山。久而無報。鬱々不樂。聞大顚禪師道德名重。三以書招。乃至。留數十日。或入定數日方起。愈甚敬焉。後復造顚之廬訪道。一日問和尚春秋多少。顚提起數珠曰。會麼。愈曰。不會。顚曰。晝夜一百八。愈不曉。次日再來至門。前見首座。擧前話問意旨如

何。座叩齒三下。及見顚理前問。顚亦叩齒三下。愈曰。元來佛法無兩般。顚曰。是何道理。愈曰。適來問首座亦如是。顚乃召首座問。是汝如此對否。曰。是。顚乃打趂出院。愈一日白顚曰。弟子軍州事繁。佛法省要處。乞師一語。顚良久。愈罔措。時三平爲侍者。乃敲禪牀三下。顚曰。作麼。平曰。先以定動。後以智拔。愈曰。和尚門風高峻。乃於侍者邊得箇入處。改袁州刺史。留衣二襲而別。答尙書孟簡書稱。顚頗聰明識道理。實能外形骸。以理自勝。不爲事物侵亂。雖不盡解其語。要自胸中無滯碍。以爲難得。因與往來。

心空曰。退之退之。雖不盡解。畢竟誰解誰不解。

崔群 徑山法欽法嗣

崔群。武城人。未冠擧進士。累官翰林學士。參徑山法欽禪師。問。弟子欲出家得否。欽曰。出家乃大丈夫之事。非將相之所能爲。群於言下有省。

唐憲宗朝。出爲湖廣觀察使。纔至任。便訪如會禪師。問曰。師以何得。會

曰。以見性得。時會方病眼。群曰。既云見性。其奈眼何。會曰。見性非眼。々病何害。群稽首稱謝。穆宗朝。超拜吏部尚書封趙公。

贊曰。崔趙公且置。如何是大丈夫出家事。休休。太平本是將軍致。不許將軍見太平。

甘贄 南泉普願禪師法嗣

池州甘贄行者。一日入南泉設齋。黃檗運為首座。贄請施財。運曰。財法二施等無差別。贄曰。恁麼道。爭消得某甲䞋。便將出去。須臾復入曰。請施財。運曰。財法二施等無差別。贄便行䞋。又一日入寺設粥。仍請南泉念誦。泉乃白椎曰。請大衆為狸奴白牯念摩訶般若波羅蜜。贄拂袖便出。泉粥後問典座。贄在甚處。座曰。當時便去也。泉乃打破鍋子。贄常接待往來。有僧問曰。行者接待不易。贄曰。譬如餧驢餧馬。僧休去。有住菴僧。緣化什物。贄曰。有一問。若道得即施。乃書心字。問是甚麼字。曰。心字。又問妻。甚麼字。妻曰。心字。贄曰。某甲山妻亦合住菴。僧無語。贄亦無施。

又問一僧。甚麼處來。曰。溈山來。贄曰。曾有僧問溈山。如何是西來意。溈山舉起拂子。上座作麼生會溈山意。曰。借事明心。附物顯理。贄曰。且歸溈山去好。巖頭在贄家過夏。一日把鍼次。贄立前。頭乃以鍼為剳勢。贄遂歸着衣擬出禮謝。妻乃問。翁作甚麼。贄曰。不得說。妻云。有甚事。也要大家知。贄舉前話。妻云。從此三十年後須知。一度喫水一度噎。殺人女子聞。乃云還知盡大地人性命被藏上座針頭上剳將去也無。

贊云。甘贄行者。機鋒不減老龐。而其妻若女亦彷彿龐婆靈照。雖然。心空要問。行者甚麼年中行道。直饒威音王以前。猶是王老師兒孫。

陸亘 南泉法嗣

陸亘字景山。吳郡人。官御史大夫。久參南泉。一日問曰。弟子從六合來。彼中還更有身否。泉曰。分明記取。舉似作家。亘又謂泉曰。和尚大不可思議。到處世界皆成就。泉云。適來總是大夫分上事。又一日問泉曰。弟子家內餅中養一鵞。々漸長大。出餅不得。如今不得毀餅。不得損鵞。和

尙作何方。出得。泉召曰。大夫。亘應諾。泉云。出也。亘從此開解。一日謂泉曰。弟子亦薄會佛法。泉便問。大夫十二時中作麼生。亘曰。寸絲不掛。泉曰。猶是階下漢。不見道。有道君王不納有智之臣。一日泉上堂。亘曰。請和尙爲衆說法。曰。教老僧作麼生說。亘曰。和尙豈無方便。泉曰。道他欠少什麼。亘曰。爲什麼有六道四生。泉曰。老僧不教他。一日問泉。弟子家中有一片石。有時坐有時臥。欲鐫作佛得否。泉曰。得。亘曰。莫不得否。泉曰。不得。亘與泉見人雙陸。拈起骰子曰。恁麼不恁麼。只恁麼信采去時如何。泉拈起骰子曰。臭骨頭十八。一日謂泉曰。肇法師也甚奇怪。道萬物與我同根。天地與我一躰。泉指庭前牡丹花曰。大夫時人見此一株花。如夢相似。亘罔測。亘又問。天王居他地位。泉曰。若是天王。即非地位。亘曰。弟子聞說。天王是居初地。泉曰。應以天王身得度者。即現天王身而爲說法。亘辭歸宣城治所。泉問。大夫去彼。以何治民。亘曰。以智惠治民。泉曰。恁麼即彼處生靈盡遭塗炭去也。泉入宣州。亘出迎接。指城門

曰。人々盡喚作甕門。未審。和尙喚作什麼門。泉曰。老僧若道。恐辱大夫風化。亘曰。忽然賊來時作麼生。泉曰。王老師罪過。亘又問。大悲菩薩用許多手眼作什麼。泉曰。只如國家。又用大夫作什麼。泉遷化。亘聞喪入寺下祭。却呵々大笑。院主曰。先師與大夫有師資之義。何不哭。亘曰。道得卽哭。院主無語。亘大哭曰。蒼天蒼天。先師去世久矣。

贊曰。大哉南泉座下皆英靈衲子。無論趙州長沙叢林哮吼。即陸亘大夫一俗漢耳。方且激揚酬對。鍼芥相投。洎泉遷化勘驗院主。掣電之機。無慚師友。眞龍生龍子。鳳出鳳雛。此足以誌當年法道極盛云。

白居易 佛光如滿禪師法嗣

白居易字樂天。官太子少傅。捨宅爲香山寺。號香山居士。久參佛光如滿得心法。元和四年。惟寬至闕。易問曰。既曰禪師。何以說法。寬曰。無上菩提者。被於身爲律。說於口爲法。行於心爲禪。應用者三。其致一也。譬如江湖淮漢在處立名。名々雖不一。水性無二。律師是法。法々不離禪。云何

於中妄起分別。曰既無分別。何以修心。寬曰。心本無傷損。云何要修理。無論垢與淨。一切勿念起。曰垢即不可念。淨無念可乎。寬曰。如人眼睛上一物不可住。金屑雖珍寶。在眼亦爲病。曰無修無念。又何異凡夫耶。寬曰。凡夫無明二乘執着。離此二病。是曰眞修。眞修者。不得勤不得忘。勤則近執着。忘即落無明。此爲心要云爾。元和十五年牧杭州。因入山謁鳥窠道林。問曰。禪師住處甚危嶮。林曰。太守危嶮尤甚。易曰。弟子位鎭江山。何嶮之有。林曰。薪火相交。識性不停。得非嶮乎。又問。如何是佛法大意。林曰。諸惡莫作。衆善奉行。易曰。三歲孩兒也解恁麼道。林曰。三歲孩兒雖道得。八十老人行不得。又以偈問曰。特入空門問苦空。敢將禪事叩禪翁。爲當夢是浮生事。爲復浮生是夢中。林答曰。來時無跡去無蹤。去與來時事一同。何須更問浮生事。秖此浮生是夢中。易作禮而退。又易嘗求心要于凝禪師。得八言。曰觀。曰覺。曰定。曰惠。曰明。曰通。曰濟。曰捨。易因廣爲八漸偈。々曰。一觀。以心中眼。觀心外相。從何而有。從何而喪。觀之又觀。則辨眞妄。二覺。惟眞常在。爲妄所蒙。眞妄苟辨。覺生其中。不離妄有。而得眞空。三定。眞若不滅。妄即不起。六根之源。湛如止水。是爲禪定。乃脫生死。四惠。專之以定。々猶有繫。濟之以惠。々則無滯。如珠在盤。盤定珠惠。五明。定惠相合。々而後明。照彼萬物。々無遁形。如大圓鏡。有應無情。六通。惠至乃明。々則不昧。明至乃通。々則無礙。無礙者何。變化自在。七濟。通力不常。應念而變。々相非有。隨求而見。是大慈悲。以一濟萬。八捨。衆苦既濟。大悲亦捨。苦既非眞。悲亦是假。是故衆生。實無度者。

贊曰樂天參佛光。悟明心地。其機緣莫可考已。乃所至尋宿。若鳥窠輩。樂天莫不嚮風瞻禮。俛焉受其鉗鎚。何以故。其心虛也。虛則明。々則淫房酒肆。不離道場。絃管花鈿。無非佛事。故曰。達哉達哉白樂天。

裴休 黃檗希運禪師法嗣

裴休字公美。聞喜人。父肅任越州觀察使。應三百年讖記。重建龍興寺

大佛殿。休乃篤志內典。深入法會。兒時與兄弟偕隱。晝講經夜著書。終年不出戶。後登進士。累更內任。嘗出刺洪州。一日入龍興寺燒香。屬希運初於黃檗山捨衆入寺。混迹勞侶。掃洒殿堂。次主事僧迎休。休因觀壁畫乃問。是何圖相。曰。高僧眞儀。曰。眞儀可觀。高僧在什麼處。僧皆無對。休曰。此間有禪人否。曰。近有一僧。投寺執役。頗似禪者。曰。速請來。於是遽尋運。休覩之欣然。曰。休適有一問。諸德吝辭。今請上人代酬一語。運曰。請相公垂問。休卽擧前問。運高聲曰。相公。休應諾。運曰。在什麼處。休當下知旨。如獲髻珠。曰吾師眞善知識也。示人尅的若是。何汨沒於此乎。寺衆愕然。自此延入府署。留之供養。執弟子禮。屢辭不已。復堅請住黃檗山。暇卽躬入山頂謁。或渴聞玄論。卽請運入州。大中二年。休鎭宛陵。建大禪院。請運說法。以運酷愛舊山。還以黃檗名之。又迎運至郡。以所解一編示運。運接置於座。畧不披閱。良久乃曰。會麼。曰不會。運曰。若便恁麼會得。猶較些子。若也形於紙墨。何處更有吾宗。休乃以頌贊曰。自從大士傳心印。額有玄珠七尺身。掛錫十年棲蜀水。浮杯今日渡漳濱。一千龍象隨高步。萬里香華結勝因。擬欲事師爲弟子。不知將法附何人。運亦無喜色。但曰。心如大海無邊際。口吐紅蓮養病身。自有一雙無事手。不曾祇揖等閒人。一日托一尊佛。於運前胡跪曰。請師安名。運召裴休。休應諾。運曰。與汝安名竟。休便禮拜。一日休問曰。山中四五百人。幾人得和尚法。運曰。得者莫測其數。何故。道在心悟。豈在言說。言說只是化童蒙耳。又問。如何是佛。運曰。卽心卽佛。無心是道。不用別求。有求皆苦。設使恒沙劫數。行六度萬行。得佛菩提。亦非究竟。何故。爲屬因緣造作故。因緣若盡。還歸無常。一日。休在大安寺。問諸大德曰。羅睺羅以何爲第一。曰。以密行爲第一。休不肯。乃問。此間有衲禪者。時龍牙居遁在後園種菜。遂請來。問。羅睺羅以何爲第一。遁曰。不知。休便拜曰。破布裏眞珠。休作相六年。次歷諸鎭節度。居嘗不御酒肉。著釋氏書數萬言。又親書大藏經五百函號。

贊曰。黃檗說法。如巨靈擡手劈破華山。穿臨濟之大樹。織睦州之蒲鞋。而其緒餘猶能陶鑄裴相國。讀其傳心法要。眞一大藏敎詮註不及。猗歟盛哉。

李翺 藥山惟儼禪師法嗣

朗州刺史李翺。久嚮藥山玄化。屢請不起。乃躬入山謁之。山執經卷不顧。侍者曰。太守在此。翺性褊急。乃曰。見面不如聞名。山呼太守。翺應諾。山曰。何得貴耳賤目。翺拱手謝之。問曰。如何是道。山以手指上下曰。會麼。曰。不會。曰。雲在天水在瓶。翺乃忻愜作禮而述偈曰。鍊得身形是鶴形。千株松下兩函經。我來問道無餘說。雲在靑天水在瓶。又問。如何是戒定慧。曰。貧道這裡無此閑家具。翺莫測玄旨。山曰。太守欲保任此事。直須向高々山頂立。深々海底行。閨閤中物捨不得。便爲滲漏。山一夜登山經行。忽雲開見月。大笑一聲。應澧陽東九十許里。明晨迭相推問。直至藥山。徒衆曰。昨夜和尙山頂大笑。翺贈詩曰。選得幽居愜野情。終

年無送亦無迎。有時直上孤峯頂。月下披雲笑一聲。翺嘗問僧。馬大師有什麼言敎。僧曰。大師或說卽心卽佛。或說非心非佛。翺曰。總過這裏。一日問智藏。馬大師有什麼言敎。藏呼李翺。翺應諾。藏曰。皷角動也。問鵝湖大悲用千手眼作麼。湖曰。今上用公作麼。有一僧乞置塔。翺問曰。敎中不許將屍塔下過。又作麼生。僧無對。僧却問湖。湖曰。他得大闡提。

贊曰。高々山頂立。深々海底行。李刺史還會麼。會則踏倒須彌。掀翻大海。未爲分外。其或未然。且向葛藤窠裏。穿鑿一穿鑿看。

于頔 藥山法嗣

于頔字允元。代人。參紫玉山道通。問。如何是黑風吹其船舫漂墮羅刹鬼國。通曰。于頔這客作漢。問恁麼事作麼。頔當時失色。通乃指曰。這箇便是漂墮羅刹鬼國。頔聞信受。又問。如何是佛。通喚相公。頔應諾。通曰。更莫別求。藥山聞。通答頔問佛話。乃曰。噫可惜。于家漢生埋向紫玉山中。頔聞卽謁儼。儼曰。聞相公在紫玉山中。大作佛事。是否。曰。不敢。承

聞和尚有語相救。今日特來。儼曰。有疑但問。頓曰。如何是佛。儼召于頓。頓應諾。儼曰。是甚麼。頓於此有省。後得龐蘊篇。深加慕異。乃伺便就謁。如宿善友。往來無間。

贊曰。龐居士曰。但願空諸所有。愼勿實諸所無。龐居士且置。如何是空諸所有。會得許汝與于頓同參。其或未然。快須搊瞎娘生眼。白日挑灯讀此詞。

王敬初 潙山靈祐禪師法嗣

常侍王敬初。初見睦州道明。一日明問曰。今日何故入院遲。曰。看打毬來。明曰。人打毬馬打毬。曰。人打毬。明曰。人困麼。曰。困。明曰。馬困麼。曰。困。明曰。露柱困麼。初惘然。歸至私第。中夜忽然有省。明日見明曰。某甲會得昨日事也。明曰。露柱困麼。曰。困。明遂許之。後得法於潙山靈祐。一日視事次。米和尚至。初擧筆示之。米曰。還判得虛空否。初擲筆入宅。更不復出。米致疑。明日憑鼓山供養主。入探其意。米亦隨至。潛在屏蔽間偵伺。供養主纔坐問曰。昨日米和尚有甚麼言句。便不相見。初曰。師子咬人。韓獹逐塊。米聞此語。即省前謬。遽出朗笑曰。我會也。我會也。初曰。會即不無。儞試道看。米曰。請常侍擧。初乃竪起一隻筯。米曰。這野狐精。初曰。這漢徹也。嘗問僧。一切衆生還有佛性也無。曰。有。初指壁上畫狗子曰。這箇還有也無。僧無對。初自代曰。看齩着汝。無等密受馬祖心印。嘗謁初。既退將出門。初後呼之曰。和尚。等回顧。初敲柱三下。等以手作圓相。復三撥之便行。嘗與臨濟到僧堂。問這一堂僧還看經麼。濟曰。不看經。曰還習禪麼。濟曰。不習禪。曰。既不看經。又不習禪。畢竟作箇甚麼。濟曰。總敎伊成佛作祖去。初曰。金屑雖貴。落眼成翳。濟曰。我將謂是箇俗漢。有僧從潙山來。初問。山頭老漢有何言句。曰。人問如何是西來意。和尚竪起拂子。初曰。山中如何領解。曰。山中商量。即色明心。附物顯理。初曰。會便會。着甚死急。汝速去。我有書與老師。僧馳回。拆見畫一圓相。於中書箇日字。山呵々大笑曰。誰知五千里外有箇知音。仰山曰。也只

未在。曰、子又作麼。仰於地上作一圓相。書箇日字。以脚抹之而去。
贊曰、潙山拂子、敬初圓相、卽此樣、無他樣。

陳操 睦州道明禪師法嗣

陳操尚書參睦州、悟旨。凡見一僧來、先請齋、襯錢三百、須是勘辨。一日雲門到相看、便問、儒書中卽不問、十三乘二分敎、自有座主。作麼生是衲僧家行脚事。門曰、尚書曾問幾人。操曰、卽今問上座。門曰、卽今且置。作麼生是敎意。操曰、黄卷赤軸。門曰、這箇是文字語言。作麼生是敎意。操曰、口欲談而辭喪、心欲緣而慮亡。門曰、口欲談而辭喪、爲對有言。心欲緣而慮亡。爲對妄想。作麼生是敎意。操無語。門曰、見說尚書看法華經是否。操曰、是。門曰、經中曰、一切治生產業、皆與實相不相違背。且道非々想天、卽今有幾人退位。操又無語。門曰、尚書且莫草々。師僧拋却三經五論來入叢林十年二十年。尚自不奈何。尚書又爭得會。操禮拜曰、某甲罪過。一日操與僧齋次、拈起餬餅問僧、江西湖南還有這箇麼。

僧曰、尚書適來喫什麼。操曰、敲鐘謝響。又一日齋僧次、躬行餅。僧展手接。操乃縮手。僧無語。操曰、果然々々。異日問僧曰、有箇事與上座商量得麼。僧曰、合取狗口。操自摑曰、操罪過。僧曰、知過必改。操曰、恁麼卽乞上座口喫飯。又齋僧自行食次曰、上座施食。僧曰、三德六味。操曰、錯。僧無對。又與寮屬登樓、望見數僧來。一官人曰、來者總是禪僧。操曰、不是。曰、焉知不是。操曰、待近來與爾勘過。僧至樓前。操驀召曰、上座。僧皆回顧。操謂諸官曰、不信道。惟有雲門一人、他勘不得。他參見睦州來。一日操去看資福。福見來、便畫一圓相。操曰、弟子恁麼來、蚤是不著、便那堪更畫一圓相。福於中著一點。操曰、將謂是番舶主。福便掩却方丈門。一日操問睦州和尚、看甚麼經。曰、金剛經。操曰、六朝翻譯此當第幾州。擧起經曰、一切有爲法、如夢幻泡影。操問洞山价。五十二位菩薩中、爲甚不見妙覺。价曰、尚書親見妙覺。太原孚上座歸維揚。操留在宅供養。一日謂操曰、來日講一徧大涅槃經、報荅尚書。操致齋畢。孚遂陞座。良久

揮尺一下曰。如是我聞。乃召尚書。操應諾。孚曰。一時佛在。便脫去。操嘗與禪者頌曰。禪者有玄機。々々是復非。欲了機前旨。咸於句下違。

贊曰。不是陳操。勘不得雲門。々々話墮也不知。

陸希聲 仰山惠寂禪師法嗣

陸希聲相公。欲謁仰山惠寂。先作此〇圓相封呈。山開封。即於相下面書曰。不思而知。落第二頭。思而知之。落第三首。遂封回。聲見即入山。々乃門迎。聲纔入門便問。三門俱開。從何門入。山曰。從信門入。聲至法堂又問。不出魔界便入佛界時如何。山以拂子倒點三下。聲便設禮。又問。和尚還持戒否。曰。不持戒。曰。還坐禪否。曰。不坐禪。聲良久。山曰。會麼。曰。不會。山曰。聽老僧一頌。滔々不持戒。兀々不坐禪。釅茶三兩碗。意在钁頭邊。山却問。聲承聞相公看經得悟是否。曰。弟子因看涅槃經有云。不斷煩惱而入涅槃。得箇安樂處。山竪起拂子曰。秖如這箇作麼生入。曰。入之一字也不消得。山曰。入之一字。不為相公。聲便起去。

贊曰。仰山小釋迦。却被陸希聲俗漢一拶々倒。沒處去。乃云。入之一字不為相公。咦。還會也麼。既不為相公。為什麼人。不見道。釅茶三兩碗。意在钁頭邊。參。

張拙 石霜慶諸禪師法嗣

張拙秀才。參智藏。問曰。山河大地。是有是無。三世諸佛。是有是無。藏曰。有。拙曰。錯。藏曰。先輩曾參見什麼人來。拙曰。參見徑山和尚來。某甲凡有所問話。徑山皆言無。藏曰。先輩有何眷屬。拙曰。有一山妻兩箇痴頑。又問。徑山有甚眷屬。拙曰。徑山古佛。和尚莫謗渠好。藏曰。待先輩得似徑山時。一切言無。拙俛首而已。時石霜慶諸置枯木堂。齊已。貫休。泰布衲等以詩筆為佛事。惟泰布衲悟心入祖師圖。拙偶與三僧道話曰。三師中何不選一人為長老。意少石霜不善詩筆。泰曰。先輩失言也。堂頭和尚肉身菩薩。會下一千五百人。如我輩者七百餘人。如九峯。雲蓋。大光。覆船。湧泉等諸大宗師。皆在參學位中。勝我輩者七百餘人。拙愧服。

同上拜見霜。問先輩何姓。曰。姓張。名拙。霜曰。覓巧了不可得。拙自何來。拙有省。乃獻詩曰。光明寂照遍河沙。凡聖含靈共我家。一念不生全体現。六根纔動被雲遮。斷除煩惱重增病。趣向眞如亦是邪。隨順衆縁無罣礙。涅槃生死是空華。

賛曰。一念不生。全体現。太巧生。六根纔動被雲遮。太拙生。覓巧了不可得。拙自何來。咄咄。沒處去。沒處去。作這箇語話。

王延彬 長慶惠稜禪師法嗣

太傅王延彬。一日入招慶佛殿。指鉢盂問殿主。這箇是甚麼鉢。曰。藥師鉢。彬曰。只聞有降龍鉢。曰。待有龍即降。曰。忽遇拏雲騰浪來時作麼生。曰。他亦不顧。彬曰。話墮也。長慶謂彬曰。雪峯豎拂子示僧。其僧便出去。若據此僧。合喚轉痛與一頓。彬曰。是甚麼心行。慶曰。洎合放過。一日。入招慶煎茶。朗上座爲明招把銚。忽翻茶銚。彬曰。茶爐下是甚麼。朗曰。捧爐神。彬曰。既是捧爐神。爲甚麼翻却茶銚。朗曰。仕官千日。失在一朝。彬拂袖便出。招曰。朗上座。喫招慶飯。却向外邊打野榸。朗曰。上座作麼生。招曰。非人得其便。又入院見方丈閉。問演侍者。敢道大師在否。演曰。有人敢道大師不在否。又問北院。古人曰。普現色身徧行三昧。佛法爲甚不到北俱盧州。曰。只爲徧行。所以不到。明招在招慶。因普請至彬宅。取木佛。彬問大衆曰。忽遇丹霞又作麼生。衆無語。招當時提起向頂上曰。也要分付着人。一日彬請玄沙師備禪師登樓。先語客司曰。待我引大師到樓前。汝便舁却梯。客司禀旨。彬曰。請大師登樓。沙視樓復視其人。乃曰。佛法不是這箇道理。

合賛曰。西來大法。六代傳衣。五燈分焰。如師子王吼而百獸腦裂。如白澤圖懸而群妖影遁。至今閱其語要。未嘗不恨予生之脫無繇親炙參承也。乃當時若裴相國陳尚書李刺史王常侍王太傅張秀才輩。皆能除我慢禮知識。以印明此一大事。雖去聖時遙。靈山一會。儼然未散。今何如哉。吾不能無望於同志者。

王隨 首山省念禪師法嗣

丞相王隨。字子正。河南人。居嘗慕裴休之為人。參首山念禪師。得言外之旨。以御史中丞出鎮錢塘。往興教寺謁洪壽禪師。至湖上去騶從。獨步登寢堂。壽方負暄。擁毳自若。忽見之問曰。官人何姓。曰。姓王。名隨。壽推蒲團席地與坐。語笑終日而去。門人諫曰。彼王臣來。奈何不為禮。此一衆所係。非細事也。他日隨復來。寺衆撞大鐘。萬指出而迎。壽前趨立於松下。隨望見。出輿握其手曰。何不如前日相見。而遽為此禮數耶。壽顧左右。且行且言曰。中丞即得。奈知事嗔何。隨愈重之。自是履踐益深。竟明大法。與楊大年俱號參禪者。先是大年編次傳燈錄三十卷。隨去其繁。為十五卷。名玉英集。臨終書偈曰。畫堂燈已滅。彈指向誰說。去住本尋常。春風掃殘雪。

贊曰。王公參首山。發明心地。且置是事。跡其去騶從。候興教。席地笑語。王臣耶。野僧耶。吾不知為誰。

楊億 廣慧元璉禪師法嗣

楊億。字大年。建州人。官翰林學士。幼舉神童。及壯負才名。而未知有佛。一日。過同僚。見讀金剛經。笑且罪之。彼讀自若。億疑曰。此豈出孔孟之右乎。何佞甚。因閱數板。懵然。乃稍敬信。後會翰林李維。勉令參問。及謫秘書監。出守汝州。首謁廣慧元璉。億問。布鼓當軒擊。誰是知音者。璉曰。來風深辨。億曰。恁麼則禪客相逢祇彈指也。璉曰。君子可八。億應諾諾。璉曰。草賊大敗。夜話次。璉曰。秘監曾與甚人道話來。億曰。某曾問雲門諒監寺。兩箇大蟲相咬時如何。諒曰。一合相。某曰。我只管看。未審恁麼道還得麼。璉曰。這裏則不然。億曰。請和尚別一轉語。璉以手作拽鼻孔勢曰。這畜生更踍跳在。億於言下知有。遂酬酢達旦。自是咨詢經於半載。礙膺之物。嚗然而釋。有偈曰。八角磨盤空裏走。金毛師子變作狗。擬欲將身北斗藏。應須合掌南辰後。嘗問璉曰。承和尚有言。一切罪業皆因財寶所生。勸人疎於財利。況南閻浮提衆生以財為命。邦國以財聚

人。教中有財法二施。何得勸人疎財乎。璉曰。幡竿尖上鐵龍頭。億曰。海壇馬子似驢大。璉曰。楚雞不是丹山鳳。億曰。佛滅二千歲。比丘少慚愧。又問。璉曰。天上無彌勒。地下無彌勒。未審在甚麼處。璉曰。敲甎打瓦。億置一百問。請益璉。一々答之。慈明既受大法於汾陽。辭去依唐明嵩。々曰。楊大年內翰。知見高入道穩實。子不可不見。明乃往見。億。々曰。對面不相識。千里却同風。明曰。近奉山門請。億曰。眞箇脫空。明曰。前月離唐明。億曰。適來悔相問。明曰。作家。億便喝。明曰。恰是。億復喝。明以手劃一劃。億吐舌曰。眞是龍象。明曰。是何言歟。億喚客司點茶來。曰。元來是屋裏人。明曰。也不消得。茶罷。億又問。如何是上座爲人一句。明曰。切。億曰。與麼則長裙新婦拖泥走。明曰。誰得似內翰。億曰。作家作家。明曰。放內翰二十棒。億拍膝曰。這裏是什麼處所。明拍掌曰。也不得放過。億大笑。又問。記得唐明悟時因緣否。明曰。唐明問首山佛法大意。山曰。楚王城畔汝水東流。億曰。只如此語意旨如何。明曰。水上掛燈毬。曰。與麼則孤

負古人去。明曰。內翰疑則別參。曰。三脚蝦蟇跳上天。明曰。一任跨跳。億乃又笑。館於齋中。日夕質疑智證。聞所未聞。恨相見之晚。久之辭還河東。億曰。有一語寄唐明。々曰。明月照見夜行人。曰。却不相當。明曰。更深猶自可。午後更愁人。曰。開寶寺前金剛。近日因什麼汗出。明曰。知。曰。上座臨行。豈無爲人句。明曰。重疊關山路。曰。與麼則隨上座去也。明噓一聲。億曰。眞獅子兒大師子吼。明曰。放去又收來。曰。適來失脚踏倒。又得家童扶起。明曰。有甚麼了期。億大笑。億及李遵勗嘗與嵩問答。問。彌勒演化於西方。達磨傳心於東土。胡來漢現。水到渠成。五嶽鎭靜以崢嶸。百谷朝宗而浩渺。一靈之性。託境現形。三有之中。憑何立命。嵩曰。仙人無婦。玉女無夫。億曰。尼剃頭不復生子。嵩曰。陝府鐵牛能哮吼。嘉州大象念摩訶。勗曰。側跳上山巔。嵩曰。騎牛不着靴。廣惠璉曰。進象倒戈。汾陽昭曰。端身勞面破。（妙喜曰。月下看弄雪師子）問玄沙不出嶺。保壽不渡河。善財參知識五十三員。惠遠結黑白一十八士。雪峰三度上投子。智者九旬講

法華。這六箇漢。爲復野干鳴。爲復師子吼。速道速道。嵩曰。水急魚行澁。峰高鳥不棲。億曰。泗州大聖。嵩曰。土上加泥更一重。勗曰。舌上璽金錢。嵩曰。半夜歌舞動。何人得知音。璉曰。謌謠滿路人皆望。昭曰。看壁畫人笑。（妙喜曰。野干鳴師子吼。）問。風穴提印。南院傳衣。昭公演化於西河。嵩師領徒於并壘。南宗之旨北土大興。且道。二師承誰恩力。嵩曰。不入蓮池浴。懶向雪山遊。億曰。淸涼山裏萬菩薩。嵩曰維摩會中諸聖集。勗曰。背負乾薪遭野火。嵩曰。口是禍門。璉曰。藏頭白。海頭黑。昭曰。告天手捺地噓噓。（妙喜曰。胡孫騎駱駝背。）問。忉利透日月之上。四禪無風火之災。三交駕鐵牛之車。臨汝握全提之印。獼猴有一面古鏡。狸奴有萬里神光。直下承當是何人也。嵩曰。朝看東南。暮看西北。億曰。狸奴白牯却知有。嵩曰。淹殺衆頭嵩。勗曰。月裏羨油鐺。嵩曰。石人腰帶廣。璉曰。陳蒲鞋周金剛。昭曰。直發又邊胡釘鉸。（妙喜曰。小出大過。）問。一切諸佛盡在裏許。動即喪身失命。覷着兩頭俱瞎。擬議之時。千山萬水。直下會得。也是炭庫裏坐地。有不惜眉毛者通

箇消息來。嵩曰。百雜碎。億曰。平生不妄語。嵩曰。也要道過。勗曰。出穴兎遭鷹。嵩曰。東西無滯礙。南北得自繇。璉曰。振錫下泥犂。昭曰。穿山透石壁。鼻孔血淋々。（妙喜曰。自作自受。）嵩復有頌曰。一言纔出徹龍庭。攪動須彌帝釋驚。三世諸佛齊坐了。杖頭傀儡弄雙睛。億答。今年桃李味甘香。一顆千金買得嘗。貯藥葫蘆拖鼠尾。穴門小犂轉難藏。嵩又答。千年桃核未聞香。幾度逢春難得嘗。靈龜曳尾除踪跡。沙中抱子更難藏。億又答。五臺山裏有文殊。羅漢天台洞裏居。爲問子湖一隻狗。何如興化二頭驢。嵩又答。忽聞師子吼。引出象王威。把定聖凡路。誰人敢揚眉。擬議塵沙劫。動念隔千岐。瞬目他方去。蚤已着灰泥。億再答。蜘蛛網中坐。蟲兒不敢過。昨夜三更雪。百鳥盡遭餓。果熟樹枝垂。鷲肥甑箄破。借問末山尼。何如劉鐵磨。嵩再答。山高人難上。海深不見底。樵父漫蹋鞋。漁父休誇水。言却超百億。收來維摩詰。若覓同道人。曠劫不相識。嵩作宗本頌。左顧右顧。黃昏莽鹵展手回來。蚤是彰露。且道。作麼生是彰露底句。億曰。

正殺人時皆出頭。嵩曰。兩脚捎空手叉胸。勗曰。左鬢右髮隱文帝。嵩曰。名利已彰。天下去了。頭女子倒騎牛。復曰。維摩一默。文殊贊善。若遇老僧在。彼各與三十棒。且道。這二老漢過在什麼處。億曰。頭破作七分。如阿梨樹枝。嵩曰。迦葉不擎拳。阿難不合掌。勗曰。似犢牛兒未用角時。嵩曰。忙屈拳打令。復曰。敎有明文。佛身充滿於法界。老僧今日充滿於法界。侍郎即今在什麼處。億曰。布裙一截泥露出膝蓋子。嵩曰。寬口布袴三尺杖。勗曰。河水一擔直三文。嵩曰。只見鼻頭津。不見頂後濕。億因徵恙問環大師曰。某今日違和。大師慈悲如何醫療。環曰。丁香湯一盌。億便作吐勢。環曰。恩愛成煩惱。環爲煎藥次。億叫曰。有賊。環下藥於億前。叉手側立。億瞠目視之曰。少叢林漢。環拂袖而出。又一日問曰。某四大將欲離散。大師如何相救。環乃搥胸三下。億曰。賴遇作家。環曰。幾年學佛法。俗氣猶未除。億曰。禍不單行。環作噓々聲。億書偈遺勗曰。漚生與漚滅。二法本來齊。欲識眞歸處。趙州東院西。勗一見遂曰。泰山廟裏賣紙錢。師至。億已逝矣。

賛曰。楊文公李文和與嵩和尙問答機緣。且道。是何曲調。會則如龍得水。似虎靠山。不會則打折驢腰。何以故。開口不在舌頭上。

曾會 雪竇重顯禪師法嗣

曾會字宗元。官翰林學士。幼與重顯同舍。及冠異途。天禧間値於淮甸。會將中庸大學參以楞嚴符宗門語句質顯。顯曰。這箇尙不與敎乘合。況中庸大學耶。學士須直捷理會。乃彈指一下曰。但恁麼薦取。會於言下領旨。會守四明。以書幣迎顯補雪竇。既至。會曰。會近與淸長老商量趙州勘婆子話。未審端的有勘破處也無。顯曰。淸長老道箇甚麼。會曰。又與麼去也。顯曰。淸長老且放過一著。學士還知天下衲僧出這婆子圈繢不得麼。會曰。這裡別有箇道處。趙州若不勘破婆子。一生受屈。顯曰。勘破了也。會大笑。

賛曰。趙州勘破婆子。宗元勘破趙州。雪竇勘破宗元。心空又勘破雪竇。

且道。那一箇勘破是的。彈指一下云。但恁麼薦取。

李遵勗 谷隱蘊聰禪師法嗣

駙馬都尉李遵勗謁蘊聰禪師問出家事。聰舉崔趙公問徑山欽弟子出家得否。欽曰。出家是大丈夫事。非將相之所能爲。以此公案答之。勗於言下大悟。作偈曰。學道須是鐵漢。着手心頭便判。後以此偈寄發運朱正辭。時許式亦漕淮南。辭請共和之。曰。學道須是鐵漢。着手心頭便判。辭曰。兩催樵子還家。式曰。風送漁舟到岸。又請浮山法遠和曰。參禪須是鐵漢。着手心頭便判。通身雖是眼睛。也待紅爐再煆。鉏麑觸樹迷封。豫讓藏身吞炭。鷁飛影落秋江。風送蘆花兩岸。勗尋復自和曰。參禪須是鐵漢。着手心頭便判。直趣無上菩提。一切是非莫管。一日與堅上座送別。勗問。近離上黨。得居中都。方接塵談。遽回虎錫。指雲屏之翠嶠。訪雪嶺之清派。未審。此處彼處的々事作麼生。堅曰。利劒拂開天地靜。霜力纔舉斗牛寒。勗曰。恰値今日耳聵。堅曰。一箭落雙鵰。勗曰。上座爲

甚麼着草鞋睡。堅以衣袖一拂。勗低頭曰。今日可謂降伏也。堅曰。普化出僧堂。慈明館於楊億齋中。旦夕質疑智證。一日億朝中見勗曰。近得一道人。眞西河師子。勗曰。我以拘文不能就謁奈何。億歸語明曰。李公佛法中人。聞道風遠至。有願見之心。政以法不得與侍從過從。明於是黎明謁勗。々閱謁。使童子問曰。道得卽與上座相見。明曰。今日特來相看。又令童子曰。碑文刋白字。當道種青松。明曰。不因今日節。餘日定難逢。童子又出曰。都尉言。與麼則與上座相見去也。明曰。脚頭脚底。勗乃出。坐定問曰。我聞西河有金毛師子。是否。明曰。什麼處得此消息。勗便喝。明曰。野干鳴。勗又喝。明曰。恰是。勗大笑。旣辭去。勗問。如何是上座臨行一句。明曰。好消息。曰。何異諸方。明曰。都尉又作麼生。曰。放上座二十棒。明曰。專爲流通。勗又喝。明曰。瞎。曰。好去。明曰。諾々。明自是往來楊李之門。以法爲友。後還唐明。勗遣兩僧訊問。明於書尾畫雙足。寫來僧名以寄之。勗作偈曰。黑毫千里餘。金櫛示雙趺。人天渾莫測。珍重赤鬚胡。

億嘗問。釋迦六年苦行。成得甚麼邊事。勗曰。擔折知柴重。實元戊寅遣使邀明。曰。海內法友惟師與楊大年。大年棄我而先。僕年來頓覺衰落。忍死以一見公。明惻然。舟而東下。抵京與勗會。月餘而勗果歿。々時膈胃燥熱。有尼道堅謂曰。衆生見劫盡。大火所燒時。都尉切宜照管主人公。勗曰。大師與我煎一服藥來。堅無語。勗曰。這師姑。藥亦不會煎得。乃畫一圓相。又作偈獻明曰。世界無依。山河匪礙。大海微塵。須彌納芥。拈起幞頭。解下腰帶。若覓死生。問取皮袋。明曰。如何是本來佛性。曰。今日熱如昨日。隨聲便問明。臨行一句作麼生。明曰。本來無罣礙。隨處任方圓。曰。晚來困倦。更不答話。明曰。無佛處作佛。於是泊然而逝。

賛曰。無孔笛子撞着氈拍板。

許式 洞山曉聰禪師法嗣

太守許式參曉聰。得正法眼。聰嘗自植松。式以詩贈曰。語言全不滯。高躡祖師蹤。夜坐連雲石。春栽帶雨松。鑑分金殿影。山答月樓鐘。有問西來意。虛空對遠峰。一日與泐潭澄上藍溥坐次。澄曰。聞郎中道。夜坐連雲石。春栽帶雨松。當時答洞山甚麼話。式曰。今日放衙蚤。澄曰聞答。泗州大聖在楊州出現。底是否。式曰。別點茶來。澄曰。名不虛傳。式曰。和尙蚤晚回山。澄曰。今日被上藍覰破。溥便喝。澄曰。須是儞始得。式曰。不柰船何。打破戽斗。式漕西蜀時。道經汝陽謁廣惠璉。々接見於佛前。式曰。先拜佛。先拜長老。璉曰。蝦蟇吞大蟲。式曰。恁麼則總不拜去也。璉曰。運使話墮。式曰。許長老具一隻眼。璉以衣袖便拂。式曰。今日看破。便禮拜。式入上藍。僧堂問首座。年多少。曰。六十八。曰。僧臘多少。曰。四十七夏。式曰。聖僧得幾夏。曰。與虛空齊受戒。式拍板頭曰。下官喫飯。不似首座喫鹽多。

賛曰。夜坐連雲石。春栽帶雨松。坐是誰坐。栽是誰栽。道得許儞。親見洞山來。道不得。亦許伊具一隻眼。

夏竦 谷隱蘊聰禪師法嗣 ○夏竦立朝事業。史多遺譏。顧晚年悟道。聖人不棄。又何疑。

夏竦字子喬。德安人。契機谷隱。一日上藍溥至。竦問。百骸潰散時。那箇是長老自家的。溥曰。前月二十離蘄陽。溥却問。竦。百骸潰散時。那箇是長老自家的。竦便喝。溥曰。喝則不無。畢竟那箇是相公自家的。竦對以偈曰。不認風前第一機。太虛何處着思惟。山僧若要通消息。萬里無雲月上時。溥曰。也是弄精魂。

贊曰。萬里無雲月上時。且道。是第幾機。第二第三。落七落八。總不與麼。咄。休認着。認着依前還不是。

范仲淹 瑯琊惠覺禪師法嗣

范仲淹字希文。吳郡人。宋仁宗朝累官樞密參知政事。守吳日。瑯琊惠覺禪師來謁。留數日。淹於言下知歸。贈覺偈曰。連朝共話釋疑團。豈謂浮生半日閑。直欲與師閑到老。盡收識性入玄關。淹嘗宣撫河東。宿保德傳舍。獲故經一卷。名十六羅漢因果頌。藏經所未錄。淹爲之叙曰。此頌文一尊者七首。皆悟本成佛之言。予讀之。一頌一悟。方知人世有無

邊聖法。大藏遺落其文。因以付沙門惠喆。俾行於世。起居舍人尹洙嘗參法眼悟道。與淹爲莫逆交。臨終日。先以手書別淹。々馳至。慟哭之。洙張目曰。已與公別。何用復來。且死生常理。希文豈不曉乎。言訖。端坐而逝。淹幼時讀書長白山中。一日於寺中得窖金。覆之不取。及貴語僧。出金修寺。生平行業焜燿史冊。卒諡文正。追封楚國公。 尹洙字師魯。謫居大梁時。與法眼禪師游。一日謂眼曰。洙邇來頗以退靜爲得。眼曰。曷若退靜兩忘。洙即有省。臨終日手書別范文正公。適朱從事炎至。洙謂炎曰。吾素學佛於禪師法眼者。乃今資此也。 朱炎。眞宗時爲節度判官。久讀海眼。未知趣入。一日問講僧義江曰。此身死後。此心何在。江曰。此身未死。此心何在。炎契旨。述偈曰。四大不須先後覺。六根還向用時空。難將語默呈師也。只在尋常默語中。江曰。更須吐却。 晁迥字明遠。清豐人。歷事三朝。以太子少傅致仕。卒年八十四。諡文元。當弱冠時。遇高士劉惟一。訪以生滅之事。一曰。人常不死。迥駭之。一曰。形死性不滅。

逈始悟其說。自是留意禪觀。嘗有詩曰。鍊鑛成金得寶珍。鍊情成性得天眞。相逢此理交談者。千百人中無一人。又嘗曰。予觀寶積經中末後云。若彼比丘於一切法。但取一行極隨順者。所謂無生是謂禪行。予詳此語。若有灼然明禪理。而學佛者止用此一科足矣。逈謝政後。燕居獨處道院。不治他務。戒家人無輙有請。子宗愨擢進士。易章服詣謝。逈亦不顧。晚年尙讀壇經。其七世孫。見其後題云。時年八十一。第十六次看過。』

李沆字太初。眞宗時拜相。卒謚文靖。居嘗端默寡言。深通釋典。尤厭榮利。家人以所居第湫隘勸治之。沆曰。身食厚祿。時有橫賜。計亦可治。但念內典。以此世界爲缺陷。安得圓滿如意自求稱足耶。堂下花檻欹損。經歲不問。有請之者曰。豈以此故動吾一念哉。臨終盛暑停屍七日。顏色不變。吐香如蓮華。』

杜衍字世昌。山陰人。慶曆中爲相。封祁國公。與張方平皆致仕。居睢陽里巷相往來。衍每笑安道佞佛。對賓客必以此嘲之。方平但笑而已。有朱承事者。以醫學遊二公間。常謂平曰。杜公天下偉人。惜未知此事。公有力。盍不勸發之。平曰。君與此老緣熟勝我。々止能助之耳。一日。衍召朱。切脈甚急。朱謂使者曰。汝先往白相公但云看楞嚴經未了。使者如所告馳白衍。默然久之。乃至。衍隱几揖令坐。徐曰。老夫以君疏通解事。不意近亦例闒茸。如所謂楞嚴者何等語。乃爾耽着。聖人微言無出孔孟。捨此而取彼。是大惑也。朱曰。相公未讀此經。何以知不及孔孟。以某觀之。似過之也。袖中出其首卷曰。相公試閱之。衍取默觀。不覺終軸。忽起大驚曰。世間何從有此書耶。遣使盡持其餘來。徧讀之。捉朱手曰。君眞我知識。安道知之久。而不以告我何哉。卽命駕見平敘其事。平曰。譬如人失物忽已尋得。但當喜其得之而已。不可追悔其得之蚤晚也。僕非不相告。以公與朱君緣熟。故遺之耳。雖佛祖化人。亦必藉同事也。衍大悅。』

張方平字安道。號樂全。宋城人。官太子少師。謚文定。以廣大心爲淸淨覺。慶曆中嘗爲滁州守。游瑯琊山抵藏院。偶見楞伽經取視之。忽感悟前身事。入手恍然如獲舊物。開卷

未終夙障氷解。細視筆畫手跡宛然。讀至世間離生滅。猶如虛空華。遂
明已見。偈曰。一念在生滅。千機縛有無。神鋒輕舉處。透出走盤珠。暮年
以此經授蘇軾。且以錢三十萬使印施江淮間。軾乃爲書而刻之。王安
石嘗問平曰。孔子去世百年而有孟子。後絕無人何也。平曰。豈無人。亦
有過之者。曰。誰。曰。南嶽讓。嵩山珪。馬祖。石頭。丹霞。無業。雪峰。巖頭。若此
類是也。安石聞舉。意不甚解。乃問曰。何謂也。平曰。儒門淡薄。收拾不住。
盡歸釋氏矣。安石欣然嘆服。後舉似張無盡。無盡撫几曰。達人之論也。
贊曰。史稱。范公宋朝人物第一。及考其參惠覺有盡收識性入玄關之
句。自非禪學精深。何以解行卓絕乃爾。孟軻氏云。有本者如是。予亦云。
但得本莫愁末。又云。向上一着。其知有此事者。宋以後出自宰官居士
爲多。如晁文元李文靖杜祁公張文定輩。雖師承印證考據無從。然皆
見地高明。履踐眞確。有古尊宿遺風。因各附錄之。以爲宗乘之一助云。

楊傑 天衣義懷禪師法嗣

楊傑字次公。無爲人。號無爲居士。少年登科。官尚書主客郎中。提點兩
浙刑獄。尊崇佛法。歷參名宿。晚從天衣義懷禪師遊。懷每引老龐機語
令參究。後奉祀泰山。一日雞方鳴。睹日如盤湧。忽大悟。乃別有男不婚
有女不嫁之偈曰。男大須婚。女長須嫁。討甚閑工夫。更說無生話。書以
寄懷。々稱善。後會芙蓉道楷禪師。傑曰。與師相別幾年。曰。七年。曰。學道
來。參禪來。曰。不打這鼓笛。曰。恁麼則空游山水。百無所能也。曰。別來未
久。善能高鑒。傑大笑。一日與寶果昌遊山。傑拈起飯石問曰。既是飯石。
爲甚麼咬不破。昌曰。秖爲太硬。傑曰。猶涉煩詞。昌曰。未審。提刑作麼生。
傑曰。硬。昌曰。也是第二月。傑爲昌寫七佛殿額。乃問。七佛重出世時如
何。昌曰。一回相見一回新。傑然之。傑嘗謂僧曰。大凡學道之人。十二時
中嘗須照顧。不見南泉道。三十年看一頭水牯牛。若犯人苗稼。摘鼻拽
回。如今變成露地白牛。躶々地放他不肯去。諸人長須着精彩。不可說
禪道之時。便有箇照帶的道理。洗菜作務之時。不可便無知也。如雞抱

卵。若抛離起去。暖氣便不接。不成種子。如今萬境森羅。六根煩動略失照顧。便致喪身失命。不是小事。傑平居以淨土自信。繪丈六阿彌陀佛隨身觀念。嘗曰。愛不重不生娑婆。念不一不生極樂。凡聖一躰。機感相通。諸佛心內衆生塵々極樂。衆生心中淨土念々彌陀。若自棄已靈是誰之咎。臨終作辭世偈曰。生亦無可戀。死亦無可捨。太虛空中。之乎者也。將錯就錯。西方極樂。說偈已。端坐而化。

贊曰。參禪也錯。學道也錯。西方也錯。而是無爲子獨奮然將錯而就錯。噫。吾亦安得將錯就錯。如無爲子其人也者。而與之共商于古之一大錯。

劉經臣 智海本逸禪師法嗣

劉經臣字興朝。少以逸才登仕版。於佛法未之信。年三十二。會東林聰與語啓廸之。乃敬服。因醉心祖道。既而抵京師。謁惠林冲。於僧問雲寶如何是諸佛本源。寶曰。千峯寒色。語下有省。歲餘官睢幕。參韶山杲。將去任辭韶。々曰。公如此用心。何愁不悟。爾後或有非常境界無量歡喜。宜急收拾。若收拾得去。便成法器。若收拾不得。則有不常之疾。成失心之患矣。未幾。謁智海逸。請問因緣。逸曰。古人道。平常心是道。儞十二時中放光動地。不自覺知。向外馳求。轉踈轉遠。臣益疑不解。一夕入室。逸擧波羅提尊者對香至王見性成佛之語。問臣不能對。疑甚。歸寢至五更覺來方追念間。見種々異相。表裏洞徹。六根震動。天地回旋。如雲開月現。喜不自勝。忽憶韶山所囑。遂抑之。及明。悉以所得告逸。々曰。更須用得始得。曰。莫要履踐否。逸厲聲曰。這箇是甚麼事。却說履踐。臣默契。遂著明道諭儒篇以警世。曰。明道在乎見性。余之所悟者見性而已。孟子曰。口之於味也。目之於色也。耳之於聲也。鼻之於臭也。四肢之於安逸也性也。楊子曰。視聽言貌思。性所有也。有見於此則能明乎道矣。當知道不遠人。々之於道。猶魚之於水。未嘗須臾離也。惟其迷已逐物故。終身繇之而不知。佛曰大覺。儒曰先覺。蓋覺此耳。昔人有言曰。今古應

無隙。分明在目前。又曰。大道只在目前。要且目前難覩。欲識大道眞體。不離聲色言語。又曰。夜々抱佛眠。朝々還共起。々倒鎭相隨。語默同居止。欲識佛去處。只這語聲是。此佛者之語道爲最親者。立則見其參於前也。在輿則見其倚於衡也。瞻之在前也。忽焉在後也。取之左右逢其原也。此儒者之語道最邇者。奈何此道惟可心傳。不立文字。故世尊拈花。而妙心傳於迦葉。達磨面壁。而宗旨付於神光。六葉既敷。千花競秀。分宗列派。各有門庭。故或瞬目揚眉。擎拳擧指。或行棒行喝。竪拂拈槌。或持叉張弓。輥毬舞笏。或拽石搬土。打皷吹毛。或一默一言。一噓一笑。乃至種々方便。皆是親切爲人。然只爲太親。故人多罔措。瞥然見者。不隔絲毫。其或沈吟。迢々萬里。欲明道者。宜無忽焉。祖々相傳。至今不絶。眞得吾儒所謂憤而不發。開而不達者矣。余之有得。實在此門。反思吾儒自有此道。良哉。孔子之言。默而識之。一以貫之。故目擊而道存。指掌而意喩。凡若此者。皆合宗門之妙旨。得敎外之眞機。然而孔子之道傳之子思。子思傳之孟子。孟子既歿。不得其傳。而所以傳於世者。特文字耳。故余之學。必求自得而後已。幸余一夕開悟。凡目之所見。耳之所聞。心之所思。口之所談。手足之所運動。無非妙者。得之既久。日益見前。每以與人。々不能受。然後知其妙道果不可以文字傳也。嗚呼是道也。有其人則傳。無其人則絶。余既得之矣。誰其似之乎。終余之身而有其人耶。無其人耶。所不可得而知也。故爲記頌歌語以流播其事。而又著此篇以諭吾徒云。

贊曰。儒釋從來元一貫。祇爲時人眼不開。雖然如是。昔高峰和尚嘗擧六祖不會佛法公案頌曰。祖師不會禪。夫子不識學。棒打石人頭。嚗々論實事。恁麼看來。劉居士也須惜取眉毛好。

孫比部 楊岐方會禪師法嗣

比部孫居士因楊岐方會禪師來謁。値視斷次。孫曰。某爲王事所牽。何緣免離。會指曰。委悉得麼。孫曰。望師點破。會曰。此是比部弘願深廣利

濟群生。孫曰。未審如何。會示以偈曰。應現宰官身。廣弘悲願深。爲人重指處。棒下血淋々。孫於此有省。「一提刑楊畋在楊岐山下過。方會禪師出接。畋問。和尚法嗣何人。曰。慈明大師。曰。見箇甚麼道理。便法嗣佗。曰。共鉢盂喫飯。曰。與麼則不見也。會捺膝曰。甚麼處是不見。畋大笑。會曰。須是提刑始得。又曰。請入院燒香。畋曰。却待回來。會乃獻茶信。畋曰。這箇却不消得。有甚乾爆々底禪。希見示些子。會指茶信曰。這箇尚自不要。豈況乾爆々底禪。畋擬議。會呈頌曰。示作王臣。佛祖罔指。爲指迷源。殺人無數。畋曰。和尚爲甚麼就身打劫。會曰。元來是我家裏人。畋大笑。會曰。山僧罪過。「一王安石字介甫。與蔣山贊元遊如昆弟。問祖師意旨。元不答。益扣之。元曰。公般若有障三。有近道之質一。更一兩生來。或得純熟。曰。願聞其說。曰。公受氣剛大世緣深。以剛大氣遭深世緣。必以身任天下之重。懷經濟之志。用舍不能必。則心未平。以未平之心持經世之志。何時能一念萬年哉。又多怒而學問尚理。於道爲所知愚。此其三

也。特視名利如脫髮。甘澹泊如頭陀。此爲近道。且當以教乘滋茂之可也。石再拜受教。及貴震天下。無月無耗。元未嘗發視。罷政府。舟至石頭入寺已二鼓。元出迎。一揖而退。石坐東偏。從官賓客滿座。石環視問師所在。侍者曰。已寢久矣。

贊曰。嘗讀楊岐參石霜。至幽鳥語喃々。辭雲入亂峰。便覺通身汗下。厥後臨濟一宗。惟楊岐子孫獨盛。悉符異日兒孫滿天下之記。蓋源遠流長。理勢所必至耳。當時無論勘論衲子。跡其煆煉。孫居士數語亦大然諸訛還委悉麼。直饒玄會得。猶是眼中沙。又曰。楊提刑雖師承無據。乃作家相見。箇是老手。王介甫卽宗眼未開。然虛心訪道。亦自可人。

青蓮居士對

居士分燈錄卷上終

居士分燈錄卷下

雲間心空朱時恩輯
同郡心岫王元瑞閱
日本森大狂校

李端愿 達觀曇頴禪師法嗣

節使李端愿。兒時在館舍。常閲禪書。長雖婚宦。然篤志祖道。遂於後圃築室類蘭若。邀曇頴禪師處之。朝夕咨參至忘寢食。頴一日視愿曰。非示現力。豈致爾耶。奈無箇所入何。愿問曰。天堂地獄畢竟是有是無。頴曰。諸佛向無中說有。眼見空華。太尉就有裡尋無。手撈水月。堪笑眼前見牢獄不避。心外聞天堂欲生。殊不知忻怖在心。善惡作境。太尉但了自心。自然無惑。曰。心如何了。曰。善惡都莫思量。曰。不思量後心皈何所。曰。且請太尉皈宅。又問。人死心皈何處。曰。未知生焉知死。曰。生則端愿已知。曰。生從何來。愿擬議。頴揕其胸曰。祇在這裡思量箇甚麼。曰。會也。

曰。作麼生會。曰。只知貪程。不覺蹉路。頴拓開曰。百年一夢。今朝方省。應
說偈曰。三十八歲。懵然無知。及其有知。何異無知。滔々汴水。隱々隋堤。
師其皈矣。箭淚東馳。
贊曰。有知無知。夜斷木馬。

趙抃 佛惠法泉禪師法嗣

趙抃字悅道。自號知非子。晝之所爲。夜必焚香告天。宋至和中爲侍御。
彈劾不避貴戚。居常以一琴一鶴自隨。有僧上詩曰。須向維摩頂上行。
嗣後攄去聲色。繫心宗教。從天鉢寺重元禪師問道。會佛惠法泉居衢
之南禪。抃日參扣。泉未嘗容措一詞。後牧青州。政事之餘多宴坐。忽大
雷震。即契悟。作偈曰。默坐公堂虛隱几。心源不動湛如水。一聲霹靂頂
門開。喚起從前自家底。舉頭蒼々喜復喜。刹々塵々無不是。中下之人
不得聞。妙用神通而已矣。泉聞笑曰。趙悅道撞彩耳。富鄭公弼初於宗
門未有所趣。抃勉之書曰。抃思西方聖人。教外別傳之法。不爲中下根

機之所設也。上智則頓悟而入。一得永得。愚者則迷而不復。千差萬別。
惟佛與佛。以心傳心。其利生接物。而不得已者。遂有棒喝拳指。揚眉瞬
目。拈椎竪拂。語言文字。種々方便。去聖逾遠。諸方學徒。忘本逐末。棄源
隨波。滔々皆是。斯所謂可憐憫者矣。抃不佞。去年秋初。在青州因有所
感。既已稍知本性無欠無餘。古人謂安樂法門。信不誣也。比蒙太傅侍
中俾求禪錄。抃素出息紀聞之喜快。不覺手舞而足蹈。伏惟執事富貴
如是之極。道德如是之盛。福壽康寧如是之備。退休閑逸如是之高。其
所未甚留意者。如來一大事因緣而已。今茲又復於眞性有所悟入。抃
敢爲賀於門下也。年七十二。致仕歸三衢。與山僧野老往來無間。名所
居爲高齋。題偈曰。腰佩黃金已退藏。箇中消息也尋常。時人要識高齋
老。只是柯村趙四郎。復曰。切忌錯認。臨終遺泉書曰。非老師平日警誨。
至此必不得力矣。遂偏辭親友。其子岏問後事。抃厲聲叱之。少頃語如
平時。趺坐而化。壽七十七。謚清獻。泉悼以偈曰。仕也邦爲瑞。歸歟世作

程。人間金粟去。天上玉樓成。惠劍無纖缺。氷壺徹底清。春風瀫水路。孤月照雲明。

賛曰。霹靂頂門開。有麼々々。喚起自家底。作麼作麼。趙悅道撞彩。却較些子。雖然如是。放過則不可。扇子𨁝跳上三十三天。築着帝釋鼻孔。東海鯉魚打一棒。雨似盆傾。

富弼　華嚴修顒禪師法嗣

富弼字彥國。河南人。慶曆中與文彥博竝相。封鄭國公。緣趙清獻策勵之後。晝夜精進。方鎮亳州。時聞修顒法席之盛。往質所疑。見顒登座顒視。如象王回旋。已微有得。因執弟子禮。請爲入室。顒見即曰。相公已入來。富弼猶在外。弼聞汗流浹背。即大悟。尋以偈寄圓照本曰。一見顒公悟入深。因緣傳得老師心。江山千里雖云隔。目對靈光與妙音。又迎顒館於州治。咨以心法。別後答顒書有曰。弼遭遇和尚。即無始以來忘失事。一旦認得。此後定須拔出生死海。不是尋常恩。知雖盡力道斷。道不出也。每念古尊宿。始初在本師處。動三二十年。少者亦是數十年。日夕侍奉。是聞道聞法。方得透頂透底。却思弼兩次蒙和尚垂顧。共得兩箇月請益。更作聰明過人。能下得多少工夫。若非和尚巧設方便。着力擿發。何緣見箇涯岸。復寄書本曰。弼留心祖道。爲日已久。常恨不遇明眼人。開發蒙陋。昨幸守亳。與顒州接境。請得顒師下訪。相聚幾月。以慈悲方便之力。令有悟處。會結夏逼日。四月初遽且歸顒。其於指磨淘汰。則殊未有功。衰病相仍。昏鈍難入。昔古靈師所謂。不期臨老得聞極則事。見之於弼今日矣。弼雖得法顒師。然本源緣老和尚而來。宗派甚的。必須亦欲成持。更望垂慈攝受。遠賜接引。未至令至。則爲南嶽下龎蘊。百丈下裴休也。後奏署顒師號。顒上堂。謝語有曰。彼一期之悞我。亦將錯而就錯。弼作偈賛曰。萬木千花欲向榮。臥龍猶未出滄溟。彤雲彩霰呈嘉瑞。依舊南山一色青。

文彥博字寬夫。介休人。歷事四朝。出入將相五十餘年。官至太師。封潞國公。守洛陽日。嘗致齋往龍安寺。瞻禮聖像。

忽見像壞墮地。略不加敬。但瞻視而出。旁有僧曰。何不作禮。博曰。像既壞。吾將何禮。僧曰。譬如官路土。人掘以爲像。智者知路土。凡人謂像生。後來官欲行還。將像塡路。像本不生滅。路亦無新故。博聞之有省。以使相鎭北京時。與天鉢寺重元禪師善。一日元來謁別。博曰。師老矣。復何往。元曰。入滅去。博笑謂其戲語。躬自送之皈。與師弟言。其道韻深穩。談笑有味。非常僧也。使人視之。果已坐脫。太驚嘆異。時方盛暑。香風襲人。久之闍維。煙色白瑩。舍利無數。博親往臨觀。執上所賜白瑠璃瓶。置座前祝曰。佛法果靈。願舍利塡吾缾。言卒。煙自空而降。布入瓶中。烟滅。舍利如所願。博自是慕道益力。恨知之暮。專念阿彌陀佛。晨香夜坐。未嘗少懈。每發願曰。願我常精進。勤修一切善。願我了心宗。廣度諸含識。乃與淨嚴法師。集十萬人爲淨土會。如如居士有頌贊曰。知君膽氣大如天。願結西方十萬緣。不爲一身求活計。大家齊上渡頭船。臨終安然念佛而化。壽九十二。

歐陽修字永叔。盧陵人。初不信佛。嘉祐六年。爲參知政事兼譯經潤文使。既登二府多病。嘗夢至一所。十人冠冕環坐。一人曰。參政何得至此。宜速返舍。修出門數步。復往問曰。君等豈非釋氏所謂十王者耶。曰。然。因問。世人飯僧造經。果有益乎。曰。安得無。既寤病良已。自是始生信心。居洛時遊嵩山。却僕吏放意而往。至一寺。修竹滿軒。風物鮮美。修休於殿內。旁有老僧閱經自若。修問。誦何經。曰。法華。修曰。古之高僧。臨死生之際。類皆談笑脫去。何道致之。曰。定慧力耳。又問。今何寂寥無有。曰。古人念々定慧。臨終安得散亂。今人念々散亂。臨終安得定慧。修大嘆服。後以太子少師致仕居潁州。因潁守極道修顒禪師德業。乃備饌延顒。既至。修遽問曰。浮圖之教何爲者。顒乃欵論。指妙揮微。優游於華藏法界之都。從容於帝網明珠之內。修竦然曰。吾初不知佛書其妙至此。易簀時。召子弟切誡曰。吾生以文章名當世。力詆浮圖。今此衰殘。忽聞奧義。方將研究。命也奈何。汝等勉旃。無蹈後悔。於是捐酒肉撤聲色。灰心默坐。令老兵近寺借華嚴經。讀至八卷。乃安坐而

逝。』范鎭字景仁。累官翰林學士。或問鎭。何以不信佛。鎭曰。爾必待我合掌膜拜。然後爲信耶。黄庭堅。一日過鎭。終日相對。正身端坐。未嘗回顧。亦無倦色。鎭曰。吾二十年來。胸中未嘗起一思慮。二三年來。不甚觀書。若無賓客。終日獨坐。夜分方睡。雖兒曹歡呼。咫尺皆不聞。堅曰。公却是學佛作家。』司馬光字君實。封温國公。初不喜禪。自富韓問法於圓照後。忽有所契。范鎭以爲譏。光曰。吾豈謂天下無禪。但吾儒所聞。有不必捨我而從其書耳。後因鎭論空相。遂以詩戲曰。不須天女散。已解動禪心。鎭不納復戲之曰。賤子悟已久。景仁今復迷。又曰。到岸何須筏。揮鋤不用金。浮雲任來往。明月在天心。作解禪六偈曰。忿怒如烈火。利欲如銛鋒。終朝長戚々。是名阿鼻獄。顔回安陋巷。孟軻養浩然。富貴如浮雲。是名極樂國。孝弟通神明。忠信行蠻貊。積善降百祥。是名作因果。言爲百世師。行爲天下法。久々不可掩。是名不壞身。仁人之安宅。義人之正路。行之誠且久。是名光明藏。道義修一身。功德被萬物。爲賢爲大聖。是名佛菩薩。』邵雍字堯夫。范陽人。居洛四十年。安貧樂道。冬不爐夏不扇。夜不就席者數年。有學佛吟曰。飽食豊衣不易過。日長時節奈愁何。求名壯歲投宣聖。怕死去年親釋迦。妄欲斷緣々愈重。邀求去病々還多。長江一片平如練。幸自無風又起波。』呂公著字晦叔。與司馬光並相。光初不喜佛。著勸之曰。佛學心術簡要。撥其至要而識之。大率以正心無念爲宗。非必事々服習爲方外人也。光然之。一日。帝從容問治道。遂及釋老。著問曰。堯舜知此道乎。帝曰。堯舜豈不知。著曰。堯舜知此。而惟以知人安民爲急。所以爲堯舜也。屬纊時。雖子孫滿前親朋還至。初不談及身世事。

賛曰。富鄭公嘗追念。古尊宿奉侍本師。動是三二十年。方得透頂透底。而自恨其請益日淺。此豈空腹高心。認鍮作金者哉。所謂研窮至理。以悟爲則。生々居學地。而自鍛鍊者。殆其人矣。古德云。百尺竿頭須進步。十方世界是全身。予於鄭公。不能無低徊焉。

又贊曰。文潞公。歐陽永叔。范景仁。司馬君實。邵堯夫。呂晦叔。皆焜燿史册。振世人豪也。乃考其生平。靡不洞明佛理。無異作家禪客。永叔始雖力排。終能開悟。又詎可與淺根者同日道哉。

潘興嗣 黃龍慧南禪師法嗣

潘興嗣。字延之。南州人。初調德化縣尉。同郡許珹始拜江州守。嗣往見之。珹不爲禮。遂懷刺歸。竟不之官。問道於惠南。獲其印可。嘗曰。我淸世之逸民。故自號淸逸居士。當是時。黃龍法道大振。四方學徒。調暨恐後。雖自謂飽參者。至則憮然就弟子之列。嗣問其故。南曰。父嚴則子孝。今日之訓。後日之範也。譬諸地。隆者下之。窪者平之。彼將登於千仞之上。吾亦與之俱。因而極於九淵之下。吾亦與之俱。伎之窮則妄盡而自釋也。又曰。昫之嫗之。春夏之所以生育也。霜之雪之。秋冬之所以成熟也。吾欲無言得乎。南又嘗以佛手。驢脚。生緣三語。勘問學者。莫能契其旨。天下叢林。目爲黃龍三關。脫有詶者。南無可否。斂目危坐。人莫涯其意。

嗣又問其故。南曰。已過關者。掉臂徑去。安知有關吏。從吏問可否。此未透關者也。嗣自嘉祐以來。公卿交薦章數十上。堅不就。隱居豫章東湖。琴書自娛。一日。潛菴源來訪。見其拂琴次。源曰。老々大々。猶弄箇線索在。嗣曰。也要彈教響。源曰。也不少。嗣曰。知心能幾人。

贊曰。覺範題公畫像云。毘盧無生之藏。扆且有道之器。談妙義。借身爲舌。擎大千以手爲地。機鋒不減龐蘊。而解文字。禪行藏大類孺子。而值休明世。舒王彊之而不可。神考致之而不起。此天下士大夫所共聞。然公豈止於是而已哉。噫豈止於是。四箇字。分明畫出潘延之。

張商英 兜率從悅禪師法嗣

張商英。字天覺。號無盡居士。童兒日記萬言。年十九應擧。入京。道經向氏。先一夕。向夢神告明日接相公。英至。向異之。遂妻以女。一日遊僧舍。見藏經裝潢嚴麗。怫然曰。我孔聖之書。乃不及胡人。皈坐書室。吟哦至三皷。向氏曰。夜深何不睡。去。英遂以前意對曰。正此著無佛論。向氏應

聲曰。既是無佛。何論之有。須著有佛論始得。英疑其言乃止。後訪一同列。見佛龕前維摩經。信手探閱。到此病非地大。亦不離地大處。輙嘆曰。胡人之言。亦能爾耶。遂借歸閱次。向氏問讀何書。曰維摩經。曰可熟讀此經。然後著無佛論也。英悚然異其言。於是深信佛乘。留心祖道。元祐七年。漕江西。首謁東林總。總詰英所得。見與己符合。因印可之。且曰吾有得法弟子住玉溪。可與語。暨英按部過分寧。諸禪迓之。先致敬玉溪。最後問兜率從悅。悅爲人短小。英曾見龔德莊說其聰明可人。乃曰。聞師聰敏善文章。悅笑曰。運使失却一隻眼也。從悅臨濟九世孫。若以聰敏對運使論文章。政如運使對從悅論禪也。英默識之。乃遊兜率。悅謂首座曰。張運使過此。吾當深錐痛劄。若肯回首。則吾門幸甚。座曰。今之士大夫受人取奉慣。恐其惡發別生事也。悅曰。正使煩惱。祇退得我院。也別無事。英與語至更深。論及宗門事。悅曰。東林既印可運使。運使於佛祖言教有少疑否。曰。比看傳燈錄。尊宿機緣。惟疑香嚴獨脚頌。德山托鉢話。悅曰。既於是有疑。其餘則是心思意解。何嘗至大安樂境界。且如巖頭言末後句。是有耶是無耶。曰。有。悅大笑。歸方丈閉却門。英一夜睡不穩。至五更。下床趯翻溺器。忽大省。發。喜甚。即扣方丈門曰。已捉得賊了也。悅曰。贓在甚麼處。英無語。悅曰。都運且去。來日相見。翌日遂獻頌曰。鼓寂鐘沉托鉢回。巖頭一拶語如雷。果然只得三年活。莫是遭他授記來。悅曰。參禪祇爲命根不斷。依語生解。如是之說。公已深悟。然至極微細處。使人不覺不知。墮在區宇。乃作頌證之曰。等閑行處。步々皆如。雖居聲色。寧滯有無。一心靡異。萬法非殊。休分躰用。莫擇精麤。臨機不礙。應物無拘。是非情盡。凡聖皆除。誰得誰失。何親何疎。拈頭作尾。指實爲虛。翻身魔界。轉脚邪塗。了無逆順。不犯工夫。悅室中嘗設三語以驗學者。一曰。撥艸瞻風。祇圖見性。即今上人性在甚麼處。二曰。識得自性。方脫生死。眼光落地時。作麼生脫。三曰。脫得生死。便知去處。四大分離向甚麼處去。英各答之。頌一曰。陰森夏木杜鵑鳴。日破浮雲宇宙清。

莫對。曾參問。曾晳。從來孝子諱爺名。二曰。人間鬼使符來取。天上花冠色正萎。好箇轉身時節子。莫教閻老等閑知。三曰。皷合東村李大妻。西風曠野淚沾衣。碧蘆紅蓼江南岸。却作張三坐釣磯。未幾悅入滅。英拜相。奏謚眞寂。出知河南府。圓悟克勤謁之於荊南。劇談華嚴旨要。曰。華嚴現量境界。理事全眞。所以。即一而萬。了萬爲一。一復一。萬復萬。浩然莫窮。心佛衆生。三無差別。卷舒自在。無碍圓融。此雖極則。終是無風匝々之波。英於是不覺促榻。悟遂問曰。到此與祖師西來意爲同爲別。曰。同矣。悟曰。且得沒交涉。英有慍色。悟曰。不見。雲門道。山河大地無絲毫過患。猶是轉句。直得不見一色。始是半提。更須知有向上全提時節。彼德山臨濟豈非全提乎。英乃首肯。翌日。復擧事法界理法界。至理事無礙法界。悟又問。此可說禪乎。曰正好說禪也。悟笑曰。不然。正是法界量裏在。蓋法界量未滅。若到事々無碍法界。法界量滅。始好說禪。如何是佛。乾屎橛。如何是佛。麻三斤。是故眞淨偈曰。事々無碍。如意自在。手把

猪頭。口誦淨戒。趂出淫坊。未還酒債。十字街頭解開布袋。英嘆曰。美哉之論。豈易得聞乎。覺範惠洪會英於峽之善溪。英自謂。得龍安悅禪師末後句。叢林畏與語。因夜話及之。曰。可惜。雲菴不知此事。洪問所以。英曰。商英頃自金陵酒官移知豫章。過瓪宗見之。欲爲點破。方敘悅末後句未卒。此老大怒罵曰。此吐血禿丁脫空妄語不得信。既見其盛怒。更不欲敘之。洪笑曰。相公但識龍安口傳末後句。而眞藥現前不能辨也。英大驚。起執洪手曰。老師眞有此意耶。洪曰。疑則別參。乃取家藏雲菴頂相。展拜贊之。書以授洪。其詞曰。雲菴綱宗。能用能照。天皷希聲。不落凡調。冷面嚴眸。神光獨耀。孰傳其眞。覿面爲肖。前悅後洪。如融如肇。宣和二年春。館大惠宗杲於府第四齋。爲法喜遊。一日。語杲曰。余頃在江寧戒壇院寓居。再閱雪竇拈古至百丈再參馬祖因緣。雪竇曰。大冶精金應無變色。投卷曰。審如是。豈得有臨濟今日耶。遂作一頌曰。馬師一喝大雄峯。深入髑髏三日聾。黃檗聞之驚吐舌。江西從之立宗風。因擧

似平禪師。平後致書云。去夏閱臨濟宗派、知居士得大機大用、憾諸方
學語之流、來求頌本。乃成頌寄之曰。吐舌耳聾師已曉、搥胸祇得哭蒼
天。盤山會裏翻筋斗。到此方知普化顚。今又數年。諸方往々以余爲聰
明博記。少知余者。公自江西法窟來、必辨優劣。試爲老夫言之。果曰。居
士見處、與眞淨死心合。近世得此機用、獨二老矣。曰何謂也、果乃擧眞
淨頌曰。客情步々隨人轉。有大威光不能現、突然一喝雙耳聾、那吒眼
開黃檗面。死心拈曰。雲巖要問雪竇、既是大冶精金應無變色、爲甚却
三日耳聾。諸人要知麼。從前汗馬無人識、祇要重論蓋代功。英躍然擬
几曰。不因公語。爭見眞淨死心用處。若非二老、難顯雪竇馬師。乃述偈
曰。馬師喝下立宗風。嗟我三人見處同。海上六鰲香餌去、樓蘆誰更問
漁翁。果別去、英囑。必見圓悟。遂津致行李到京。一見便授大法、宣和四
年十一月。黎明口占遺表、命子弟書之。作偈曰。幻質朝章八十一。漚生
漚滅無人識。撞破虛空皈去來。鐵牛入海無消息。言訖取枕擲門窓上、

聲如雷震。衆視之。已逝矣。有頌古行於世。

贊曰。張無盡欲造無佛論。自向氏激發。始知留意宗乘。然當其受印可
於東林。猶未廓然也。迨參龍安得末後句。復與勤巴子理會華嚴四無
礙。而鼻孔依然向下垂矣。此時若喚作無佛一莖艸。忽現丈六金身。若
喚作有佛丈六金身。又現一莖艸。畢竟如何。龜毛拂子。兎角拄杖。

往生集云。商英嘗著發願文云。思此世界。五濁亂心。無正觀力。無了
因力。自性惟心。不能悟達。謹遵釋迦世尊金口之教。專念阿彌陀佛。
求彼世尊願力攝受。待報滿時。往生極樂。如順水乘舟。不勞自力而
至矣。蓮池太師贊曰。無盡悟禪宗於兜率悅公。而拳々乎安養是念。
其爲計審矣。雖西方瑞應史未詳錄。而據因以考果。不生西方將奚
生哉。

蘇軾 東林常總禪師法嗣

蘇子瞻眉山人。名軾號東坡。初母程氏方娠。夢一僧至門。瘠而眇。後弟

轍官高安時。眞淨文聖壽聰。時々相過從。一夕三人同夢迎五祖戒。俄
而軾至。理夢事。軾曰。某年七八歲。嘗夢身是僧往來陝右。眞淨曰。戒禪
師陝右人也。暮年棄五祖。來遊高安。終於大愚。逆數盖五十年。而軾時
年四十九。又戒眇一目。乃悟軾前身即戒和尚云。嘉祐初。登進士直史
館。元豐三年謫黃州。時佛印了元、住皈宗。軾與酬酢。妙句煙雲爭麗。自
黃徙汝。因遊廬山。宿東林。與照覺常總論無情話。有省。黎明獻偈曰。溪
聲便是廣長舌。山色豈非清淨身。夜來八萬四千偈。他日如何舉似人。
又曰。橫看成嶺側成峰。遠近看山了不同。不識廬山眞面目。祇緣身在
此山中。抵荊南。聞玉泉承皓機鋒不可觸。擬抑之。即微服求見。皓問尊
官高姓。軾曰。姓秤。乃秤天下長老底秤。皓喝曰。且道這一喝重多少。軾
無對。自此益重禪宗。未幾皈陽羨。舟次瓜步。以書抵金山了元曰。不必
出山。當學趙州上等接人。元得書徑來。軾迎笑問之。即說偈曰。趙州當
日少謙光。不出山門見趙王。爭似金山無量相。大千都是一禪床。軾撫

掌稱善。知登州。石塔戒來迎。軾曰。吾欲一見石塔。以行速不及也。戒
起曰。看這箇是甎浮圖耶。軾曰。有縫奈何。戒曰。若無縫。爭解容得世間
螻蟻。軾爲首肯。元祐丙寅。除翰林學士。己巳。出知杭州。復過金山。謁了
元。留數月。元所居方丈名妙高臺。軾有詩曰。我欲乘飛車。東訪赤松子。
蓬萊不可到。弱水三萬里。不如金山去。清風半帆耳。中有妙高臺。雲峯
自孤起。仰觀初無路。誰信平如砥。臺中老比丘。碧眼照窓几。巉々玉爲
骨。凜々霜入齒。機鋒不可觸。千偈如翻水。何須尋德雲。只此比丘是。長
生未暇學。請學長不死。壬申知揚州。一日。石塔遣侍者求解院事。軾問。
長老何往。對欲皈西湖。遂率僚佐同至石塔。令擊鼓。袖中出疏使晁無
咎讀之曰。大士何曾說法。誰作金毛之聲。衆生各自開堂。何關石塔之
事。去無作相。住亦隨緣。惟戒公長老。開不二門。施無盡藏。念西湖之久
別。亦是偶然。爲東坡而少留。無不可者。一時稽首。重聽白槌。渡口船迴。
依舊雲山之色。秋來雨過。一新鐘鼓之音。九月召爲禮部尚書兼端明

侍讀學士。甲戌安置惠州。舟次金陵。阻風江滸。迎蔣山泉萬卷至。問曰。如何是智海之燈。泉以偈對曰。指出明々是甚麼。舉頭鷄子穿雲過。從來這盌最希奇。解問燈人能幾箇。軾欣然亦作偈曰。今日江頭天色黑。砲車雲起風欲作。猶望鐘山喚寶公。林間白塔如孤鶴。寶公骨冷喚不應。却有老泉來喚人。電眸虎齒霹靂舌。爲余吹散千峰雲。南來萬里亦何事。一酌曹溪知永味。他年若畫蔣山圖。仍作泉公喚居士。泉說偈曰。脚下曹溪去路通。登堂無復問旛風。好將鐘阜臨岐句。說似當年踏碓翁。軾在惠州。了元致書曰。子瞻中大科。登金門。上玉堂。遠放寂寞之濱。權臣忌子瞻爲宰相耳。人生一世間。如白駒過隙。三十年功名富貴。轉眄成空。何不一筆勾斷。尋取自家本來面目。萬劫常住。永無墮落。昔有問師佛法在甚處。師曰。在行住坐臥處。着衣喫飯處。屙屎撒尿處。沒理沒會處。死活不得處。子瞻胸中有萬卷書。下筆無一點塵。到這地位。不知性命所在。一生聰明要做甚麼。三世佛則是一箇有血性的漢子。子瞻若能脚下承當。把三二十年富貴功名。賤如泥土。努力向前。珍重珍重。庚辰。復朝奉郎。辛巳。度嶺北歸。中止常州。請老以本官致仕。南遷日。携阿彌陀佛像一軸。曰。此軾生西方公據也。至是疾革。徑山惟琳來候曰。端明勿忘西方。軾曰。西方不無。但箇裡着力不得。語畢而逝。嘗題自已照容曰。心似已灰之木。身如不繫之舟。問汝平生功業。黃州惠州瓊州。

贊曰。坡公出世一番。與佛印法泉諸老宿互相提唱。闡揚佛法。紫柏云。東坡老賊。以文字爲綠林。出沒於峰前路公荆棘叢中。竊弓藥箭。無處不藏。專候殺人不貶眼索性漢。一觸其機。刀箭齊發。尸横血濺。碧流成赤。儞且道。他是賊不是賊。試辨驗着。若辨得。管取從來攔路石沸湯潑雪。

又贊曰。古德云。東坡門外漢耳。夫以坡公見地。猶在門外。則佛法豈易言乎。雖然。千載而下讀公之文。因而知有佛法。公殆以文章作佛事也。

意其人亦乘願而來。乘願而往者耶。是又惡容輕置喙矣。

蓮池本師贊曰。老泉爲薦先亡。曾於極樂院造六菩薩像。而子由往來法門。亦甚密邇。蓋蘇氏之歸心三寶素矣。世有刻西方公據者。增以俚語。謂出自坡公。此誣也。具眼者勿因僞而併棄其眞。師又曰。愚聞之。古德云。士大夫英敏過人者。多自僧中來。然嘗疑之。迷而不返者什九。不負宿因者什一。其故何也。五濁惡世。多諸退緣。賢者所難免也。故戒禪師後身爲東坡。青禪師後身爲曾魯公。喆禪師後身耽富貴。多憂苦。夫東坡最爲親近法門。而曾公已不之及。彼喆老之後身。其迷抑又甚矣。古今知識。所以勸人捨五濁而求淨土也。然則劉遺民而下諸君子所得。不既多乎。

黃庭堅 黃龍祖心禪師法嗣

太史黃庭堅。字魯直。號山谷。以般若夙習。雖膴仕。瀞如也。出入宗門。未有所向。好作艷詞。人爭傳之。嘗謁圓通秀。秀呵曰。大丈夫翰墨之妙。甘施於此乎。秀方戒李伯時畫馬事。堅笑曰。又當置我於馬腹中耶。秀曰。汝以艷語動天下人婬心。不止馬腹中。正恐生泥犂耳。堅悚然悔謝。繇是絕筆。惟孳孳於道。著發願文。痛戒酒色。日止朝粥午飯而已。元祐間。丁家艱。館黃龍山。參晦堂祖心。乞指捷徑處。堂曰。祗如仲尼道。二三子以我爲隱乎。吾無隱乎爾。太史居常如何理論。堅開口便道。不是不是。正窘迫次。適有一人至。堂問。誰遣汝來。其人曰。大林葉秀才。又問。有書否。曰。有。又問。書何在。其人即引手背抽衣領。擧書呈堂。堂曰。學道到此人田地方可。堅有愧色。一日侍堂山行次。時巖桂盛開。堂曰。聞木樨花香麼。曰。聞。堂曰。吾無隱乎爾。堅欣然領解。即拜曰。和尚得恁麼老婆心切。堂笑曰。祗要公到家耳。時與堂高弟死心悟新。靈源惟清。允篤方外契。久之謁心於雲巖。隨衆入室。心見張目問曰。新長老死。學士死。燒作兩堆灰。向甚麼處相見。堅無語。心約出曰。晦堂處參得底。使未著在。後左官黔南。道力愈勝。於無思念中頓明死心所問。報以書曰。往日嘗蒙

苦口提撕。長如醉夢。依稀在光影中。蓋疑情不盡。命根不斷故。豈崖而退耳。謫官在黔南道中。晝臥覺來。忽然廓爾。尋思平生。被天下老和尚謾了多少。惟有死心道人不肯。乃是第一相爲也。靈源寄以偈曰。昔日對面隔千里。如今萬里彌相親。寂寥滋味同齋粥。快話諠諧契主賓。室內許誰參化女。眼中休去覓瞳人。東西南北難藏處。金色頭陀笑轉新。堅和曰。石工來斲鼻端塵。無手人來斧始親。白牯狸奴心即佛。龍睛虎眼主中賓。自携瓶去沽村酒。却着衫來作主人。萬里相看常對面。死心寮裡有清新。堂入寂。堅作塔銘。復弔以偈曰。海風吹落楞伽山。四海禪徒着眼看。一把柳絲收不得。和烟搭在玉欄干。嘗以書勉胡少汲曰。公學道頗得力耶。治病之方。當深求禪悅。照破生死之根。則憂畏淫怒。無處安脚。病既無根。枝葉安能爲害。投子聰老。海會演老。道行不愧古人。皆可親近殊勝。從文章之士學妄言綺語。增長無明種子也。聰老猶喜接高明士大夫。開卷論說。便穿諸儒鼻孔。若於義理得宗趣。却觀舊所

讀書。境界廓然。六通四闢。極省心力。然有道之士。須以志誠懇惻皈向。古人所謂下人不精。不得其眞。此非虛語。一侍郎韓宗古。嘗以書問晦堂曰。昔聞和尚開悟。曠然無疑。但無始以來煩惱習氣。未能頓盡。爲之奈何。堂答曰。敬承中書諭及。昔時開悟。曠然無疑。但無始以來煩惱習氣。未能頓盡。然心外無剩法者。不知煩惱習氣。是何物而欲盡之。若起此心。翻成認賊爲子也。從上以來。但有言說。乃是隨病設藥。縱有煩惱習氣。但以如來知見治之。皆是善巧方便。誘引之說。若是定有習氣可治。却是心外有法。而可盡之。譬如靈龜曳尾於塗。拂迹迹生。可謂將心用心。轉見病深。苟能明達心外無法。法外無心。心法既無。更欲教誰頓盡耶。一九江守彭器資。每見尊宿必問。道人命終多自繇。或云。自有旨訣可聞乎。往々有妄言之者。器資竊笑之。暮年守湓江。延晦堂至郡齋。日夕問道。從容問曰。臨終果有旨訣乎。曰。有之。曰。願聞其說。曰。待公死時即說。器資不覺起立曰。此事須是和尚始得。洪覺範嘆賞其言。作偈

曰。馬祖有件則來。彭公死時即道。睡裏虱子咬人。信手摸得革蚤。王正言問死心悟新曰。嘗聞。三緣和合而生。又聞。即死即生。何故有奪胎而生者。新曰。如正言作漕使。隨所住處。即居其位。還疑否。曰。不疑。新曰。復何疑也。王於言下領解。

顯謨朱世英問眞淨克文佛法大意。文以書答曰。辱書。以佛法爲問。佛法至妙無二。但未至於妙。則互有長短。苟至於妙。則悟心之人。如實知自心究竟本來成佛。如實自在。如實安樂。如實解脫。如實淸淨。而日用惟用自心。自心變化。把得便用。莫問是非。擬心思量。已不是也。不擬心。一々天眞。一々明妙。一々如蓮花不着水。所以迷自心故作衆生。悟自心故成佛。而衆生即佛。佛即衆生。緣迷悟故有彼此也。如今學者。多不信自心。不悟自心。不得自心明妙受用。不得自心安樂解脫。心外妄有禪道。妄立奇特。妄生取捨。縱修行。落外道二乘禪寂斷見境界。英得書有省。後覺範至臨川。與英遊相好。俄上藍長老至。謂英曰。覺範聞工詩耳。禪則其師猶錯。矧弟子耶。英笑曰。師能

勘驗之乎。上藍曰。諸。居一日。同遊疎山飯於逆旅。上藍以手畫案謂洪曰。經軸之上必題介字。是何義。洪卽畫圓相。橫一畫曰。是此義也。上藍愕然。洪爲作偈曰。以字不成八不是。法身睡着無遮蔽。衲僧對面不知名。百衆人前喚不起。上藍歸擧似英。英拊手曰。孰謂詩僧。亦能識字義乎。

衛州王大夫遺其名。以喪偶厭世相。遂參元豊淸滿。言下知歸。滿一日謂曰。子乃今之陸亘也。王便掩耳。既而回壇山之陽。縛茅自處者三載。偶歌曰。壇山裡日何長。青松嶺白雲鄉。吟鳥啼猿作道場。散髮釆薇歌又笑。從敎人道野夫狂。

贊曰。黃山谷護戒如護明珠。參禪如參鐵壁。事師友不啻事父兄。勸同志不啻勸子弟。現宰官身續佛惠命。若而人者庶幾無愧。

又贊曰。韓宗古。彭器資。王正言。朱世英。各有入頭處。且道。衛州王大夫掩耳。是有語。是無語。

吳恂 黃龍祖心禪師法嗣

吳恂字德夫。興元府人。任豫章法曹。時郡帥王韶迎晦堂入城。咨決心要。恂亦往參。堂曰。公平生學解。記憶多聞即不問。父母未生已前。道將一句來。恂窘無以對。遂日夕提撕此語。忽自知有。而機未發。偶閱鄧隱峯傳。見其倒卓化去。衣亦順身不褪。忽疑曰。彼化之異固莫測。而衣亦順之何也。趨問堂。堂曰。公今侍立。是順是逆。曰。是順。曰還疑否。曰。不疑。曰。自既不疑。何疑於彼。恂言下開解。連呈三偈曰。中無門戶四無旁。學者徒勞捉影忙。珍重故園千古月。夜來依舊不曾藏。盧峯居士舊門人。邈得師眞的々親。大地撮來成箇眼。翻騰別是一般新。咄。這多知俗漢。咬盡古今公案。忽於狼藉堆頭。拾得蜣蜋糞彈。明々不直分文。萬兩黃金不換。等閒拈出示人。祇爲走盤難看。咦。堂答偈曰。水中得火世還稀。看著令人特地疑。自古不存師弟子。如今却許老胡知。發別去。堂又送偈曰。海門山險絕行蹤。蹈斷牢關信已通。自有太平基業在。不論南北與西東。

王韶 晦堂祖心禪師法嗣

學士王韶字子淳。帥西塞。自以殺業重。祈爲澡雪。請佛印了元說法上藍。印炷香曰。此香爲殺人不眨眼。將軍立地成佛大居士。衆稱善。韶亦悠然意消。出刺洪州時。延晦堂問道。默有所契。因述投機頌曰。晝曾忘食夜忘眠。捧得驪珠欲上天。却向自身都放下。四楞榻地恰團圓。呈堂。堂深肯之。

合贊曰。吳德天拾得蜣蜋糞彈。後不直分文。王子淳却向自身放下時。驪珠何在。心空要斷這不平公案。各々放伊三頓痛棒。且道。是賞伊。是罰伊。

郭祥正 白雲守端禪師法嗣

郭祥正字功甫。母夢李白而生。皇祐四年。守端寓歸宗時。正任星子主簿。往叩心法。迨端往承天。遷圓通。正復尉於德化。往來尤密。端移白雲海會。正自當塗往謁。端曰。牛醇乎。曰。醇矣。端厲聲叱之。正不覺拱而立。

端曰。醇乎醇乎。南泉大潙無異此也。於是。鳴鼓陞座。曰。牛來山中。水足草足。牛出山去。東觸西觸。夜來枕上。作得箇山頌。謝功甫大儒廬山二十年之舊。今日遠訪白雲之勤。請已後分明舉似諸方。直要與天下有鼻孔衲僧。脫却着肉汗衫。莫言不道。乃曰。上大人丘乙己。化三千七十士。爾小生八九子。佳作仁可知禮也。正切疑後學小兒誦之。忽有省。以書報端。端答偈曰。藏身不用縮頭。斂跡何須收脚。金烏半夜撩天。玉兎趕他不着。元祐中。往衢之南禪謁泉萬卷。請陞座。正趨前拈香曰。海邊枯木入手成香。爇香爐中。橫穿香積如來鼻孔。作此大事。須是對衆白過始得。雲居老人有箇無縫布衫。分附南禪禪師。着得不長不短。進前則諸佛護位。退步則海水澄波。今日嚬呻六種震動。遂召曰。大衆還委悉麼。有意氣時添意氣。不風流處也風流。泉曰。遲相鈍置。正曰。因誰致得。崇寧初到五祖。請法演陞座。正趨前拈香曰。此一瓣香。爇向爐中。供養我堂頭法兄禪師。伏願於方廣座上。劈開面門。放出先師頂相。與他諸人描邈。何以如此。白雲巖畔舊相逢。往日今朝事不同。夜靜水寒魚不食。一爐香散白蓮峯。演遂曰。曩謨薩怛哆鉢囉野。恁麼恁麼。幾度白雲溪上望。黃梅花向雪中開。不恁麼不恁麼。嫩柳垂金線。且要應時來。不見龐居士問馬大師云。不與萬法爲侶者。是甚麼人。大師云。待汝一口吸盡西江水。即向汝道。大衆一口吸盡西江水。萬丈深潭窮到底。畧彴不是趙州橋。明月清風安可比。又至雲居。請了元陞座。正拈香曰。覺地相逢一何早。鶻臭布衫今脫了。要識雲居二句玄。珍重後園驢喫草。召大衆曰。此一瓣香。爇天炙地去也。元曰。今日不着便。被這漢當面塗糊便打。乃曰。謝公千里來相訪。共話東山竹徑深。借與一龍騎出洞。若逢天旱便爲霖。擲拄杖下座。正拜起。元曰。收得龍麼。曰。已在這裡。元曰。作麼生騎。正擺手作舞便行。元拊掌曰。祇有這漢猶較些子。正隱青山。所著有醉吟菴詩文三十卷。號青山集。

贊曰。無影樹。無縫塔。從何處描邈。

周敦頤 佛印了元禪師法嗣

周敦頤字茂叔。春陵人。初見晦堂心。問教外別傳之旨。心諭之曰。只消向儞自家屋裏打點。孔子謂。朝聞道夕死可矣。畢竟以何爲道。夕死可耶。顏子不改其樂。所樂何事。但於此究竟。久久自然有箇契合處。又扣東林總禪師。總曰。吾佛謂。實際理地。即眞實無妄誠也。大哉乾元萬物資始。資此實理。乾道變化。各正性命。正此實理。天地聖人之道。至誠而已。必要着一路實地工夫。直至於一旦豁然悟入。不可只在言語上會。又嘗與總論性及理法界事法界。至於理事交徹。冷然獨會。遂著太極圖說。語語出自東林口訣。因遊廬山。樂其幽勝。遂築室焉。時佛印了元寓鸞溪。頤謁之。相與講道。問曰。天命之謂性。率性之謂道。禪門何謂無心是道。元曰。疑則別參。頤曰。參則不無。畢竟以何爲道。元曰。滿目青山一任看。頤豁然有省。一日忽見窻前草生。乃曰。與自家意思一般。以偈呈元曰。昔本不迷今不悟。心融境會豁幽潛。草深牕外松當道。盡日令人看不厭。遂請元作青松社主。以媲白蓮故事。頤嘗嘆曰。吾此妙心。實啓廸於黃龍。發明於佛印。然易理廓達。自非東林開遮拂拭。無繇表裏洞然。頤後倡明道學。學者稱爲濂溪先生。

程顥字伯淳。洛陽人。神宗朝進士。以道學爲己任。世稱明道先生。嘗曰。佛說光明變現。初莫測其旨。近看華嚴合論。却說得分曉。應機破惑。名之爲光。心垢解脫。名之爲明。只是喩自心光明。便能教化得人。光照無盡世界。只在聖人一心之明。所以諸經之先。皆說放光一事。顥每見釋子讀佛書。端莊整肅。乃語學者曰。凡看經書。必當如此。今之讀書者。形容先自怠惰了。如何存主得。一日過定林寺。偶見衆僧入堂。周旋步武。威儀濟濟。一坐一起。並準清規。乃嘆曰。三代禮樂盡在是矣。候世與問。孟子必有事焉而勿正。心勿忘。勿助長也。顥引禪語曰。心則不有。事則不無。候當下有省。又問儒佛同異。顥曰。公本來處還有儒佛否。

顥弟程頤。伊川先生。或問。佛說生死事如何。頤曰。譬如水上漚。又問。佛說生死輪回可否。頤曰。此事說

有無皆難。須自見得。聖人只一句斷盡了。曰。未知生。焉知死。游酢字定夫。官監察御史。師事二程。嘗致書開福寧禪師曰。儒者執五常。欲各盡其分。釋氏謂。世間虛妄。要人反常合道。旨殊用異何歟。寧答曰。人溺情塵愛網。晝思夜度。無一息之停。須力與之決。收其放心。死生乃可出。若只括其同異。揭々為盡分於郛郭之間。我習內薰愛緣外染。於道何能造合。能反其常。則心自通。道自合。不然難以口舌爭也。又問。造道必有要法。寧曰。道不在說與示也。說示者方便耳。須用就己知非。外求有相。佛與汝不相似也。酢默然。呂居仁以書問酢曰。定夫既從二程學。後又從諸禪遊。則儒釋兩家必無滯閡。敢問。所以不同何也。酢答曰。佛書所說。世儒亦未深考。往年嘗見伊川曰。吾之所攻者迹也。然迹安所從出哉。此事須親到此地。方能辨其同異。前輩往往不曾看佛書。故詆此。如此而其所以破佛者。乃佛書正不以為然者也。一謝良佐字顯道。上蔡人。與游酢楊時呂大臨在二程之門號四先生。有問求仁如何下工夫。佐曰。如曾子顏色容貌辭氣上做亦得。出辭氣者。猶佛所謂從此心中流出。今人唱一喏。不從心中出。便是不仁。不識痛癢了也。時呂大忠理會仁字不透。佐曰。世人說仁。只管着愛上。怎生見得仁。只如力行近乎仁。力行關愛甚事。忠起立悟曰。公說仁字正與尊宿談禪一般。一楊時字中立。從二程游。得河洛之傳。世號龜山先生。嘗曰。微生高乞醯與人。孔子以為不直。維摩經曰。直心是道場。儒佛至此。實無二理。時與東林總禪師友善。謂總曰。禪學雖高。却於儒道未有所得。總曰。儒道要緊處也記得些子。且道。君子無入而不自得。得箇甚麼。時默然。嘗論形色天性一章曰。此與釋氏色空之論何異。一日過詹季魯家。詹問易。時取紙畫一圈於上曰。此便是易。又和陳瑩中絕句曰。畫前有易方知易。曆上求玄恐未玄。白首紛如成底事。蠹魚徒自老青編。又曰。盈科日進幾時休。到海方能止衆流。只恐違多狂未歇。坐馳還愛鏡中頭。

贊曰。濂溪開伊洛之傳。而考其淵源。實自佛印黃龍點破。所著太極圖

亦得之東林。至於兩程師弟。靡不從禪門中印證。然則佛氏何負於儒。而儒者乃忍爲入室之戈耶。善哉伊川之言曰。吾所攻者迹也。然迹安所從出哉。知此可與談儒釋一貫宗趣矣。

戴道純 靈源惟清禪師法嗣

戴道純字孚中。官寺丞。一日咨扣靈源惟清。有省。乃呈偈曰。杳寔源底全機處。一片心花露印文。知是幾生曾供養。時々微笑動香雲。

高世則 芙蓉道楷禪師法嗣

高世則字仲貽。號無功。以節度使判温州。參芙蓉道楷。一日忽造微密。呈偈曰。懸崖撒手任縱橫。大地虛空自坦平。照壑輝巖不借月。菴頭別有一簾明。

合贊曰。心花印文。虛空坦平。洞山臨濟。是一是二。

陳瓘 靈源惟清禪師法嗣

陳瓘字瑩仲。號了翁。又號華嚴居士。立朝骨鯁剛正。有古人風烈。留神內典。議論奪席。獨參禪未大發明。禪宗因緣多以意解。酷愛南禪師語錄。詮釋殆盡。惟金剛與泥人揩背注解不行。嘗語人曰。此必有出處。但未有知之者。諺曰。大智惠人面前。有三尺暗。果不誣也。後謁靈源惟清。執聞色以求解會。清曰。執解爲宗。何日偶諧。瓘乃開悟。寄清偈曰。書堂兀兀萬幾休。日暖風柔草木幽。誰識二千年底事。如今只在眼睛頭。

劉安世字器之。號元城。從司馬光受學。嘗曰。老先生於佛法極通曉。但不言耳。又嘗曰。孔子佛氏之言相爲終始。孔子之言。毋意。毋必。毋固。毋我。佛之言。無我。無人。無衆生。無壽者。其言次弟若出一人。但孔子以三綱五常爲道。故色色空空之說。微開其端。令人自得耳。孔子之心佛心也。假若天下無三綱五常。則禍亂又作。人無噍類矣。豈佛之心乎。故儒釋道其心皆一。門庭施設不同耳。嘗謂弟子馬永卿曰。禪之一字。於六經中亦有此理。但佛法既敝。人皆認着色相。達磨西來。直指人心。見性成佛。上根聰悟。多喜其說。故禪道大行。若渠不來。佛法之滅久矣。予之

南遷。雖平日於吾儒喫緊處得力。然亦不可謂此事不得力。世間事有大於死生者乎。而此事獨一味理會生死。有箇見處。則於貴賤禍福輕矣。又嘗取楞嚴經示永卿曰。觀音大士薰聞成聞。六根銷復。同於聲聽。能令衆生臨當被害。其兵戈猶如割水。亦如吹光。性無動搖。蓋割水吹光。而水火之性不動搖耳。猶如遇害。而吾性湛然。此觀音無畏之力也。又云。音性圓銷。觀聽返入。離諸塵妄。能令衆生禁繫枷鎖。所不能著。謂人得無畏力。則枷鎖不能爲害。吾友可以此理諭人。使後人不至謗佛。

贊曰。了翁了翁。孰解爲宗。若非靈源點破。一生狂走鏡中頭。

又曰。李屏山鳴道集說曰。劉元城謂。司馬溫公極通佛理。但不言耳。所以然者。蓋爲孔子地也。吾謂。佛書精微幽隱之妙。合於世典者。亦惟世儒能發揮之。與其秘而不言。不若從其原本合一處。盡力闡揚。使天下萬世咸知六經中有禪。而吾聖人已爲佛也。其爲孔子地。不亦大乎。屏山此論最高。人莫之及。

蘇轍 洪州順禪師法嗣

蘇轍字子由。號潁濱。累官翰林學士門下侍郎。佛印住金山。轍獻偈曰。蟲沙印佛佛欣受。怪石供僧僧不嫌。空手遠來還要否。更無一物可增添。印答曰。空手持來放下難。三賢十聖聚頭看。此般供養能歆享。木馬泥牛亦喜歡。元豐三年。轍謫高安。會黄檗全於城寺。全熟視曰。君靜而慧。苟留心宗門。何患不成此道。轍識之。因習坐。數求決於全。無契。後省聰居壽聖。轍以此事往問。聰不答。轍又問聰。徐曰。圓照未嘗以道語人。吾今亦無以語子。轍於是得言外之旨。又嘗咨心法於洪州順。順示以搐鼻因緣。轍言下大悟。作偈呈曰。中年聞道覺是非。邂逅相逢老順師。搐鼻徑參眞面目。掉頭不受別鉗鎚。枯藤破衲公何事。白酒青鹽我是誰。慚愧東軒殘月上。一杯甘露滑如飴。

贊曰。溪聲山色。白酒青鹽。難爲兄。難爲弟。

胡安國 上封秀禪師法嗣

胡安國字康侯。崇安人。紹聖中進士。累官給事中。幼時。便有出塵之趣。彊學力行。以聖人為標的。久參上封秀。得言外之旨。崇寧中過藥山。有禪人舉南泉斬猫話問安國。安國以偈答曰。手握乾坤殺活機。縱橫施設在臨時。玉堂兎馬非龍象。大用堂堂總不知。又寄上封有曰。祝融峰似杜城天。萬古江山在目前。須信死心元不死。夜來秋月又團圓。嘗世京晚年好佛。嘗以書寄安國曰。并州歌舞妙麗。閉目不窺。日以談禪為上。安國曰。若如所論。未達禪理。閉目不窺。已是一重公案。

贊曰。識塵中主。得教外傳。死心不死。安國常安。

范冲 圓通旻禪師法嗣

范冲字謙叔。一字致虛。絲翰苑。守豫章。過圓通謁旻禪師。茶罷曰。某宿世作何福業。今生墮在金紫行中。去此事稍遠。旻呼內翰。冲應諾。旻曰。何遠之有。冲躍然曰。乞師再垂指示。旻曰。此去洪都有四程。冲佇思。旻曰。見便見。擬思即差。冲豁然有省。

吳居厚

樞密吳居厚。擁節鈑鍾陵。謁旻曰。某往赴省試。過趙州關。因問前住訥老。透關底事如何。訥曰。且去做官。今不覺五十餘年。旻曰。曾明得麼。曰。八次經過。常存此念。然未甚脫灑在。旻度扇與之曰。請使扇。吳即揮扇。旻曰。有甚不脫灑處。吳忽有省。曰。便請末後句。旻揮扇兩下。吳曰。親切親切。旻曰。吉獠舌頭三千里。

彭汝霖

諫議彭汝霖。手寫觀音經。施旻。旻拈起曰。這是觀音經。那箇是諫議經。曰。此是某親寫。曰。寫底是字。那箇是經。霖笑曰。却了不得也。曰。即現宰官身而為說法。曰。人人有分。曰。莫謗經好。曰。如何即是。旻舉經示之。霖拊掌大笑曰。嗄。旻曰。又道了不得。霖禮拜。

盧航

中丞盧航。與旻擁爐次。航問。諸家因緣不勞拈出。直截一句。請師指示。

旻厲聲揖曰看火航急撥衣忽大悟謝曰灼然佛法無多子旻喝曰放下着航應諾諾

都貺

左司都貺問旻曰是法非思量分別之所能解如何湊泊旻曰全身入火聚曰畢竟如何會旻曰驀直去貺沈吟旻曰可更喫茶麼曰不必旻曰何不甚麼會貺契旨曰元來大近旻曰十萬八千貺占偈曰不可思議是大火聚便恁麼去不離當處旻曰咦猶有這箇在貺曰乞師再垂指示旻曰便恁麼去鐺是鐵鑄貺頓首謝之

合贊曰可惜五箇赤稍鯉魚向圓通虀甕裡醃殺

徐俯 圓悟克勤禪師法嗣

樞密徐俯字師川號東湖居士每侍其父龍圖禧謁法昌及靈源語論終日俯聞之藐如也逮法昌皈寂在笑談間俯異之始篤信此道後丁父憂念無以報罔極請源至孝址說法源登座問答已乃曰諸仁者只

如龍圖讀萬卷書如水傳器涓滴不遺且道尋常着在甚麼處而今捨識之後這着萬卷書底又却向甚麼處着俯聞灑然有得遂曰吾無憾矣源下座問曰學士適來見箇什麼便恁麼道俯曰若有所見則鈍置和尚去也源曰恁麼則老僧不如俯曰和尚是何心行源大笑靖康初爲尚書外郎與朝士同志者挂鉢於天寧寺之擇木堂力參圓悟克勤悟亦喜其見地超邁一日至書記寮指悟頂相曰這老漢脚跟猶未點地在悟顰面曰甕裡何曾走却鱉俯曰且喜老漢脚跟點地悟曰莫謗他好俯休去

贊曰徐師川悟旨於靈源而又挂鉢於圓悟脚跟猶未點地在

趙令衿 克勤禪師法嗣

郡王趙令衿字表之號超然初任南康多與禪衲游公堂前爲摩詰丈室適圓悟居歐阜衿往參欣然就其鑪鞴悟不少假衿固請悟曰此事要得相應直須是死一回始得衿默契嘗自疏略曰家貧遭劫誰知盡

底不存、空室無人。幾度賊來亦打、悟見囑令加護、謁大慧、慧聞令擊鼓
入室。衿袖香趨之。慧曰。趙州洗鉢盂話、居士如何會。衿曰。討甚麼椀、拂
袖便出。慧起趨住曰、古人過這裡悟去、儞爲甚不悟。衿擬對、慧掀之曰。
討甚麼椀。衿曰。還這老漢始得。悟嘗示法語曰。曹山辭悟本、問向甚處
去。云不變易處去。不變異處豈有去耶。云。去亦不變異、自非脚踏實地、
安能透徹如此。豈以語言機思、所可測量哉。蓋履踐深極。到無可滲漏
之致。然後羅籠不住、學道之士、立志外形骸、一死生、混古今、絕來去、要
須攀上流。造詣至眞諦實淵奧閫域。打辦自己。脫白露淨、無絲毫意想
墮在塵緣。直下心如枯木朽株。如大死人無些氣息、心心無知、念念無
住、千聖出來。移換不得。乃可以向枯木上生華、發大機起大用、與慈運
悲。乃無功之功、無作之作。豈落得失是非哉。纔留一毫毛、則抵捂於生
死界。自已未能度。安能度人。維摩大士不住金粟位、入酒肆淫坊作大
解脫佛事。龎老子補處應身。不住兜率陀、棄却珍寶漢江、織笊籬與大

宗師擊揚與奪此段。從上體裁。莫不皆爾、要須滴水滴凍、不拘朝野。陶
冶煆煉、如曹山摩詰老龎。乃可以不廢悲願。不亦宜乎、自餘人間世。紛
紜塵坌。何足置胸次哉。

贊曰。心空敢問超然。既是空室無人。喚誰作賊。賊來要打底。又是誰。

李彌遜 克勤禪師法嗣

侍郞李彌遜號普現居士。少時讀書五行俱下。年十八中鄕擧、登第京
師。旋歷華要。至二十八歲爲中書舍人。參圓悟。一日蚤朝、回至天津橋、
馬躍忽有省。通身汗流。直造天寧。適悟出門、遙見便喚曰。居士、且喜大
事了畢。遜厲聲曰。和尙眼花作麼。悟便喝。遜亦喝。於是機鋒迅捷、凡與
悟問答。當機不讓。及遷吏部。方在壯歲、遽乞祠祿、皈閩連江築庵自娛、
一日示微恙、索湯沐浴畢趺坐。作偈曰。謾說從來牧護、今日分明呈露、
虛空撲倒須彌。說甚向上一路、擲筆而逝。

贊曰。見馬躍而有省。不是和尙眼花、却是侍郞眼花、直饒撲倒須彌也

是眼中金屑。

張浚 克勤禪師法嗣

張魏公浚。字德遠。南軒之父。官右僕射兼知樞密院事。嘗問道於圓悟。悟曰。巖頭云。却物爲上。逐物爲下。若能於物上轉得疾。一切立在下風。復示偈曰。收光攝彩信天眞。事事圓成物物新。內若有心還有物。何能移步出通津。浚伏膺投偈曰。敎外單傳佛祖機。本來無悟亦無迷。浮雲散盡青天在。日出東方夜落西。

贊曰。國一禪師云。出家乃大丈夫之事。非將相之所能爲。張德遠出將入相。而又與聞單傳之旨。非大丈夫而何。雖然向上一著。還曾夢見也未。

馮楫 佛眼清遠禪師法嗣

馮楫字濟川。遂寧人。壯歲徧參。後依佛眼遠。一日同眼經行法堂。偶童子趯庭吟曰。萬象之中獨露身。眼拊楫背曰。好聻。楫於是契入。詔與丁

已除給事。會大慧就明慶開堂。慧下座。楫挽之曰。和尚每言於士大夫前曰。此生決不作這蟲豸。今日因甚却納敗闕。慧曰。盡大地是箇杲上座。儞向甚處見他。楫擬對。慧便掌。楫曰。是我招得。時群寮失色。楫大笑曰。長老與楫佛法相見。越月特丐祠。坐夏徑山。榜其室曰不動軒。一日慧陞座。舉藥山問石頭曰。三乘十二分敎。某甲麤知。承聞南方直指人心見性成佛。實未明了。伏望慈悲示誨。頭曰。恁麼也不得。不恁麼也不得。恁麼不恁麼總不得。儞作麼生。山罔措。頭曰。子緣不在此。可往江西見馬大師去。山至馬祖處。亦如前問。祖曰。有時敎伊揚眉瞬目。有時不敎伊揚眉瞬目。有時敎伊揚眉瞬目者是。有時敎伊揚眉瞬目者不是。儞如何會。山大悟。慧拈罷。楫隨至方丈曰。適來和尚被舉底因緣。某理會得了。曰。儞如何會。曰。恁麼也不得。囌嚧娑婆訶。不恁麼也不得。悉唎娑婆訶。恁麼不恁麼總不得。囌嚧悉唎娑婆訶。慧印之。以偈曰。梵語唐言。打成一塊。咄哉俗人。得此三昧。楫後知卭州。所至宴晦無倦。嘗自詠曰。公事之

餘喜坐禪。少曾將脇到床眠。雖然現出宰官相。長老之名四海傳。二十三年秋。預報親知。期以十月三日報終。至日令後廳置高座。見客如平時。辰巳間。降階望闕肅拜。請漕使攝印事。着僧衣履踞高座。囑官吏道俗。各宜向道扶持教門。建立法幢。漕使請曰。安撫去住如此自繇。何不留一頌以表罕聞。揖張目索筆書曰。初三十一。中九下七。老人言盡。龜哥眼赤。書畢。拈拄杖按膝而化。揖嘗以建炎後名利敎藏。多燬於兵。給俸補印。凡一百二十八歲。有偈曰。我賦耽痴癖。視財等盧空。不作子孫計。不爲聲色娯。所得月俸給。惟將贖梵書。庶使披閱者。咸得入無餘。古佛爲伴侶。尙乃捨全軀。是以不惜財。開示諸迷途。借問惜財者。終日較錙銖。無常忽到日。寧免生死無。

贊曰。馮濟川不動軒。千尋雪嶺。萬丈寒潭。咦。着甚來繇。佛眼會中竊得些小活計。一齊斷送徑山老漢。

往生集云。馮揖初訪道禪林。晚年專崇淨業。作西方文彌陀懺儀。後帥瀘南。率道俗作繫念會。蓮池本師贊曰。傳燈錄載。公初參龍門遠。次參妙喜。各有證悟。臨終刻期陞座。拈拄杖按膝脫去。其自在顯赫。宛有宗門諸大老操畧。然都不言念佛往生。何也。良繇著述家。彼此立義。爲門不同。各隨所重而已。彼重直指人心。自應專取了明心地。而略淨土。如懷玉金臺再至。圓照蓮蕊標名。皆不錄是也。此重指皈淨土。故詳其生平念佛。報盡往生。而了明心性。自在其中。如所謂既得見彌陀。何愁不開悟是也。喻如重德則顏子列德行之科。而不言政事。重才則顏子具王佐之器。而不言德行。亦爲門不同耳。淨業人。願篤信無惑。』王古字敏仲。官侍郎。嘗參黃龍晦堂。翠巖楊岐。又悟淨土法門。古祖父七世不殺。又好放生。至古乃自生疑問。小法華曰。不殺不放。一切付之無心可乎。華勵聲曰。公大錯。豈作空解耶。面前露柱亦自無心。着幾箇露柱。能救得世間一箇苦惱衆生。古始發心放一百萬命。平生精勤念佛數珠。未嘗去手。行住坐臥。悉觀想西方。

有僧神遊淨土。見古與葛蘩在焉。

張九成（妙喜宗杲禪師法嗣）

張九成字子韶。錢塘人。幼時父積書坐旁。命客就試。成置卷歛衽曰。精麤本末初無二致。勿謂紙上語不足多。下學上達。某敢以聖賢爲法。諸老驚嘆曰。眞奇童子也。十四遊郡庠。閉閤終日。寒折膠暑爍金。不越戶限。比舍生穴隙視之。則歛膝危坐。對眞大編。若與神明伍。乃相驚服而師尊之。遊京師從龜山楊時學。然心慕楊文公呂微仲諸名儒所造精妙皆從禪學中來。於是往謁寶印楚明。請問入道之要。明曰。此事惟念念不捨。久久純熟。時節一到。自然證入。復舉趙州柏樹子話。令時時提撕。久之無省。辭謁善權清。成問。此事人人有分。箇箇圓成是否。清曰。然。成曰。爲甚麼成無箇入處。清出袖中數珠示曰。此是誰底。成俛仰無對。清復袖曰。是汝底則拈取去。纔涉思惟。即不是汝底。成悚然。未幾留蘇氏館。一夕如廁因思。惻隱之心乃仁之端。忽聞蛙鳴。豁然契悟。不覺自舉云。如何是祖師西來意。庭前柏樹子。不覺大笑。汗下被體。述偈曰。春天月夜一聲蛙。撞破乾坤共一家。正恁麼時誰會得。嶺頭脚痛有玄沙。紹興初。成狀元及第。授鎭東軍簽判。遷著作郎。未幾除宗正少卿兼刑部侍郎。趙鼎罷相。成因再章求去。丁巳秋。大惠宗杲說法於徑山。成聞其語要。嘆曰。是知宗門有人。恨不一見。遂往謁。一日問格物之旨。杲曰。公只知有格物。而不知有物格。成聞之。頓領微旨。題於壁曰。子留格物。妙喜物格。欲識一貫。兩箇五百。從是參叩擊揚。得法自在。號無垢居士。辛酉因飯僧徑山。杲以無垢禪如神臂弓。遂說偈曰。神臂弓一發。透過千重甲。仔細拈來看。當甚臭皮韈。秦檜疑其議己。令言官論列。杲追牒責衡州。成編置南安軍。既謫居。談經自若。手不停披。庭石歲久足蹟依然。丙子春。蒙旨守永嘉。杲亦放還。相會於瀨州。留連欵語。聯舟東下。劇談宗要。未嘗及往事。成嘗令甥于憲拜杲。憲曰。素不拜僧。成曰。汝姑叩之。憲遂舉天命之謂性三句問杲。杲曰。凡人不知本命元辰下落。又要

率好人入火坑。如何於聖賢打頭一着不鑿破。憲曰。吾師能爲聖賢鑿破否。杲曰。天命之謂性。便是清淨法身。率性之謂道。便是圓滿報身。修道之謂教。便是千百億化身。憲以告成。成曰。子拜何辭。戊寅杲復領徑山。成曰。某每於夢中必誦語孟何也。杲擧圓覺經曰。繇寂靜故。十方世界諸如來心。於中顯現。如鏡中像。成曰。非老師莫聞此論也。成後設心六度。不爲子孫計。因取華嚴善知識。日供其二個食。以飯緇流。又嘗供十六大天。而諸供茶盂悉變爲乳。作偈曰。稽首十方佛法僧。稽首一切護法天。我今供養三寶天。如海一滴牛一毛。有何妙術能感格。試借意識爲汝說。我心與佛天無異。一塵纔起大地隔。儻或塵鎖覺圓淨。是故佛天來降臨。我欲供佛佛即現。我欲供天天亦現。佛子若或生孤疑。試問此乳何處來。孤疑即塵塵即疑。終與佛天不相似。我今爲汝掃孤疑。如湯沃雪火消冰。汝今微有疑與惑。鷂子便到新羅國。嘗頌黃龍三關曰。我手何似佛手。天下衲僧無口。縱饒撩起便行。也是鬼窟裡走。（釋不得）

我脚何似驢脚。又被黐膠粘着。翻身直上兜率天。已是遭他老鼠藥。（吐不出。）人人有箇生緣處。鐵圍山下幾千年。三災直到四禪天。這驢猶自在旁邊。（煞得工夫）

贊曰。妙喜云。無垢禪如神臂弓。神臂弓一發。透過千重甲。又曰。無垢老子一點也瞞他不得。然考當日參尋。良亦勤苦。初參寶印。再參善權。至月夜蛙鳴。恍然契悟。而猶未也。推倒臺盤。擊去火抄。而猶未也。格物物格。領微旨於畫像。入佛入魔。得自在於料棟。始自肯云。九成了未後大事。實在徑山老人處。故曰。不入驚人浪。難逢稱意魚。

李邴（宗杲禪師法嗣）

李邴字漢老。任城人。崇寧中官翰林學士。後拜參知政事。邴醉心祖道有年。聞大慧杲力排默照爲邪禪。心疑且怒。過惠觀聽。值惠方示衆擧趙州栢樹子話。垂語曰。庭前栢樹子。今日重新擧。打破趙州關。特地尋言語。敢問大衆。既是打破趙州關。爲什麼特地尋言語。良久曰。當初只

道茅長短、燒了方知地不平。邴忽領悟。謂惠曰。無老師後語、幾蹉過、別後以書咨決曰。某近扣籌室。承擊發蒙滯。忽有省入。顧惟根識暗鈍。平生學解。盡落情見。一取一捨。如衣壞絮行草棘中。適自纏繞。今一笑頓釋所疑。欣幸可量。非大宗匠委曲垂慈。何以致此。惠答書曰。示諭自到城中。着衣喫飯。抱子弄孫。色色依舊。既亡拘滯之情。亦不作奇特之想。宿習舊障。亦稍輕微。三復斯語。歡喜踊躍。此乃學佛之驗也。儻非過量大人於一笑中百了千當。則不能知吾家果有不傳之妙。若不爾者。疑怒二字法門。盡未來際終不能壞。使太虛空爲雲門口。草木瓦石皆發光明。助說道理。亦不柰何。方信此段因緣。不可傳不可學。須是自證自悟。自肯自休。方始徹頭。公今一笑。頓亡所得。夫復何言。又曰。此事極不容易。須生慚愧。始得。往往利根上智者。得之不費力。遂生容易心。便不修行。多被目前境界奪將去。作主宰不得。日久月深。迷而不返。道力不能勝業力。魔得其便。定爲魔所攝持。臨命終時。亦不得力。千萬記取。前

日之語。理則頓悟。乘悟幷銷。事非頓除。因次第行。行住坐臥。切不可忘了。其餘古人差別言句。皆不可以爲實。然亦不可以爲虛。久久純熟。自然默默。契自本心矣。不必別求殊勝奇特也。邴又具書曰。比蒙誨答。備悉深旨。邴自驗者三。一事無逆順。隨緣即應。不留胸中。二夙習濃厚。不加排遣。自爾輕微。三古人公案。舊所茫然。時復瞥地。此非自昧者。惠又答曰。不識日來隨緣放曠如意自在否。四威儀中。不爲塵勞所勝否。寤寐二邊。得一如否。於依舊處無走作否。於生死心不相續否。但盡凡情。別無聖解。公既一笑。豁開正眼。消息頓忘。得力不得力。如人飲水冷煖自知矣。然日用之間。當依黃面老子所言。刳其正性。除其助因。違其現業。此乃了事漢。無方便中眞方便。無修證中眞修證。無取捨中眞取捨也。後邴病將革。以偈寄彌光曰。曩歲曾經渡厄津。深將法力荷雲門。如今稍覺神明復。擬欲酬師不報恩。光答曰。胡床穩坐已通津。何處還尋不二門。八苦起時全體現。不知誰解報深恩。邴得報。閱罷而逝。

贊曰。一笑頓亡所得。那裡有什麼正性可剗。助因可除。現業可違。妙喜老人只管扶人上壁。不知自己脚跟下泥深數丈。

吳偉明 宗杲禪師法嗣

吳偉明字元昭。邵武人。久參眞歇。得自用三昧爲極致。嘗跋華嚴梵行品。自言。於梵行品。有悟入處。大惠見之笑曰。此人只悟得箇無梵行而已。已被邪師印破面門了也。雲門若見。須盡力救他。明遂至長樂。隨衆入室。惠曰。公所悟者。永嘉所謂豁達空撥因果。莽莽蕩蕩招殃禍耳。遂爲引梵行品中錯證據處曰。若依此引證。謂無梵行是眞梵行。則是謗大般若。入地獄如箭射。又今諸方邪說。各各自言得無上道。欺胡謾漢。將古人入道因緣。妄生穿鑿。又有一般於座主處作稗販。卓得一言半句。狐媚聾俗。臨濟曰。有一般瞎禿兵。向教乘中取意度商量成於句義。如將屎塊子口中含了。却吐與別人。明聞之心疑。當晚入室。惠擧狗子無佛性話問之。纔擬答。惠便打。遂留咨參。一日惠曰。不須呈伎倆。道須

啐地折。嚗地斷。方敵得生死。若只呈伎倆。有甚了期。即辭去。道次延平。忽然契悟。連書數頌寄惠。皆室中所問者。有曰。不是心不是佛不是物。通身一串金鎖骨。趙州親見老南泉。解道鎭州出蘿蔔。惠證偈曰。通身一串金鎖骨。堪與人天爲軌則。要識臨濟小厮兒。便是當年白拈賊。

吳潛字毅夫。號履齋。理宗朝拜相。參禪有得。嘗作大惠正法眼藏序曰。此事亘古亘今。漫天漫地。端視側視。直視橫視。開視闔視。明視暗視。無不視亦無所視。亦無無不視無所視。直敢道。謂正即離。謂法即塵。謂眼即翳。謂藏即塞。是故這四箇字。直須撇向大洋海裡。方免擔枷帶索。受人圈繢。然雖如此。初機鈍根也要得一則半則胡言漢語。覷來覷去。綻些光景。此時正好。棄命捨身。單鎗直進。如老鼠入牛角。挨墻搨壁。更無去處。正迷悶中猛忽地頭破額裂。通身流汗。得箇休歇。始知法眼。惠眼。天眼。佛眼。只是一雙凡眼。到這裡說道學人事畢。也且未在。履齋老子即說偈言。若以色見我。以音響求我。是人行邪道。不能見如來。潛後爲

賈似道所排謫循州。宿楓亭接待寺。語僧曰。昔文殊告世尊曰。我初入不思議三昧。繫心一緣。所謂繫心一緣。如日觀月觀。眉間毫相。與鼻準白之類。事雖淺近。理實幽微。如趙州云老僧十二時。惟粥飯二時是雜用心。溈山問懶安云。汝十二時當作何務。安云。牧牛。溈云。作麽生牧。安曰。一回入草去。驀鼻拽將來。此皆繫心一緣也。自後尊宿。又生巧妙方便。令學者看箇話頭。如狗子佛性。麻三斤。乾屎橛。青州布衫。庭前栢子之類。都是理路不通處。敎人取次看一則。看來看去。疑來疑去。十二時中常不放捨。忽然鼻孔噴地一下。即是當人安身立命處。此皆繫心一緣之證據也。潛於法門得大自在。其在循州。預知亡日。語人曰。吾將逝矣。夜必雷雨。已而果然。作詩端坐而逝。」呂正已。官顯謨學士。參長蘆仁禪師。問。衣裡藏珠是甚麼人。仁起抖擻曰。一物也無。已唯唯。仁贈偈曰。君今親切到長蘆。抖擻衣衫一物無。此去逢人如有問。但云風急浪花麤。已答偈曰。鍼芥相投夙有緣。千年孤立雪庭寒。禪人若問前程事。萬里長安到不難。仁肯之。」張鎡號約齋。官直秘閣學士。聞鐘聲悟道。偈曰。鐘一擊耳根塞。赤肉團邊去箇賊。有人問我解何宗。舜若多神面門黑。」呂本中字居仁。官侍讀。嘗致書問大惠禪要。惠答書曰。千疑万疑。只是一疑。話頭上疑破。則千疑万疑一時破。若一向問佛人語如何。祖語又如何。諸方老宿語又如何。永劫無悟時也。中自是有省。」陸游字務觀。自號放翁。官待制。嘗問松源嶽禪師曰。心傳之學。可得聞乎。嶽曰。既是心傳。豈從聞得。游領解。呈偈曰。幾度驅車入帝京。逢僧一例眼雙青。今朝始覺禪家別。說有談空要眼聽。」尤袤字延之。梁谿人。紹興中進士。聞釋氏出世之法。見歸宗禪師。欲謀隱計。朱元晦寄詩有逃禪公勿遽。且畢區中緣之句。出守台州。孝宗臨軒親遣曰。南台有何勝槩。曰。太平洪福。國清萬年。上曰。聞石橋應身是五百强漢。時忽出現。卿以何法處之。袤執拳曰。臣有金剛王寶劒在。上喜。書遂初老人四字賜之。到台以慈愛涖民。官至禮部尚書。謚文簡。」葉適字則正。號水心。官

寶謨學士。嘗以佛書條項。多相反處亦不少。往問石巖璉。璉曰。佛以戒定惠爲宗。心境不感諸緣。水流花開。鳶飛魚躍。皆吾性眞。要在千差一照。事理渾融。日久月深。眞空妙智。自印本心矣。若能收視返聽。心外原無別物。不必問條項多言相反也。適繇是知皈。一陳貴謙。官樞密使。答眞西山問禪書畧曰。所問話頭。合看與否。予謂一念無生。全體是佛。何處更有話頭。祗因背覺合塵。念々生滅。佛祖方便。令咬嚼無義味語。然須徹見自已本地風光。方爲究竟。此雖人人本有。但妄想所覆。若不痛加煆煉。終不明淨。

贊曰。一串金鎖骨。正眼看來。也是屎塊子。○吳履齋。呂居仁。呂正已。張約齋。陸放翁。尤延之。葉水心。陳貴謙。皆出入儒佛。宋以後何示現說法者之多耶。

劉彦修 宗杲禪師法嗣

劉子羽字彦修。出知永嘉。問道大惠。惠曰。僧問趙州。狗子還有佛性也無。趙州道。無。但恁麼看。羽後乃於栢樹子上發明。頌曰。趙州栢樹太無端。境上追尋也大難。處々綠楊堪繫馬。家々門首透長安。惠嘗答書曰。老龐曰。心如境亦如。無實亦無虛。有亦不管。無亦不拘。不是聖賢。了事凡夫。若眞箇作得箇了事凡夫。釋迦達磨。是甚麼泥團土塊。三乘十二分敎。是甚麼熱椀鳴聲。公既於此門中自信不疑。不是小事。要須生處放敎熟。熟處放敎生。始與此事少分相應耳。往往士大夫。多於不如意中。得箇瞥地處。却於如意中打失了。不可不使公知。在如意中。須時時以不如意中時節在念。切不可暫忘也。但得本莫愁末。但知作佛。莫愁佛不解語。這一着子。得易守難。切不可忽。須敎頭正尾正。擴而充之。然後推已之餘以及物。

黃彦節 宗杲禪師法嗣

黃彦節字節夫。號妙德。於大惠一喝下。疑情頓脫。惠以衣付之。嘗舉首山竹篦話。至葉縣近前奪得。拗折擲向堦下曰。是甚麼。山曰。瞎。節曰。妙

賈似道。所排謫循州。宿楓亭接待寺。語僧曰。昔文殊告世尊曰。我初入
不思議三昧。繫心一緣。所謂繫心一緣。如日觀月觀。眉間毫相。與鼻準
白之類。事雖淺近。理實幽微。如趙州云老僧十二時。惟粥飯二時是雜
用心。溈山問懶安云。汝十二時當作何務。安云。牧牛。溈云。作麼生牧。安
曰。一回入草去。驀鼻拽將來。此皆繫心一緣也。自後尊宿。又生巧妙方
便。令學者看箇話頭。如狗子佛性。麻三斤。乾屎橛。青州布衫。庭前栢子
之類。都是理路不通處。教人取次看一則。看來看去。疑來疑去。十二時
中常不放捨。忽然鼻孔噴地一下。即是當人安身立命處。此皆繫心一
緣之證據也。潛於法門得大自在。其在循州。預知亡日。語人曰。吾將逝
矣。夜必雷雨。已而果然。作詩端坐而逝。 呂正已。官顯謨學士。參長蘆
仁禪師。問。衣裡藏珠是甚麼人。仁起抖擻曰。一物也無。已唯唯。仁贈偈
曰。君今親切到長蘆。抖擻衣衫一物無。此去逢人如有問。但云風急浪
花麤。已答偈曰。鍼芥相投夙有緣。千年孤立雪庭寒。禪人若問前程事。

萬里長安到不難。仁肯之。 張鎡號約齋。官直秘閣學士。聞鐘聲悟道。
偈曰。鐘一擊耳根塞。赤肉團邊去箇賊。有人問我解何宗。舜若多神面
門黑。 呂本中字居仁。官侍讀。嘗致書問大惠禪要。惠答書曰。千疑万
疑。只是一疑。話頭上疑破。則千疑万疑一時破。若一向問佛人語如何。
祖語又如何。諸方老宿語又如何。永劫無悟時也。中自是有省。 陸游
字務觀。自號放翁。官待制。嘗問松源嶽禪師曰。心傳之學。可得聞乎。嶽
曰。既是心傳。豈從聞得。游領解。呈偈曰。幾度驅車入帝京。逢僧一例眼
雙青。今朝始覺禪家別。說有談空要眼聽。 尤袤字延之。梁谿人。紹興
中進士。聞釋氏出世之法。見歸宗禪師。欲謀隱計。朱元晦寄詩有逃禪
公勿遽。且畢區中緣之句。出守台州。孝宗臨軒親遣曰。南台有何勝槩。
曰。太平。洪福。國清。萬年。上曰。聞石橋應身是五百強漢。時忽出現。卿以
何法處之。袤執拳曰。臣有金剛王寶劍在。上喜。書遂初老人四字賜之。
到台。以慈愛莅民。官至禮部尚書。謚文簡。 葉適字則正。號永心。官

寶謨學士。嘗以佛書條項多相反處亦不少。往問石巖璉。璉曰。佛以戒定慧爲宗。心境不感諸緣。水流花開。鳶飛魚躍。皆吾性眞。要在千差一照。事理渾融。日久月深。眞空妙智。自印本心矣。若能收視返聽。心外原無別物。不必問條項多言相反也。適繇是知皈。一陳貴謙。官樞密使。答眞西山問禪書畧曰。所問話頭。合看與否。予謂一念無生。全體是佛。何處更有話頭。祗因背覺合塵。念々生滅。佛祖方便。令咬嚼無義味語。然須徹見自已本地風光。方爲究竟。此雖人人本有。但妄想所覆。若不痛加煆煉。終不明淨。

贊曰。一串金鎖骨。正眼看來。也是屎塊子。〇吳履齋。呂居仁。呂正已。張約齋。陸放翁。尤延之。葉水心。陳貴謙。皆出入儒佛。宋以後何示現說法者之多耶。

劉彥修 宗杲禪師法嗣

劉子羽字彥修。出知永嘉。問道大慧。慧曰。嘗問趙州。狗子還有佛性也無。趙州道。無。但恁麼看。羽後乃於栢樹子上發明。頌曰。趙州栢樹太無端。境上追尋也大難。處々綠楊堪繫馬。家々門首透長安。慧嘗答書曰。老龐曰。心如境亦如。無實亦無虛。有亦不管。無亦不拘。不是聖賢。了事凡夫。若眞箇作得箇了事凡夫。釋迦達磨。是甚麼泥團土塊。三乘十二分敎。是甚麼熱椀鳴聲。公既於此門中自信不疑。不是小事。要須生處放敎熟。熟處放敎生。始與此事少分相應耳。往往士大夫。多於不如意中得箇瞥地處。却於如意中打失了。不可不使公知。在如意中須時時以不如意中時節在念。切不可暫忘也。但得本莫愁末。但知作佛。莫愁佛不解語。這一着子。得易守難。切不可忽。須教頭正尾正。擴而充之。然後推已之餘以及物。

黃彥節 宗杲禪師法嗣

黃彥節字節夫。號妙德。於大慧一喝下。疑情頓脫。慧以衣付之。嘗舉首山竹篦話。至葉縣近前奪得。拗折擲向堦下曰。是甚麼。山曰。瞎。節曰。妙